章	項目	特記事項

① 一般共通事項

① 電気保安技術者
② 施工中の安全確保及び環境保全

(※)適用する (1.3.3)

建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱を参考に、工事中の安全計画を施工計画書に記載し、監督員の承諾を得ること。 (1.3.10)

③ 技能士 (1.5.2)

適用工事種別	技能検定の職種	適用工事種別	技能検定の職種
鉄筋工事	・鉄筋組立て作業	左官工事	・左官作業
コンクリート工事	・型枠工事作業	建具工事	・ビル用サッシ施工作業
鉄骨工事	・とび作業		・自動ドア施工作業
	・構造物鉄工作業		・ガラス工事作業
既製コンクリート工事	・コンクリートブロック工事作業	カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業
	・ＡＬＣパネル工事作業	塗装工事	・木工塗装作業
防水工事	・アスファルト防水工事作業		・建築塗装作業
	・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業	内装工事	・壁装作業
	・アクリルゴム系塗膜防水工事作業		・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱工事作業
	・合成ゴム系シート防水工事作業		・建築フィルム作業
	・塩化ビニル系シート防水工事作業		・プラスチック系床仕上げ工事作業
	・セメント系防水工事作業		・カーペット系床仕上げ工事作業
	・シーリング防水工事作業		・木質系床仕上げ工事作業
	・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業		・ボード仕上げ工事作業
	・ＦＲＰ防水工事作業	舗装工事	・溶融ペイントハンドマーカー工事作業
石工事	・石張り作業		・加熱ペイントハンドマーカー工事作業
	・石積み作業	植栽工事	・造園工事作業
タイル工事	・タイル張り作業	その他	・ウェルポイント工事作業
木工事	・大工工事作業		・れんが積み作業
屋根及びとい工事	・内外装板金作業		・建築配管作業
	・かわらぶき作業		・カーテン工事作業
金属工事	・溶融亜鉛めっき作業		・押出成形セメント工事作業
	・鋼製下地工事作業		

④ 建築材料等

本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。

なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿」（最新版）によるほか、これと同等のものとする。

ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。

また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって品質・性能の確認があったものとすることができる。

(※)使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量は全てＦ☆☆☆☆とする。

⑤ 特別な材料の工法

公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（以下、「標仕」という。）に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の指定工法による。

⑥ 設計ＧＬ
⑦ 条件明示項目

(※)図示　・設計ＧＬ＝現状ＧＬ

② 仮設工事

① 仮囲い　(・)図示　・協議による
② その他の仮設　(・)図示　・協議による
③ 敷地の現況確認　(・)工事着手前に埋設物等の状況を図面、敷地状況等により確認のうえ、その状況を監督員に報告する。 (2.2.1)
④ 足場その他 (2.2.4)

足場を設ける場合には、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省　平成２１年４月）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。

定置する足場及び作業構台の類は、別契約の関係受注者に無償で使用させる。

⑤ 仮設物の撤去　工事完成までに構内の工事用仮設物を取除き、撤去跡及び付近の清掃、地均しをする。 (2.4.1)

③ 土工事

① 埋戻し及び盛土　種別　・Ａ種　(※)Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 (3.2.3)(表3.2.1)
② 地均し　工事範囲の周囲、幅２ｍ程度を水はけよく地均しを行う。 (3.2.4)

④ 地業工事

① 試験杭　(※)構造図による (4.2.2)
2 杭の載荷試験　※ 構造図による (4.2.3)
③ 地盤の載荷試験　(※)構造図による (4.2.4)
④ 既製コンクリート杭地業　(※)構造図による（建築基準法に基づく指定又は認定を受けたもの） (4.3.1～4.3.9)
5 鋼杭地業　※ 構造図による (4.4.1～4.4.7)
6 場所打ちコンクリート杭地業　コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.1)(表4.5.1)
（　）種かつ（　）Ｎ／mm2以上
構造体強度補正値（Ｓ） (4.5.4)
※ 行う　３Ｎ／mm2　・行う（　）Ｎ／mm2　・行わない
鉄筋の種類　※ 構造図による
堀削工法　・アースドリル工法　(※ 安定液使用　・無水堀削) (4.5.5)
・リバース工法
・オールケーシング工法　(孔内の水張　・行う　・行わない)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6)
・拡底杭工法　(※ 安定液使用　・　)
・
孔壁測定　・行う（　）　※ 行わない (4.5.5)
⑦ 砂利地業　(※)再生クラッシャラン　・切込砂利及び切込砕石 (4.6.2)(4.6.3)
⑧ 捨コンクリート地業　施工箇所　(※)図示　厚み　※ ５０mm　・　mm (4.6.4)
⑨ 床下防湿層　施工箇所　(※)図示 (4.6.5)

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類　(※)構造図による (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び名 (mm)	
・ＳＤ２９５	※ Ｄ１６以下	ＪＩＳ Ｇ ３１１２
・ＳＤ３４５	※ Ｄ１９以上　・	ＪＩＳ Ｇ ３１１２
・		
・		

② 鉄筋の継手　(※) 構造図による　柱、梁の主筋　※ ガス圧接　・重ね継手　・機械式継手　・溶接継手 (5.3.4)
その他　・ガス圧接　※ 重ね継手　・機械式継手　・溶接継手
③ 鉄筋の継手の位置　(※)倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図による。 (5.3.4)
④ 鉄筋の最小かぶり厚さ　(※)構造図による　最小かぶり厚さは目地底から算定する。 (5.3.5)(表5.3.6)
耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	標仕表5.3.6の値に加える寸法(mm)
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※ １０　・

⑤ 最上階柱頭補強　(※)構造図による　※ 行う（図示）　・行わない
⑥ 帯筋　(※)構造図による　※ Ｈ形　・Ｗ－１形　・ＳＰ形 (倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図)
⑦ 壁開口部の補強　(※)構造図による　一般壁　・Ａ形　※ Ｂ形　・図示 (倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図)
耐震壁　※ 図示
⑧ 梁貫通孔の補強形式　(※)構造図による　※ Ｈ形　・Ｍ形　・ＭＨ形　・図示 (倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図)
⑨ ガス圧接継手　(※)構造図による　技能資格者　※ 適用する (5.4.2)
圧接完了後の試験　※ 外観試験　※ 超音波探傷試験　・引張試験 (5.4.10)
10 溶接金網　径　・４φ　・５φ　・６φ (5.2.2)
寸法　・100ｘ100　・150ｘ150

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの種類　(※)構造図による　コンクリートの種類　※ 普通コンクリート　・軽量コンクリート (6.2.1)
コンクリートの類別　※ Ⅰ類　・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1)
② 普通コンクリートの設計基準強度　(※)構造図による (6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2)

設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm2）	スランプ	施工箇所
※ ２４　・	・１５cm　※ １８cm	
・２１　・	・１５cm　※ １８cm	
・１８　・	※ １５cm　・１８cm	

③ コンクリートの材料　セメント　(※)普通ポルトランドセメント (6.3.1)(6.13.2)(6.15.2)(表6.3.1)
(・)高炉セメントＢ種
・
骨材　アルカリシリカ反応による区分 (6.3.1)(6.5.4)
※ Ａ
・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Ｒｔ＝３．０Ｋｇ／m3以下）
混和材料　※ 混和剤　・混和材 (6.3.1)(6.3.2)
④ 構造体強度補正値（Ｓ）　下記表は，普通ポルトランドセメント又は暑中コンクリートを使用した場合を示す
普通ポルトランドセメント(6.3.2)(表6.3.2)，暑中コンクリート(6.12.1)(6.12.2)

	打込みから材齢28日までの予想平均気温の範囲（普通ポルトランドセメント、混合セメントのＡ種）		暑中コンクリートの適用期間
	８℃以上	０℃以上８℃未満	２５℃超
	構造体強度補正値(Ｓ)(Ｎ／mm2)		構造体強度補正値(Ｓ)(Ｎ／mm2)
	３	６	６
・倉敷市(旧市域)	２月２７日～１１月２３日	１１月２４日～２月２６日	７月１日～９月１０日
・倉敷市(旧船穂町)	２月２７日～１１月２３日	１１月２４日～２月２６日	７月２日～９月１０日
・倉敷市(旧真備町)	２月２７日～１１月２３日	１１月２４日～２月２６日	７月２日～９月１０日

5 無筋コンクリート　設計基準強度　※１８Ｎ／mm2 (6.14.1)
スランプ　※１５cm　・１８cm
⑥ コンクリート躯体表面の処理　外装タイル後張り面の躯体表面の処理
ＭＣＲ工法は、せき板面にＭＣＲ工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上り面は凹凸状態とする。
高圧水洗工法の目荒しは、水圧３０～７０ＭＰａ程度とし、施工計画書を監督員に提出し、承諾を受ける。
また、目荒しの状態は、高圧水洗処理に先立ち試験施工を行い、目荒しの状態について監督員に承諾を受ける。
コンクリートの増打ち厚さ　※１０mm　・
⑦ 打放し仕上の種別 (6.2.5)(表6.2.4)

種別	施工箇所
・Ａ種	
(・)Ｂ種	基礎、屋根
・Ｃ種	

8 軽量コンクリート　種類　・１種　・２種 (6.10.1)(表6.10.1)

設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm2）	スランプ	施工箇所
・	※ ２１cm　・	

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場　(※)監督員の承諾する製作工場 (7.1.3)
② 施工管理技術者　(※)適用する (7.1.4)
③ 鋼材　(※)構造図による (7.2.1)
④ スカラップ　(※)構造図による　※ 改良型スカラップ　・ノンスカラップ　・従来型スカラップ (7.6.7)
⑤ エンドタブ　(※)構造図による　・鋼製エンドタブ　・フラックスタブ
切断する箇所（　）
⑥ 高力ボルト　※トルシア形高力ボルト　(・)ＪＩＳ形高力ボルト　・溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2)(7.12.4)(7.12.5)
⑦ 溶接部の試験　ＡＯＱＬ　(※)４．０％　・２．５％ (7.6.12)
検査水準　(※)第６水準　・第（　）水準 (7.6.12)(表7.6.2)

試験の種別	試験箇所	検査者
(※)外観試験	全数	(※)製作工場　(・)第三者機関
(・)超音波探傷試験	完全溶込み溶接部	(※)製作工場　(・)第三者機関
(・)浸透探傷試験	隅肉溶接部（監督員の指示する箇所）	(※)製作工場　(・)第三者機関

⑧ デッキプレートの溶接方法　(※)構造図による
9 耐火被覆 (7.9.2～7.9.9)

種別		所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式吹付ロックウール	
	・	
・耐火板張り	・	
・その他	・	

⑩ アンカーボルトの保持及び埋込み工法　(・)構造用アンカーボルト　((※)構造図による) (7.10.3)(表7.10.1)
・建方用アンカーボルト　(・Ａ種　※Ｂ種)
⑪ 柱底均しモルタル工法　(※)Ａ種　・Ｂ種 (7.2.9)(表7.10.2)
厚み　(※)構造図による
無収縮モルタルの製造所　評価名簿による
⑫ 軽量形鋼構造　ボルトの接合方法　・高力ボルト　(・)普通ボルト (7.11.2)
⑬ 溶融亜鉛めっき工法 (7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
Ａ　種	最低板厚６mm以上の形鋼、鋼板	
Ｂ　種	最低板厚３．２mm以上、６mm未満の形鋼、鋼板	
Ｃ　種	普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚１．６mm以上、３．２mm未満の形鋼、鋼板	

溶融亜鉛めっき作業はＪＩＳマーク表示認証工場で行う
付着量試験　(※)行う　・行わない
摩擦面の処理　(※)ブラスト処理　(・)リン酸処理

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 建築用コンクリートブロック　補強コンクリートブロック造　※ 空洞ブロック１６　・空洞ブロック１６－Ｗ (8.2.2)
帳壁及び塀　※ 標仕表８．３．１及び下表による (8.3.2)
・

適用箇所			厚さ（mm）
・間仕切壁　・地下二重壁　・外壁			・
・塀	高さ	２ｍ以下	※ １２０　・
		２ｍを超える	※ １５０　・
・衛生配管用裏積みブロック（空洞ブロック０８）			・１００　・

2 ＡＬＣパネル　各部配筋　※ 図示 (8.4.2～8.4.7)(表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)

種類	単位荷重(Ｎ／m²)	耐火性能（時間）	厚さ（mm）	取付け工法種別
・外壁パネル	・	・	※ １００　・	・Ａ種　・Ｂ種
・間仕切壁パネル	・	・	※ １００　・	・Ｃ種　・Ｄ種　※ Ｅ種
・屋根パネル	・	・	※ １００　・	※ Ｆ種
・床パネル	・	・	・１００　・１５０	

3 押出成形セメント板　種類　無石綿タイプ (8.5.2～8.5.5)(表8.5.1)(表8.5.2)

施工箇所	表面形状	耐火性能（時間）	厚さ（mm）	取付け工法種別
(・)外壁	(※)フラットパネル	(・)1時間耐火性能	(・)60mm	(・)Ａ種
	・デザインパネル（図示）	・	・	・Ｂ種
	・タイルベースパネル	・	・	
・間仕切壁	※ フラットパネル	・	・	・Ｂ種
	・デザインパネル（図示）	・	・	・Ｃ種
	・タイルベースパネル	・	・	

製造所　評価名簿による
二次防水仕様　(※)適用する　（(※)図示　・製造所の標準仕様）
・適用しない
アイカテック建材　押出成形セメント板メース　フラットパネル縦張り（1時間耐火）　働き幅900mm
（工場塗装色品指定色N90）　同等品以上

構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

	倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
図名	構造特記仕様書　縮尺 A1：－　A3：－
	株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号
代表となる設計者	一級建築士登録336930号　日下部　晃之
設計担当	中田　櫻井
令和8年 3月作成	図番　S-01

一 般 事 項

1．建物概要　工事名称　ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
建築場所　倉敷市児島元浜町88-36、786-1、783-2、外5筆 地内
用　途　集会所
階　数　地上 1階　地下 0階　塔屋 0階
構造種別　鉄骨造（Ｓ造）
構造形式　桁行方向：純ラーメン構造、 張間方向：純ラーメン構造
基準レベル　設計GL(Z0)＝TP+1.84m
地下水位　Z0-1.55＝TP+0.29m

2．構造設計条件
検証法　□ 許容応力度計算　■ 許容応力度等計算　□ 保有水平耐力計算　□ 限界耐力計算
□ エネルギーの釣合いに基づく耐震計算法　□ 特別な検証法（時刻歴応答解析）:性能評価建物
計算ルート　桁行方向：ルート２、 張間方向：ルート２

地震力　標準せん断力係数 C_0 = 0.2　地域係数 Z = 0.9
重要度係数・用途係数 I = 1.00　（ ■1次設計時 □ 2次設計時）
（ □壁量算定時）
地盤種別 ： 2種　振動特性係数 R_t = 1.00 （□ 精算 ■ 略算）
風圧力　基準風速V_0 = 32 m/sec　地表面粗度区分 ： Ⅱ
積雪荷重　■ 一般地域　□ 多雪地域
垂直積雪量d = 30.0 cm　積雪の単位重量ρ = 20 N/m²/cm

3．適用図書　公共建築協会「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」令和７年版
上記図書に記載されていない事項は日本建築学会「建築工事標準仕様書」(着工時の最新版)

4．使用材料
(1) コンクリート

適用	適用場所		種　類	設計基準強度 Fc (N/mm²)	ｽﾗﾝﾌﾟ(cm) (ｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ)	気乾単位容積質量 (t/m³)	備　考
■	捨コンクリート		普通	■ 18	15	2.3	N
□	場所打ちコンクリート杭		普通	□ 24 □ 27 □ 30	18		N
□	ラップルコンクリート		普通	□ 18 □ 21	15		N
■	土間コンクリート		普通	■ 18 □ 21 □ 24	15	2.3	N
■	躯体	基礎、基礎梁、Z1床スラブ	普通	■ 24 □ 27 □ 30 □ 33	15	2.3	N
		ZR床スラブ	普通	■ 24 □ 27 □ 30 □ 33	18	2.3	N
■	設備基礎		普通	□ 21 ■ 24	18	2.3	N
■	押えコンクリート		普通	■ 18	15	2.3	N

凡例：(N：普通ポルトランドセメント，BB：高炉セメントB種，M：中庸熱ポルトランドセメント，L：低熱ポルトランドセメント)

(2) 鉄筋

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 JIS G 3112	■ SD295	D10～D16	せん断補強筋、床スラブ、	■ 重ね継手
	■ SD345	D19～D25	柱・大梁・小梁主筋	■ ガス圧接継手　□ 重ね継手*2
	■ SD390	D29～D32	柱・大梁主筋	□ 機械式継手 （ A級継手 ）
	■ SD490	D25～D29	アンカーボルト(ネジ節鉄筋)	□ 突合せ溶接継手（ A級継手 ）
高強度せん断補強筋	□ KSS785*1	S13、S16	柱・梁せん断補強筋	
	□ SBPD1275*1	U12.6、U15		
溶接金網 JIS G3551	□ 6φ			
開先付き異形棒鋼	□ WSD390*1	WD32J、WD38J	杭頭補強筋	
	□ WSD490*1	WD41J		

*1 KSS785　大臣認定品　(認定番号:MSRB-0036同等品以上)
SBPD1275　大臣認定品　(認定番号:MSRB-9009)
WSD390　大臣認定品　(認定番号:MSRB-0118)
WSD490　大臣認定品　(認定番号:MSRB-0120) ※WD32J、WD35J、WD38J
(認定番号:MSRB-0108、MSRB-0119、MSRB-0129) ※WD41J
a)定着金物：指定性能評価機関の評定取得品とする。

*2 使用箇所は以下とする。
□ 壁筋　□ 基礎筋　□ 開口補強筋

(3) 鉄骨

適用	材質	使用箇所	備　考
■	SN400B	大梁、片持ち梁、小梁	JIS G 3136
□	SN400C		
■	SN490B	大梁、内ダイアフラム、ベースプレート	
■	SN490C	トッププレート、通しダイアフラム	
□	SM400A		JIS G 3106
■	SM490A	大梁(中央部材)	
■	SS400	小梁、ガセットプレート、リブプレート	JIS G 3101
□	BCP325		大臣認定品　(認定番号：　)
□	BCP235		大臣認定品　(認定番号：　)
■	BCR295	柱	大臣認定品　(認定番号：　)
□	STK400		JIS G 3444
□	STKR400		JIS G 3466
■	STKN490B	柱、間柱	JIS G 3475
■	SSC400	下地材	JIS G 3350
■	TMPCP325B	ベースプレート	t>40 大臣認定品(認定番号：　)
■	TMPCP325C	ベースプレート	t>40 大臣認定品(認定番号：　)
□	TMPCP355C		t>40 大臣認定品(認定番号：　)

(4) ボルト

適用		規格等級・材質	備　考
■	高力ボルト	JIS B 1186 2種A(F10T)	
■	トルシア形高力ボルト	JSS Ⅱ 09 2種(S10T)	大臣認定品
■	亜鉛めっき高力ボルト	1種A(F8T)	大臣認定品
□	アンカーボルト（ダブルナット付き）	JIS G 3138 SNR400B	JIS B 1220 ABR490
□		JIS G 3138 SNR490B	
■		JIS G 3101 SS400	
■	頭付きスタッドボルト	JIS B 1198	16φ、19φ h=100
□	建築用ターンバックル	JIS A 5540、5541	S-ST-S

(5) デッキプレート

適用		規格等級・材質	備　考
■	床型枠用鋼板	JIS G 3302 SGCC、SGHC	
□	合成スラブ構造デッキプレート	JIS G 3352 SDP2G	耐火構造認定を取得したもの。

5．基礎形式　杭基礎　杭種 ：既製コンクリート杭（SC杭、PRC杭、PHC杭）
杭工法：プレボーリング拡大根固め工法(大臣認定工法)

6．地 業

場 所	捨てコンクリート	砕 石	備 考
基礎、基礎梁、Z1床スラブ	50 mm	60 mm	
土間コンクリート	―	60 mm	

7．鉄筋記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
表示記号	● (小)	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎

8．ボルトの記号

種 別	呼び径	記 号	備 考
高力ボルト	M 16	-●- ・ ◆	F 10T S 10T
	M 20	⊖ ・ ⦶	
	M 22	＋	
	M 24	⊕	
溶融亜鉛めっき高力ボルト	M 16	⚹ ・ ⚹	F 8T
	M 20	✳	
	M 22	◆	
	M 24	⊠	
アンカーボルト	各詳細図に特記する		

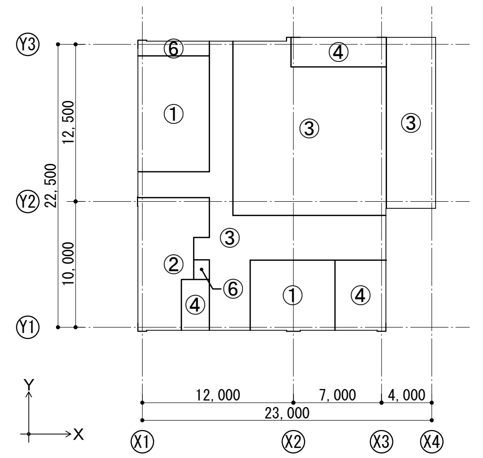
9．鉄骨詳細図における用語の定義
本設計図で使用する用語は関連ＪＩＳ及び日本建築学会編「建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事」及び「鉄骨工事技術指針」によるほか下記による。

F.PL:フランジプレート　D.PL:水平スチフナプレート　Fill.PL:フィラープレート　P.PL:仕口パネルプレート
W.PL:ウェブプレート　S.PL:スプライスプレート　A.BL:アンカーボルト
T.PL:トッププレート　B.PL:ベースプレート　G.PL:ガセットプレート

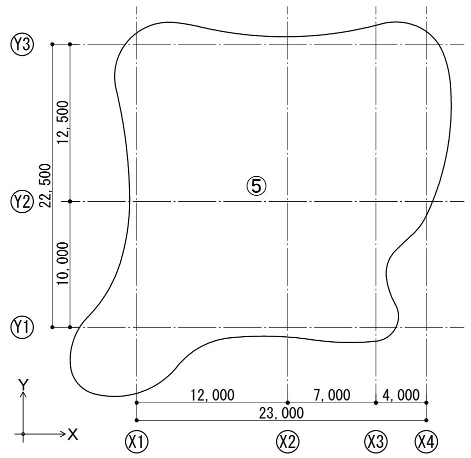
１０．令第129条の2の3の事項
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
■ 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、構造耐力上主要な部分に緊結すること。
□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
　■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
　■ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
　■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生じるおそれがある場合においては、伸縮継手又は可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
　■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いて等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
□ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
■ 給湯設備*は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成24年国土交通省告示第1447号第5に規定する構造方法によること。
＊「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

上記事項について構造関係規定に適合することを確認した。

積載荷重表　(1/300)



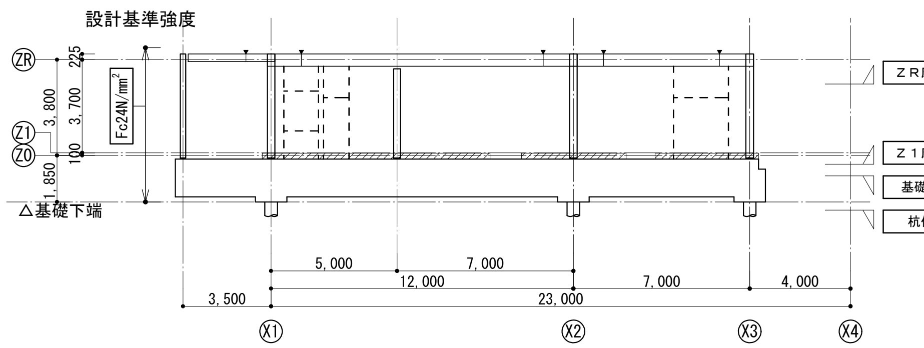
Ｚ１



ＺＲ

符 号	室　名	床ｽﾗﾌﾞ用	小梁用	大梁用	地震荷用
①	トイレ、授乳室、更衣室	1,800	1,800	1,300	600
②	管理事務室、警備員控室	2,900	2,900	1,800	800
③	多目的スペース、デッキスペース、エントランス、廊下	3,500	3,500	3,200	2,100
④	倉庫	3,900	3,900	2,900	2,000
⑤	非歩行屋根	1,000	1,000	600	400
⑥	設備機器置場	4,900	4,900	2,400	1,300

ＫＥＹ ＳＥＣＴＩＯＮ　(1/150)



構造設計者:一級建築士登録　第316092号　中田 亨
構造設計一級建築士交付　第　8811号

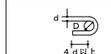
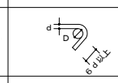
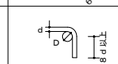
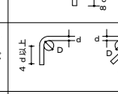
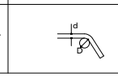
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室	
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
図名	一般事項　縮尺 A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号	
代表となる設計者：一級建築士登録336930号 日下部 寛之	設計担当：中田　櫻井
令和8年 3月作成	図番 S-02

倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

§１　一般共通事項

１．１　鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295 D16以下	SD295 D19～D38	SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	使用箇所
180°		3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上		柱・梁の主筋及び杭基礎のベース筋並びにＤ１６以上の鉄筋
135°						あばら筋、帯筋、スパイラル筋、Ｄ１３以下の鉄筋
90°						Ｔ形及びＬ形の梁のあばら筋
135°及び90°						幅止め筋
90°以下		4ｄ以上(5ｄ以上)	6ｄ以上(6ｄ以上)	8ｄ以上(8ｄ以上)		その他の鉄筋

（注）１．Ｄは、曲げ内法直径
　　２．ｄは、呼び名に用いた数値
　　３．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で９０°フック又は１３５°フックを用いる場合には、余長は４ｄ以上とする。
　　４．ＳＤ３９０は、（　）内を適用する。

１．２　鉄筋の継手

（１）鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（「鉄筋の継手の構造方法を定める件」（平成12年5月31日　建設省告示第1463号）に適合する機械式継手）とし、適用は特記による。

（２）鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)７．６．５[部材の組立](４)及び７．６．７[溶接施工]格者に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。

（３）重ね継手は、次による。

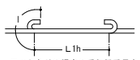
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

１）柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。特記がなければ４０ｄ(軽量コンクリートの場合は５０ｄ)と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。

２）１）以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度Ｆｃ(Ｎ/mm2)	Ｌ1(フックなし)	Ｌ1h(フックあり)
SD295	１８	４５ｄ	３５ｄ
	２１	４０ｄ	３０ｄ
	２４、２７	３５ｄ	２５ｄ
	３０、３３、３６	３５ｄ	２５ｄ
SD345	１８	５０ｄ	３５ｄ
	２１	４５ｄ	３０ｄ
	２４、２７	４０ｄ	３０ｄ
	３０、３３、３６	３５ｄ	２５ｄ
SD390	２１	５０ｄ	３５ｄ
	２４、２７	４５ｄ	３５ｄ
	３０、３３、３６	４０ｄ	３０ｄ

（注）１．Ｌ1、Ｌ1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
　　２．フックありの場合のＬ1hは、下図に示すようにフック部分ｌを含まない。
　　３．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

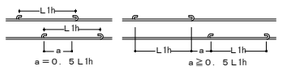
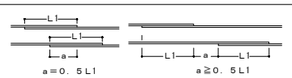
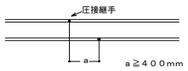
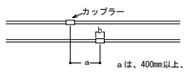


フックありの場合の重ね継手長さ

１．３　隣り合う継手の位置

（１）隣合う継手の位置は下記表による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。

なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

重ね継手	フックありの場合	 a＝０．５Ｌ1h　a≧０．５Ｌ1h
	フックなしの場合	 a＝０．５Ｌ1　a≧０．５Ｌ1
圧接継手	―	 a≧４００mm
機械式継手	―	 aは、400mm以上、かつ、(b+40)mm以上

１．４　鉄筋の定着

１．４．１　鉄筋の定着の長さ

（１）鉄筋の定着の長さは、下記表により、適用は特記による。

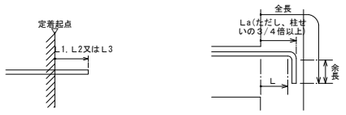
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度Ｆｃ(Ｎ/mm2)	フックなし Ｌ1	Ｌ2	Ｌ3 小梁	Ｌ3 スラブ	フックあり Ｌ1h	Ｌ2h	Ｌ3h 小梁	Ｌ3h スラブ
SD295	１８	４５ｄ	４０ｄ	２０ｄ	１０ｄかつ１５０mm以上	３５ｄ	３０ｄ	１０ｄ	―
	２１	４０ｄ	３５ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	２４、２７	３５ｄ	３０ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
	３０、３３、３６	３５ｄ	３０ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
SD345	１８	５０ｄ	４０ｄ			３５ｄ	３０ｄ		
	２１	４５ｄ	３５ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	２４、２７	４０ｄ	３５ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	３０、３３、３６	３５ｄ	３０ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
SD390	２１	５０ｄ	４０ｄ			３５ｄ	３０ｄ		
	２４、２７	４５ｄ	４０ｄ			３５ｄ	３０ｄ		
	３０、３３、３６	４０ｄ	３５ｄ			３０ｄ	２５ｄ		

（注）１．Ｌ1、Ｌ1h：２．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
　　２．Ｌ2、Ｌ2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
　　３．Ｌ3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。）
　　なお、片持小梁及び片持ちスラブの場合は、20ｄ及び10ｍを25ｄ以上とする。
　　４．Ｌ3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
　　５．フックあり定着の場合は、１．４．２に示すようにフック部分ｌを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
　　６．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

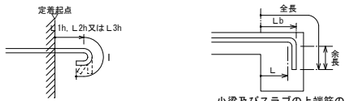
１．４．２　定着の方法

（１）定着の方法は下図による。

（２）仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さＬが、１．４．１のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を１．４．１に示す直線定着の長さ以上とし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては原則として柱せいの３／４倍以上)をのみ込ませる。



フックなし　　梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ



フックあり　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

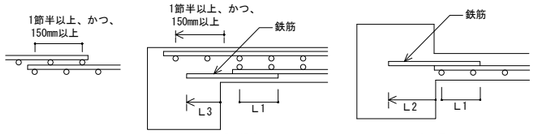
（イ）直線定着　　（ロ）折曲げ定着

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度Ｆｃ(Ｎ/mm2)	La	Lb
SD295	１８	２０ｄ	１５ｄ
	２１	１５ｄ	１５ｄ
	２４、２７	１５ｄ	１５ｄ
	３０、３３、３６	１５ｄ	１５ｄ
SD345	１８	２０ｄ	２０ｄ
	２１	２０ｄ	２０ｄ
	２４、２７	２０ｄ	１５ｄ
	３０、３３、３６	１５ｄ	１５ｄ
SD390	２１	２０ｄ	２０ｄ
	２４、２７	２０ｄ	２０ｄ
	３０、３３、３６	２０ｄ	１５ｄ

（注）１．Ｌa：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
　　２．Ｌb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
　　３．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

１．４．３　溶接金網の継手及び定着

（１）溶接金網の継手及び定着は下図による。なお、Ｌ1は１．４．２に、Ｌ2及びＬ3は、１．４．１による。



重ね継手　　スラブの場合　　壁の場合

１．５　鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

１．５．１　鉄筋の最小かぶり厚さ

（１）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。

（２）貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。

（３）柱、梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ・耐力壁以外の壁	仕上げあり		２０
		仕上げなし		３０
	柱 梁 耐力壁	屋内	仕上げあり	３０
			仕上げなし	３０
		屋外	仕上げあり	３０
			仕上げなし	４０
	擁壁、耐圧スラブ			４０
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			*４０
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			*６０
煙突等高熱を受ける部分				６０

（注）１．*印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
　　２．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）を除く。
　　３．スラブ、梁、基礎及び擁壁で直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
　　４．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
　　５．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

１．５．２　鉄筋の間隔

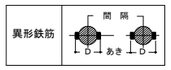
（１）鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。

１）粗骨材の最大寸法の１．２５倍

２）２５mm

３）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値）の１．５倍

４）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは上記（１）～（３）のうち最大のもの以上とする。



（注）Ｄ：鉄筋の最大外径

§２　基礎及び基礎梁の配筋

２．１　基礎の配筋

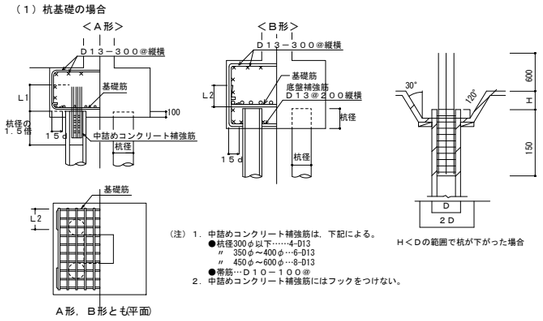
２．１．１　一般事項

（１）杭基礎のはかま筋は縦筋、横筋ともＤ１３－３００@を標準とする。

（２）地業の種別及び厚さは特記する。ただし捨コンクリート厚さ５０mm、砂利地業厚さ６０mmを標準とする。

２．１．２　基礎の配筋及び杭頭補強の方法

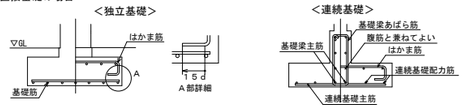
（１）杭基礎の場合



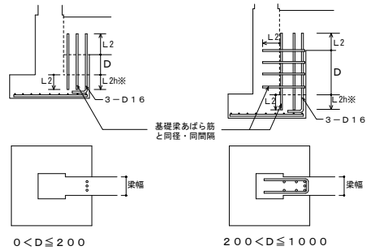
Ａ形，Ｂ形とも(平面)　　Ｈ＜Ｄの範囲で杭が下がった場合

（注）１．中詰めコンクリート補強筋は、下記による。
　　●杭径300φ以下……4-D13
　　〃　350φ～400φ…6-D13
　　〃　450φ～600φ…8-D13
　　●帯筋…Ｄ１０－１００@
　　２．中詰めコンクリート補強筋にはフックをつけない。

（２）直接基礎の場合



２．２　基礎接合部の補強



０＜Ｄ≦２００　　２００＜Ｄ≦１０００

※Ｌ2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

２．３　基礎梁筋の継手、定着及び余長

２．３．１　一般事項

（１）梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。

ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図２．３．１による。

（２）梁筋を柱内に定着する場合は、４．１．１(3)による。

（３）継手中心位置は図２．３．２の斜線部分とする。

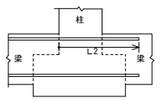
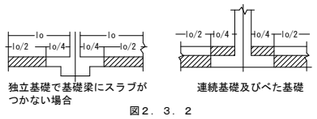


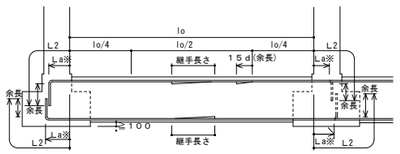
図２．３．１



独立基礎で基礎梁にスラブがつかない場合　　連続基礎及びべた基礎

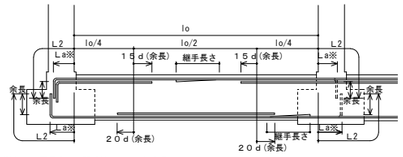
図２．３．２

２．３．２　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



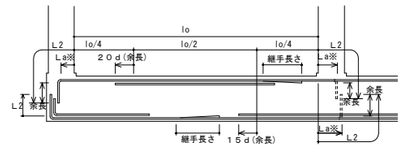
（注）１．図示のない事項は、４．１による。
　　２．　印は、継手及び余長位置を示す。
　　３．破線は、柱内定着の場合を示す。
　　※　Ｌａの数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。

２．３．３　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合（耐圧スラブが付く場合は、２．３．４による）



（注）１．図示のない事項は、４．１による。
　　２．　印は、継手及び余長位置を示す。
　　３．破線は、柱内定着の場合を示す。
　　※　Ｌａの数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。

２．３．４　連続基礎及びべた基礎の場合

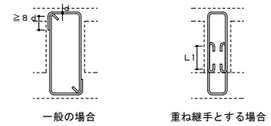


（注）１．図示のない事項は、４．１による。
　　２．　印は、継手及び余長位置を示す。
　　３．破線は、柱内定着の場合を示す。
　　※　Ｌａの数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。

２．４　基礎梁のあばら筋

（１）あばら筋組立の形及びフックの位置は、４．２．２による。

（２）梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが１．５m以上の場合は、下図によることができる。



一般の場合　　重ね継手とする場合

§３　柱

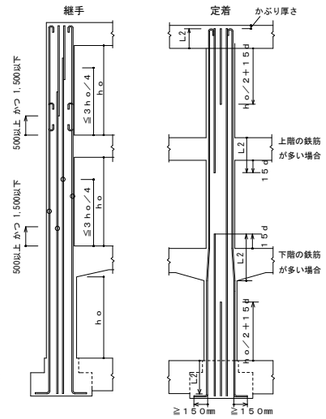
３．１　柱筋の継手及び定着

３．１．１　一般事項

（１）継手中心位置は、梁上端から500mm以上1,500mm以下、かつ３ｈｏ／４（ｈｏは柱の内法高さ）以下とする。

（２）柱頭定着長さＬ2が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。

（３）柱頭柱主筋は、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。



（注）１．隣り合う継手の位置は１．３の表による。
　　２．柱の四隅にある主筋で、重ね継手に場合及び最上階の柱頭にある場合はフックを付ける。

３．２　帯筋

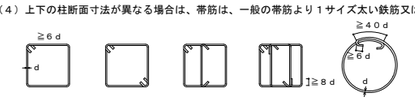
３．２．１　帯筋

（１）帯筋の種類及び間隔は、特記による。

（２）帯筋組立の形は、特記がなければ、下記による。

（３）フック及び継手の位置は、交互とする。

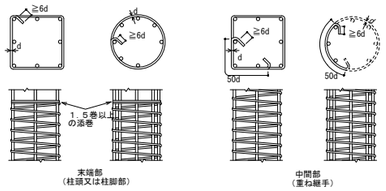
（４）上下の柱断面寸法が異なる場合は、帯筋は、一般の帯筋より１サイズ太い鉄筋又は同径のものを２本重ねたものとする。



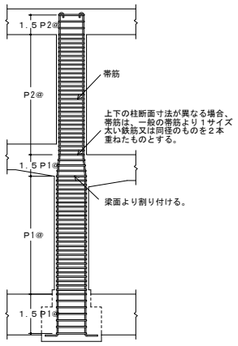
構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

工事名	倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
図名	倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１） 縮尺 A1：― A3：―
	株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号
代表となる設計者	一級建築士登録336930号 日下部　覚之
設計担当	中田 / 櫻井
令和8年 3月作成	図番 S-03

（5）スパイラル筋の継手及び定着



（6）柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を１．５Ｐ１＠又は１．５Ｐ２＠とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、Ｐ１＠、Ｐ２＠は、特記された帯筋の間隔を示す。



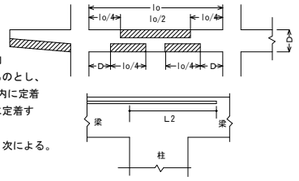
帯筋の割付

§４　梁

４．１　大ばり筋の継手、定着及び余長

４．１．１　一般事項

（１）継手中心位置は、下記による。
　　上端筋 － 中央lo/2以内
　　下端筋 － 柱面より梁せい（Ｄ）以上
　　離し、lo/4を加えた範囲以内

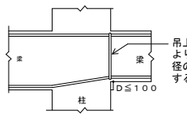


（２）梁主筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことのできない場合は、(3)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は右図による。

（３）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
　　なお、定着の方法は、１．４．２による。
　　上端筋：曲げ降ろす。
　　下端筋：原則として曲げ上げる。

（４）段違いばりは、図４．１．１によることができる。

（５）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図４．１．２の●印）にある場合はフックを付ける。
　　ただし、基礎梁を除く。



吊上げ筋は、一般のあばら筋より１サイズ太い鉄筋又は同径のものを２本重ねたものとする。

図４．１．１

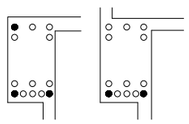
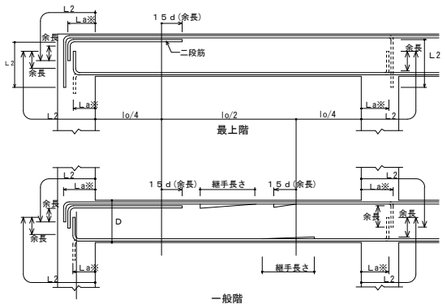


図４．１．２

４．１．２　ハンチのない場合

（１）継手中心位置は、下記による。
　　上端筋 － 中央lo/2以内
　　下端筋 － 柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、lo/4を加えた範囲以内

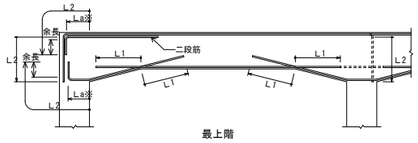
（２）４．１．１（５）で定めた鉄筋には、フックを付ける。

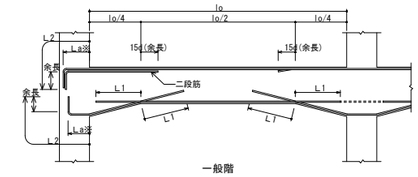


（注）１．　　印は、継手及び余長を示す。
　　２．破線は柱内定着の場合を示す。
　　※　Ｌａの数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。

４．１．３　ハンチのある場合

（１）４．１．１（５）で定めた鉄筋には、フックを付ける。





（注）１．　　印は、継手及び余長を示す。
　　２．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、‥‥‥ のように引き通すことができる。
　　３．破線は柱内定着の場合を示す。
　　※　Ｌａの数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。

４．２　あばら筋，腹筋及び幅止め筋

４．２．１　一般事項

（１）あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。

（２）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、Ｄ１０－１０００＠程度とする。

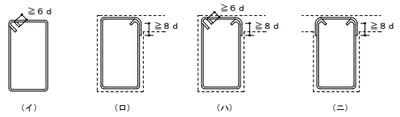
（３）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０㎜程度とする。

（４）壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ、L2とする。

４．２．２　あばら筋組立の形及びフックの位置

（１）形は、下図（イ）とする。ただし、Ｌ形梁の場合は，（ロ）又は（ハ）、Ｔ形梁の場合は、（ロ）～（ニ）とすることができる。

（２）フックの位置は、（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合は、Ｌ形ではスラブの付く側、Ｔ形では交互とする。なお、（ハ）の場合は、スラブの付く側を９０°折曲げとする。

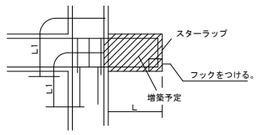


４．３　増築予定がある場合

（１）圧接の場合Ｌ＝１，０００、重ね継手の場合Ｌ＝Ｌ1+０．５Ｌ1

（２）増築取合せ部分の梁主筋は増築用梁まで延長することなく柱にアンカーする。

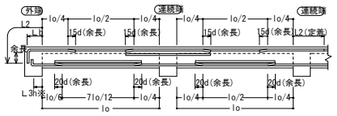
（３）下図ハッチ部分はスタイロフォームを入れてコンクリートを打設又はラスモルタルとし現場の状況に応じて指示する。



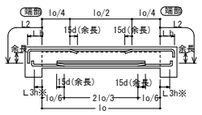
４．４　小梁及び片持ち梁

４．４．１　小梁

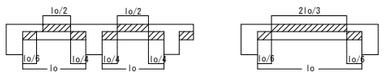
（１）連続小梁の場合



（２）梁の端部で間隔の異なる場合

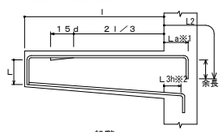


（注）１．　　印は、余長位置を示す。
　　２．図示のない事項は、基礎梁及び大ばりの項による。
　　３．継手中心位置は下図の斜線部分とする。
　　４．梁せいが小さく鉛直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
　　※　L2h、L3hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

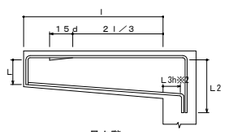


４．４．２　片持ち梁

（１）先端に小梁のない場合



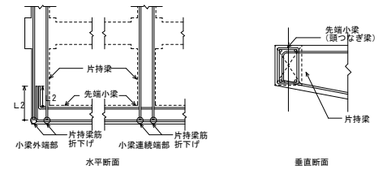
一般階



最上階

（注）１．図示のない事項は、大ばりの項による。
　　２．　　印は、余長を示す。
　　３．先端の折曲げの長さＬは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
　　※　L2h、L3hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

（２）先端に小梁がある場合



（注）１．図示のない場合は、（１）による。
　　２．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
　　３．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

§５　壁

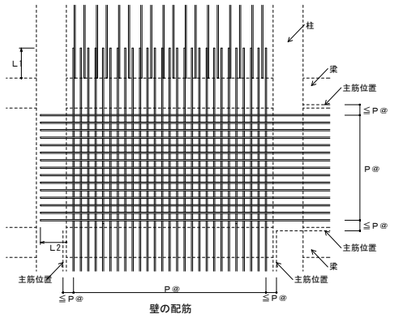
５．１　壁筋の継手及び定着

（１）壁配筋の重ね継手はL1、定着の長さはL2とする。

（２）幅止め筋は、縦横共Ｄ１０－1,000＠程度とする。

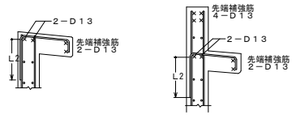
（３）原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。

（４）下図のＰ＠は、特記された壁筋の間隔を示す。

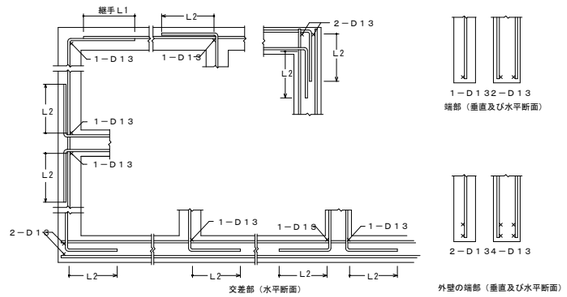


壁の配筋

５．２　パラペットの配筋



５．３　交差部及び端部の配筋



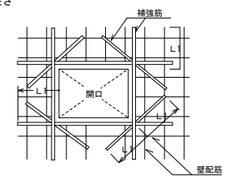
（注）（　）内は、土圧等を受ける壁等で、５．１（２）の場合を示す。

５．４　壁開口部の補強

（１）壁開口部の補強は、Ａ形又はＢ形とし、特記がなければＢ形とする。ただし、耐震壁を除く。

Ａ　形			Ｂ　形		
壁の種別	補強筋		壁の種別	補強筋	
	縦筋	斜め		縦筋	斜め
Ｗ12、Ｗ15	1－D13	1－D13	Ｗ12、Ｗ15	2－D13	1－D13
Ｗ18、Ｗ20	2－D13	2－D13	Ｗ18、Ｗ20	4－D13	2－D13

（２）壁開口部補強筋の定着長さ



（３）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

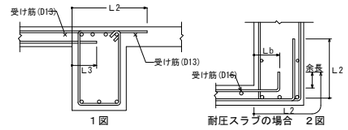
（４）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

§６　スラブの配筋

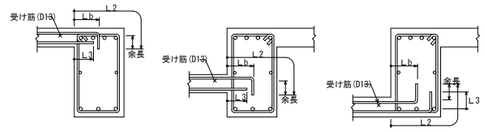
６．１　スラブ筋の継手及び定着

（１）鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。

（２）定着長さ及び受け筋は、１図による。ただし、引き通すことができない場合は、３図により梁内に定着する。



１図　　耐圧スラブの場合　２図



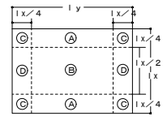
一般スラブの場合　３図

（注）※　L2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

（３）継手中心位置は下記表による。

		標準継手位置
上端筋	短辺方向	Ｂ・Ｄ
	長辺方向	Ａ・Ｂ
下端筋	両方向共	Ａ・Ｃ・Ｄ

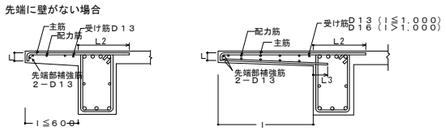
（注）１．主筋下端筋継手中心はＢ、Ｄ部分をさけること。
　　２．配力筋下端筋継手中心はＡ、Ｂ部分をさけること。



６．２　スラブの基準配筋

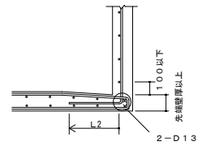
６．２．１　片持ちスラブ

（１）先端に壁がない場合

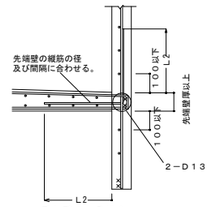


（注）１．先端の折曲げ長さＬは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
　　２．スラブに段差のない場合、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

（２）先端に壁が付く場合

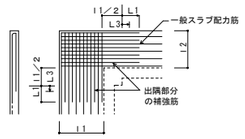


垂れ壁のない場合

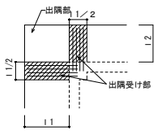


垂れ壁のある場合

６．２．２　片持ちスラブ（出隅部）



出隅部分補強配筋



出隅受け部配筋

（注）１．l1≧l2とする。
　　２．出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。

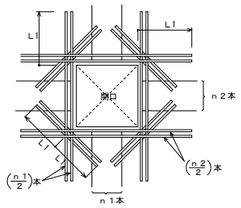
構造設計者：一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

工事名	倉敷市ポートレース事業局新施設整備推進室		
	ポートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当		令和8年 3月作成
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　岸	図番	S-04

６．３　スラブ開口部の補強

（１）スラブ開口の最大径が７００㎜以下の場合は、スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に２－Ｄ１３（Ｉ＝２Ｌ１）シングルを上下筋の内側に配筋する。

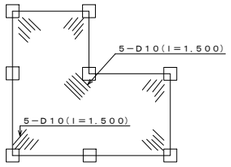
（２）スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



６．４　その他の補強

６．４．１　屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

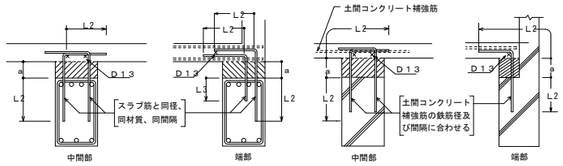


６．４．２　壁付きスラブ

（１）スラブに上端筋がなく、壁が付いている場合には、下図により補強筋を入れる。

６．４．３　土間スラブ、土間コンクリートの打継ぎ補強

（１）土間スラブの打継ぎ補強　　（２）土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



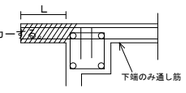
（注）１．土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
２．aが３００㎜以下の場合に限る。

６．５　増築予定がある場合

（１）縦手長さＬ＝Ｌ1＋０．５Ｌ1

（２）増築取合せ部分の床主筋は増築用床まで延長することなく梁にアンカーする。

（３）右図ハッチ部分はラスモルタルとし現場の状況に応じて指示する。



§７　梁貫通孔補強

梁貫通孔の補強はこの標準配筋により，孔の形状寸法および配筋種別は特記する。

７．１　一般事項

（１）孔の径は、梁せいの１／３以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

（２）孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より１／３Ｄの範囲に設けてはならない。

（３）孔は、柱面から、原則として、１．５Ｄ（Ｄは梁せい）以上離す。
ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。

（４）孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。

（５）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

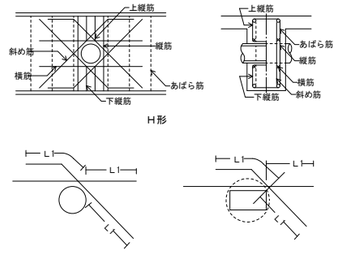
（６）補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。

（７）孔の径が梁せいの１／１０以下、かつ、１５０㎜未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（８）溶接金網の余長は１格子以上とし、突出しは１０㎜以上とする。

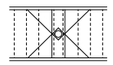
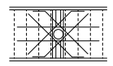
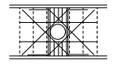
（９）溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋１－１３Φのリング筋を取り付ける。
なお、リング節は、溶接金網に４箇所以上溶接する。

（10）溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中止とする。



７．２　補強の形式と種類

Ｈ形配筋

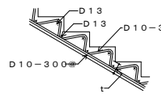
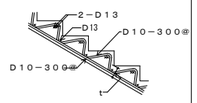
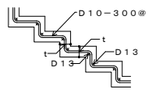
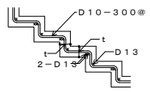
配筋種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上下縦筋	
Ｈ１	2-2-D13	な　し	な　し	な　し	
Ｈ２		2-2-D13			
Ｈ３	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
Ｈ４	4-2-D16				
Ｈ５	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
Ｈ６	4-2-D19				
Ｈ７	4-2-D22				

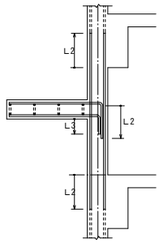
（注）---- は、一般部分のあばら筋を示す。

§８　階段の配筋

８．１　片持スラブ形階段の基準配筋

片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	ＫＡ１	ＫＡ２
配筋図		
配筋種別	ＫＡ３	ＫＡ４
配筋図		



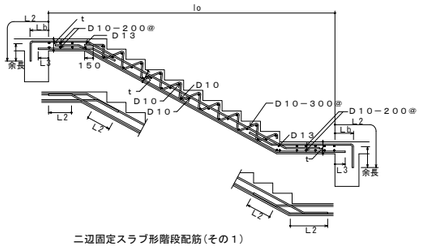
片持スラブ形階段配筋の定着

（注）１．階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
２．スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、１．４．１（２）のL3とする。

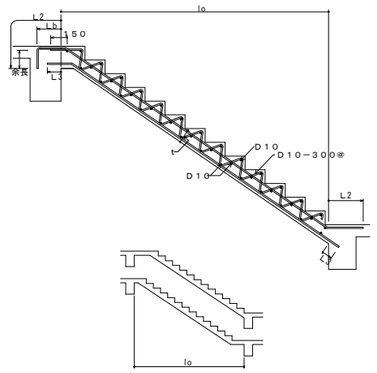
８．２　二辺固定スラブ形階段の基準配筋

二辺固定スラブ形基準配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
ＫＢ１	Ｄ１３－２００@
ＫＢ２	Ｄ１３－１５０@
ＫＢ３	Ｄ１３－１００@
ＫＢ４	Ｄ１３、Ｄ１６－１５０@
ＫＢ５	Ｄ１６－１５０@
ＫＢ６	Ｄ１６－１２５@
ＫＢ７	Ｄ１６－１００@



二辺固定スラブ形階段配筋（その１）

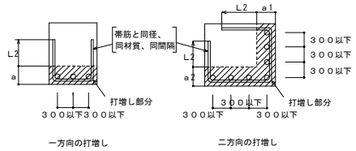


（注）１．右図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。
※　L2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

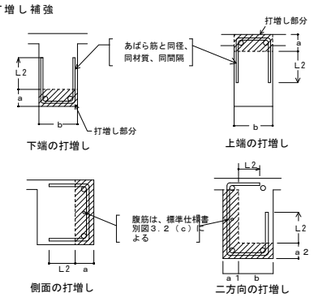
§９　その他の補強

９．１　柱の打増し補強



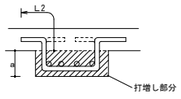
（注）１．柱の打増し幅(a、a1、a2)が７０㎜以上の場合の補強を示す。
２．帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。
３．軸方向の補強間隔は３００㎜以下とする。

９．２　梁の打増し補強



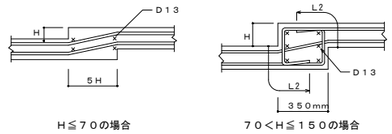
（注）１．梁の打増し幅(a、a1、a2)が７０㎜以上の場合の補強を示す。
２．あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

９．３　壁の打増し補強



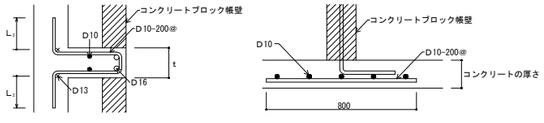
（注）１．壁の打増し幅(a)が５０㎜以上の場合の補強を示す。

９．４　段差のあるスラブの補強



（注）１．１５０㎜以下の段差のあるスラブの場合に限る。

９．５　コンクリートブロック帳壁との取合い



構造設計者：一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ポートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ポートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　塚井	図番	S-05

鉄骨構造標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）材料及び検査

（a） 構造設計特記仕様による。

（b） 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
ただし、ベースプレートの厚さは除く。

（c） 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する。

（2）工作一般

（a） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。

（b） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。

（c） 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（3）高力ボルト接合

（a） 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

（b） 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

（c） 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4）溶接接合

（a） 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。

（b） 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801（手溶接）又はJISZ3841（半自動溶接）の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。

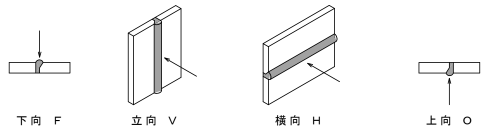
（c） 溶接機器

（イ） 交流アーク溶接機 300A～500A	（ニ） 炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ロ） アークエアーガウジング機（直流）	（ホ） 溶接電流を測定する電流計
（ハ） サブマージアーク溶接機一式	（ヘ） 溶接棒乾燥機

（d） 溶接方法

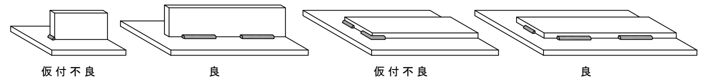
アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）　　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

（e） 溶接姿勢

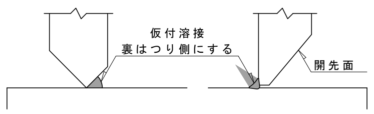


（f） 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。

（イ） 仮付位置
組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



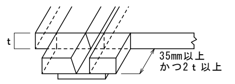
（ロ） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



（g） 溶接施工

（イ） エンドタブ

Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする。
Ⅲ）エンドタブの長さは、ＭＣ：35mm以上
ＮＧＣ，ＧＣ：40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。

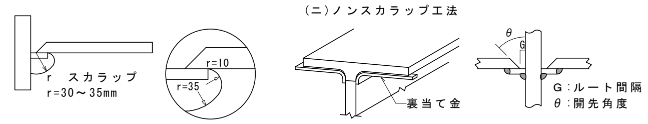


Ⅳ）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。

（ロ） 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
ただし、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。

（ハ） スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする。
ただし梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする。

（ニ）ノンスカラップ工法



（ホ）裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークを付ける。

（ヘ） 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。
また、開先部を傷めないように養生を行う。

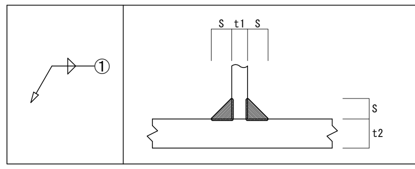
（5）塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2．溶接規準図　（注）f：余盛　G：ルート間隔　R：フェース　S：脚長

（単位mm）

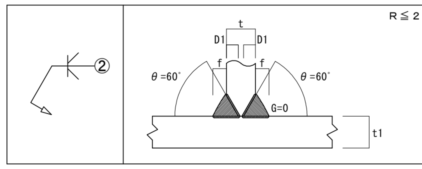
（1） 隅肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・ただし片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1、t2の小なる方とする
　余盛は（1+0.1S）mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

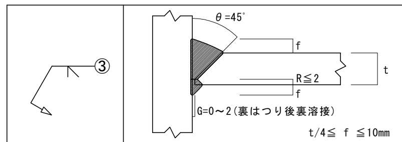
（2） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



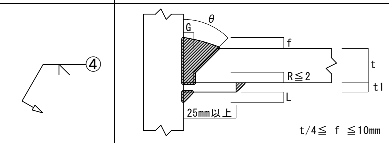
t/4≦ f ≦10mm
t≦t1

t	t＞16mm
溶接姿勢	F.V

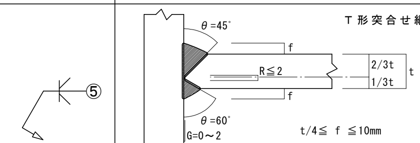
（3） 完全溶込み溶接（平継手　T形継手）



t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	F.V



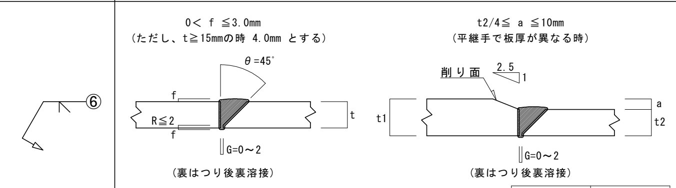
	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
G≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							



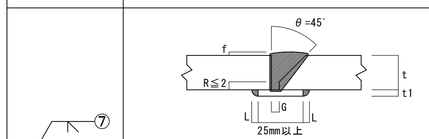
T形突合せ継手余盛

のど厚tmm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
19＜t	4

t	t≧19mm
溶接姿勢	F.V



t	6＜t≦19mm
溶接姿勢	F.V

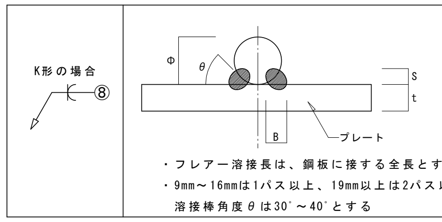


0＜ f ≦3.0mm
（ただし、t≧15mmの時 4.0mm とする）

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19＜t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（4） フレアー溶接

K形の場合

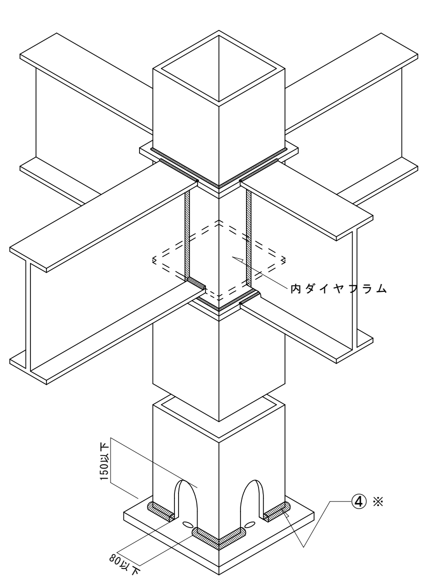


・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
　溶接棒角度θは30°～40°とする

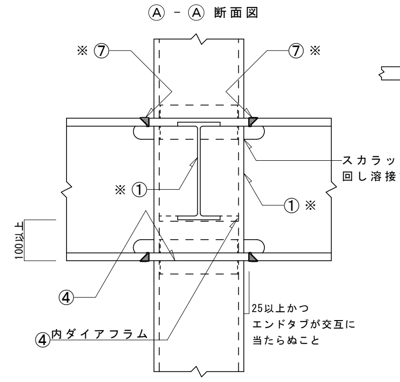
寸法（mm）		
Φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

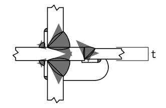
●BOX型（通しダイアフラムの場合）



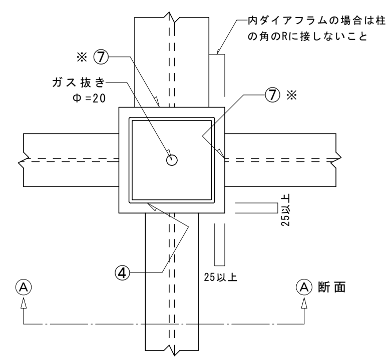
Ⓐ－Ⓐ 断面図



⑦※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み（t）の内部で溶接する事。



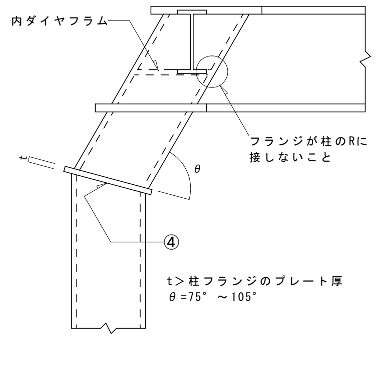
平面詳細

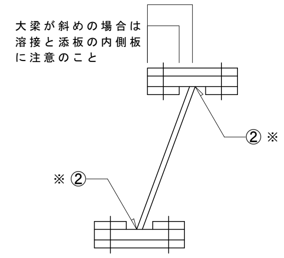


① ※ t＞16mm場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
<柱材料：BCR295、BCP325を使用する場合>
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
　　　　　　　　柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

● 柱が途中で折れる場合
及 梁成が異なる場合





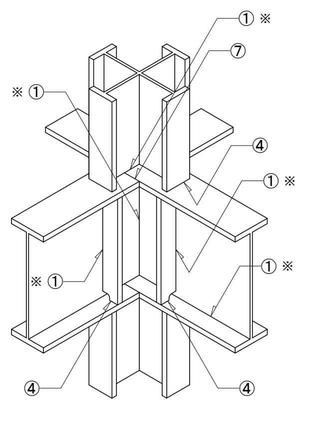
② ※ t＞16mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

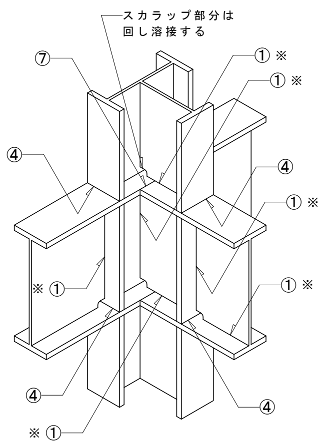
●鋼材種別による溶接条件

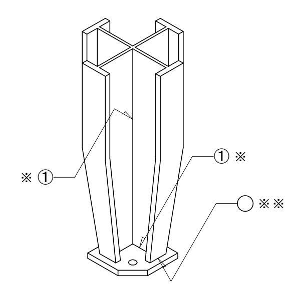
鋼材の種類	溶接材料		入熱（KJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211、3212、3214		40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15		
		YGW-18、19		
	JIS Z 3315	YGA-50W、50P		
490N級鋼	JIS Z 3212、3214		40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15	30以下	250以下
		YGW-18、19	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W、50P		

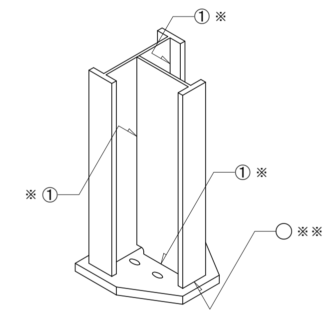
注）STKR、BCR、BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「構造設計特記仕様 6.鉄骨工事(2)口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

●┼ ├ ┤型





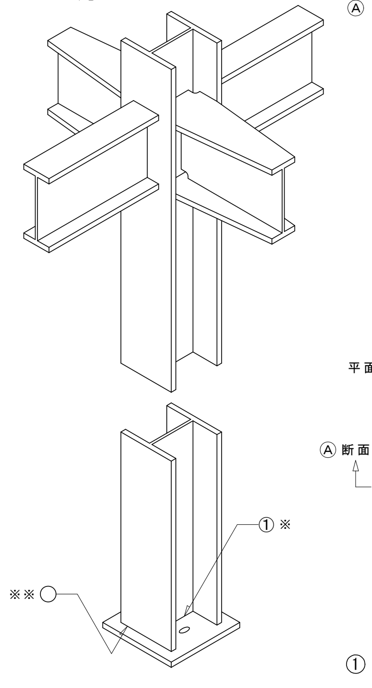




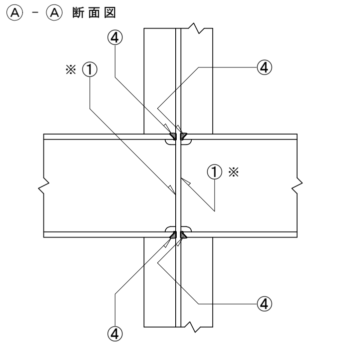
① ※ t＞16mm場合の溶接は、②又は③～⑤とする。

○ ※ ※ 印は設計者が記入すること。

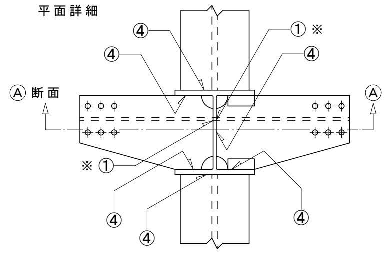
●B.H方式



Ⓐ－Ⓐ 断面図



平面詳細



① ※ t＞16mm場合の溶接は、③～⑤とする。

構造設計者：一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号 中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	鉄骨構造標準図（1）	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社 日総建 広島事務所 一級建築士事務所 広島県知事登録 25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部 寛之	中田 櫻井	図番	S-06

鉄 骨 構 造 標 準 図（2）

※修正箇所は下線を引くこと

3．継手規準図，その他

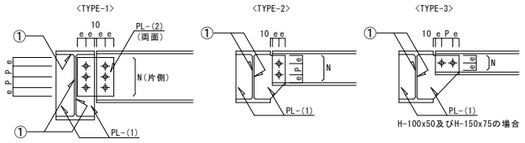
（1）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P)

ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34 以上	呼び径＋5		9d/5	4d/3			

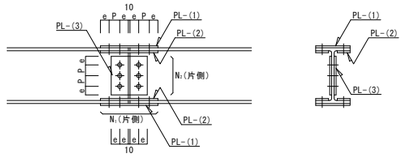
［注］(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N－径

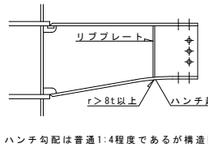
（3）剛接合梁継手リスト　(SCSS-H97による)



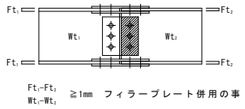
［注］端部をBHとする場合の部材は設計図による。

符　号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－径	ウエブ PL-(3)	N₂－径

（4）ハンチ部の継手



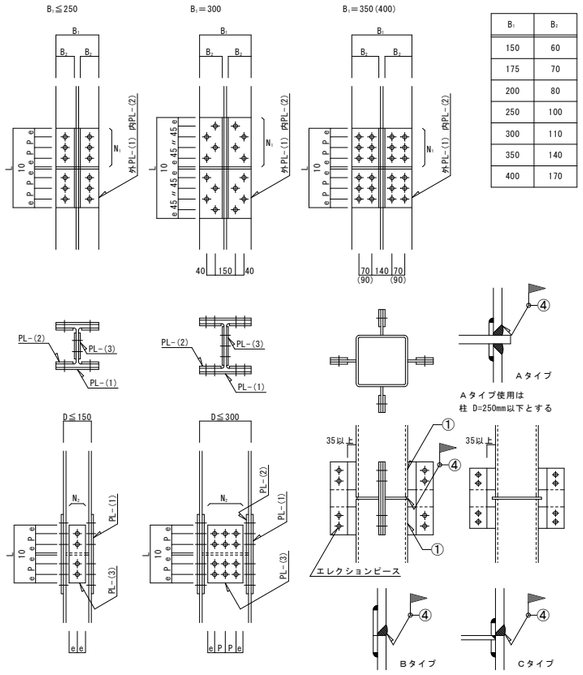
フランジ及ウエブ厚の差のある場合



Ft₁−Ft₂, Wt₁−Wt₂　≧1mm　フィラープレート併用の事

ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

（5）柱継手リスト



B₁	B₂
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注］現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符　号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－径	ウエブ PL-(3)	N₂－径

（6）鉄筋ブレース　(JIS規格品とする ･･･JIS A 5540･･･1982/5541･5542･･･2003)

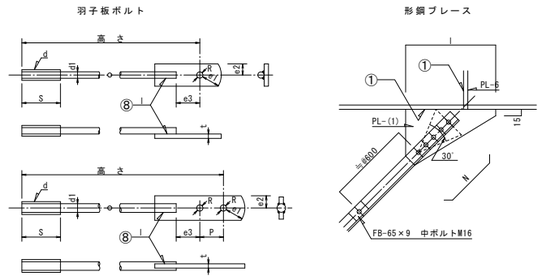
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最　大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最　小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0, −0.5mm		R	13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1)	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1)	e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき(最小)		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		l	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種　類		JIS B 1186　2種高力ボルト(S10T)						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

［注］(1) e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。

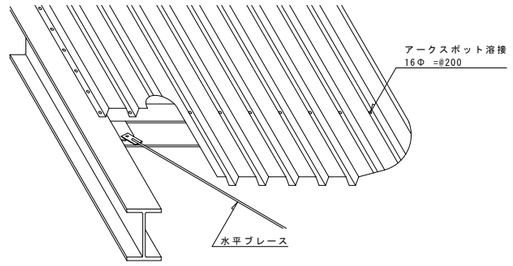
(b) 形鋼ブレース

符　号	部　材	PL-(1)	N－径	l

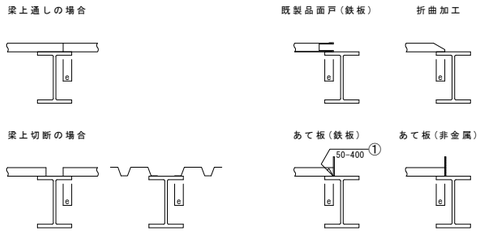


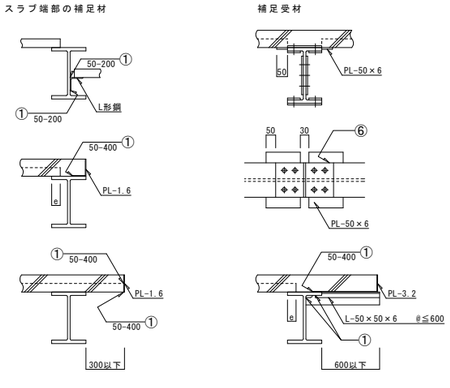
（7）デッキプレート　(床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照。)

梁との溶接およびコネクター



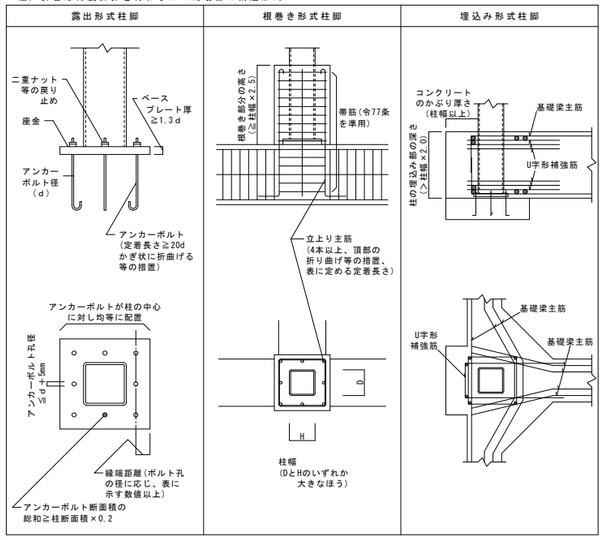
受梁へのかかり寸法及端部処理　　e≧35mm





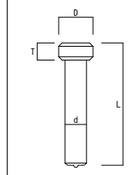
（8）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式



（9）頭付きスタッド　(JIS B 1198)

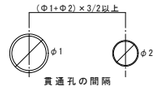
スタッド材の標準形状・寸法

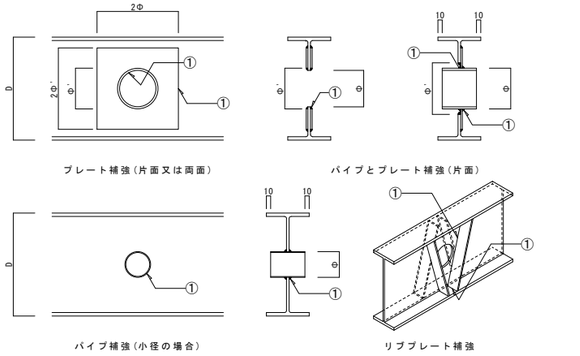


呼び名	スタッド材 軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
Φ13 mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50、80、100、130
Φ16 mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80、100、130
Φ19 mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80、100、130、150
Φ22 mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100、130、150

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部(内法スパンloの1/10以内かつ、2D以内)は避ける。
・Φ≦0.4D
・Φ'は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

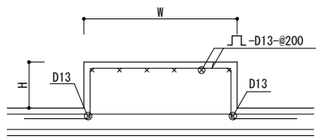
スリーブ径	補　強　板
Φ≦0.15D	補強板不要
Φ≦D/4	Web板厚以上(片面)
Φ≦D/3	Web板厚x1.2倍以上(片面)
Φ≦0.4D	Web板厚以上(両面)

構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ポートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ポートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	鉄骨構造標準図（2）	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当		令和8年 3月作成
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　塚井	図番	S-07

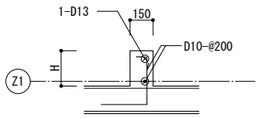
設備基礎

H≦300



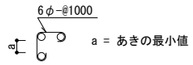
立上り

H≦300



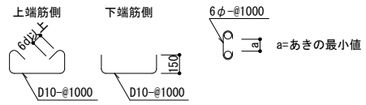
二段筋保持金物

1).柱



帯筋に添え、十分結束することによりコンクリート
打設完了までの鉄筋の保持を確実に出来るようにする。

2).梁

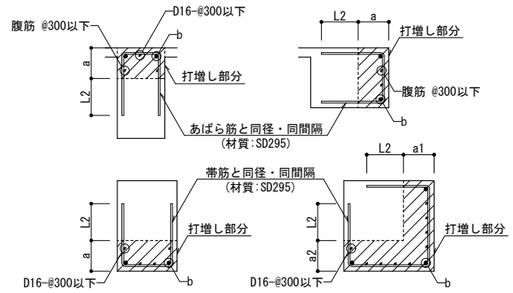


あばら筋に添え、十分結束することによりコンクリート
打設完了までの鉄筋の保持を確実に出来るようにする。

柱、梁打増し補強

1).a,a1,a2＜70の場合は補強不要

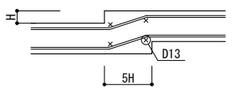
2).70≦a,a1,a2＜ $\frac{D}{2}$ の場合は下記による。



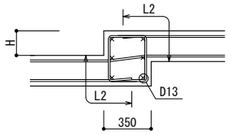
b:柱または梁の主筋がD16～D29の場合はD16、D32～D41の場合はD19とする。
D:柱幅、梁せい

段差のあるスラブの補強

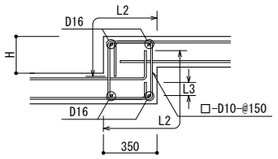
1).H≦70の場合



2).70＜H≦150の場合



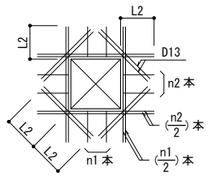
3).150＜H≦300の場合



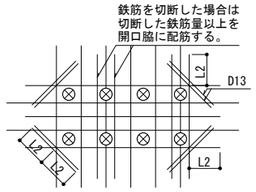
4).H>300の場合は監理者の承諾を得ること。

スラブ開口部の補強

1).開口の最大径が700mm以下の場合



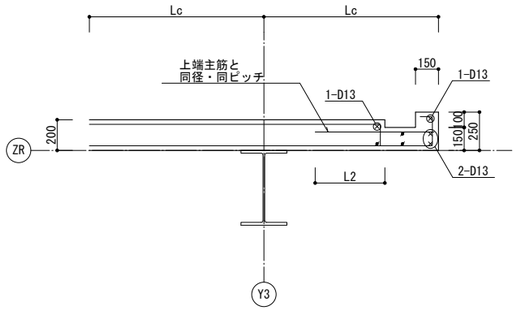
2).小開口を連続して設けた場合



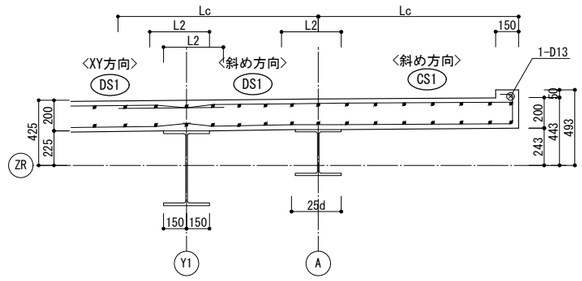
※孔と孔のへりあきは100以上とする。

3).スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、
開口部を避けて配筋出来る場合は、補強を省略することができる。

屋上跳ね出し

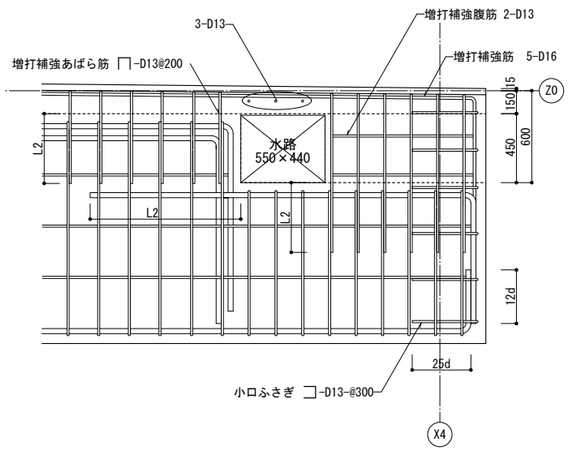


斜め方向床スラブ定着要領



斜め方向同士が取り合う場合は通し筋とする。
CS1上端主筋の定着長さは跳ね出し長さ Lcかつ L2以上 とする。
XY方向と斜め方向が取り合う場合は鉄筋の干渉を避け、配力筋より内側に定着する。

FCG1 配筋要領



構造設計者:一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号 中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	RC配筋詳細図	縮尺	A1: 1/20 A3: 1/40
株式会社 日総建 広島事務所 一級建築士事務所 広島県知事登録 25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部 寛之	中田 / 塚井	図番	S-08

F.T.Pile構法 既製コンクリート杭（標準タイプ、各種既製コンクリート杭）　BCJ評定-FD0141-06

※本標準図は参考とし、同等品以上を採用すること。

■構法概要

1．本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。

2．杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパー状のクリアランスを設ける。

3．杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの２タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

・杭　：　各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭　等）

・杭径　：　300mm～1200mm

・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）　：　普通コンクリート　設計基準強度：18～60 N/mm²

（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

■施工手順

既製コンクリート杭の施工
（各種工法による）
↓
掘　　削
↓
基礎底地盤の整地
↓
杭芯・杭頭レベルの確認
↓
FTキャップの設置
（仮止めボルトによる固定）
↓
レベルコンクリートの打設
↓
仮止めボルトの撤去
↓
基礎の配筋・型枠
↓
基礎コンクリートの打設

＊留意事項

・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。

・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパー型枠）を使用すること。

・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。

・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。

・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。

・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。

・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。

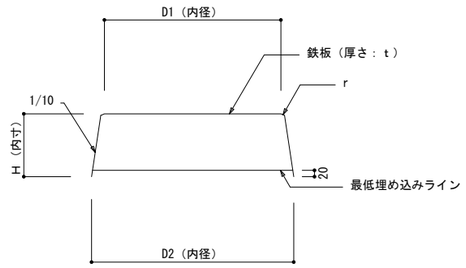
・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。

・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。

・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。

・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

■FTキャップ（テーパー型枠）仕様



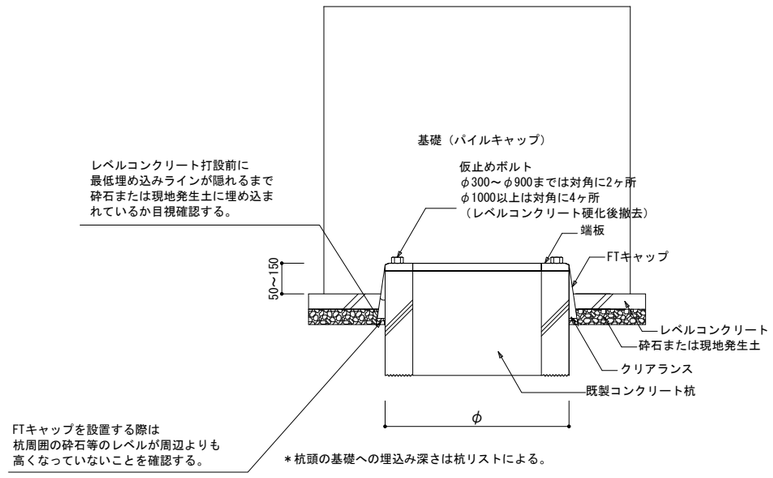
杭径：φ	鉄板厚さ：ｔ(mm)	D1(mm)	D2(mm)	H(mm)	r(mm)	W(kg)
300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
350	1.2	**351**	395	201	2.0	2.3
400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

＊FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。

・FTキャップに「FTP」の刻印があること。

・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図



＊杭頭の基礎への埋込み深さは杭リストによる。

構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

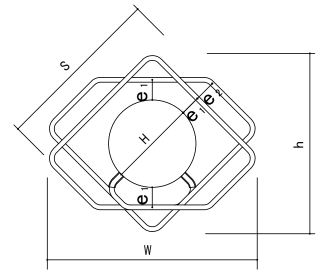
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	F.T.Pile構法 標準図	縮尺	A1：　－ A3：　－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　塚井	図番	S-09

梁貫通孔補強筋　スーパーハリーZ　Mタイプ標準図

一般財団法人日本建築センターによる一般評定
「BCJ評定-RC0224-07」（令和5年4月19日付）

※本標準図は参考とし、同等品以上を採用すること。

1. スーパーハリーZ　Mタイプ形状寸法及び重量



タイプ別e寸法一覧

TYPE	e1	e2
MA	43	43
MB	44	45
MC	46	48
MD	47	51
ME	49	55

使用材料

KSS785－K

（認定番号 MSRB-0004）

タイプ別キャップ色一覧

TYPE	キャップ色
MA	白色
MB	黄色
MC	青色
MD	緑色
ME	赤色

呼径	適用孔径 [スリーブ外径]	MA(S6)				MB(S8)				MC(S10)				MD(S13)				ME(S16)			
		h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量	h	W	S	重量
100	～114	273	334	286	1.0	272	336	292	1.6	274	342	302	2.3	272	344	310	4.1	272	350	322	6.5
125	～140	310	370	312	1.1	309	373	318	1.7	311	379	328	2.5	309	381	336	4.5	309	387	348	7.2
150	～165	345	406	337	1.2	345	408	343	1.9	346	414	353	2.8	344	416	361	4.9	345	422	373	7.9
175	～200	395	455	372	1.4	394	458	378	2.1	396	464	388	3.1	394	466	396	5.5	394	472	408	8.8
200	～225	430	491	397	1.5	429	493	403	2.3	431	499	413	3.3	429	501	421	6.0	429	507	433	9.4
225	～250	465	526	422	1.6	465	528	428	2.5	467	535	438	3.6	465	537	446	6.4	465	543	458	10.1
250	～275	501	561	447	1.7	500	564	453	2.6	502	570	463	3.8	500	572	471	6.8	500	578	483	10.8
275	～287	518	578	459	1.7	517	581	465	2.7	519	587	475	3.9	517	589	483	7.0	517	595	495	11.1
300	～325	571	632	497	1.9	571	634	503	2.9	573	641	513	4.3	571	643	521	7.6	571	649	533	12.1
325	～337	588	649	509	1.9	588	651	515	3.0	590	658	525	4.4	588	660	533	7.8	588	666	545	12.4
350	～375	—	—	—	—	642	705	553	3.3	643	711	563	4.8	641	713	571	8.5	642	719	583	13.4
400	～414	—	—	—	—	697	760	592	3.5	699	766	602	5.1	696	769	610	9.1	697	775	622	14.5
450	～465	—	—	—	—	769	832	643	3.9	771	839	653	5.6	769	841	661	10.0	769	847	673	15.8
500	～516	—	—	—	—	—	—	—	—	843	911	704	6.1	841	913	712	10.9	841	919	724	17.2
550	～550	—	—	—	—	—	—	—	—	891	959	738	6.4	889	961	746	11.4	889	967	758	18.1
600	～600	—	—	—	—	—	—	—	—	962	1030	788	6.9	960	1032	796	12.3	960	1038	808	19.4
650	～650	—	—	—	—	—	—	—	—	1032	1100	838	7.4	1030	1102	846	13.1	1030	1108	858	20.7
700	～700	—	—	—	—	—	—	—	—	1103	1171	888	7.8	1101	1173	896	14.0	1101	1179	908	22.0
750	～750	—	—	—	—	—	—	—	—	1174	1242	938	8.3	1172	1244	946	14.8	1172	1250	958	23.3

※外径H、h、W、S、eの単位はmm　重量の単位はkg/組

2. 一般事項および適用範囲

■一般事項

・施工に先立ち、補強計算書にもとづきスーパーハリーZ　Mタイプの種類、枚数の確認を行い、あばら筋、結束線の用意をする。

・製品には鉄筋径別に色分けされたアンカーキャップや製品種類を記載したラベルが取り付けてあるので間違いが無いか必ず確認する。

・製品は錆の発生、コンクリートとの付着性能を損なう物質（油、泥等）の付着を避け保管する。

■使用材料の適用範囲

コンクリート ： Fc21～67

あばら筋　SD295A,SD345,SD390,SD490（JIS G 3112）
590N/mm²級鋼,685N/mm²級鋼,785N/mm²級鋼,1275N/mm²級鋼（建築基準法第37条第二号適合品）
スーパーハリーZ　Mタイプ　KSS785-K（認定番号MSRB-0004）

■貫通孔適用範囲

(1)孔径（H）

孔径は100～750mmとし、梁せい（D）の1／3以下とする。

(2)孔位置

a)柱際から水平方向の孔中心位置（L1）

柱際から水平方向の孔中心位置L1は、孔が梁せいの中央にある場合L1≧Dとする。それ以外はL1≧D+H/2とする。

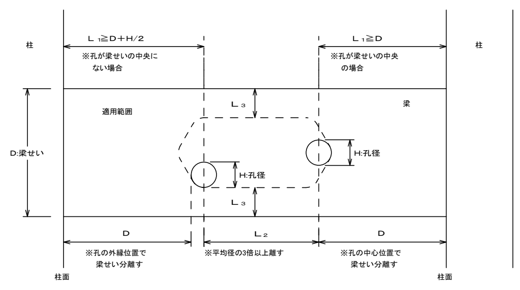
b)孔間中心距離（L2）

孔が複数あるときの孔の中心水平間隔L2は、孔平均径の3倍以上とする。

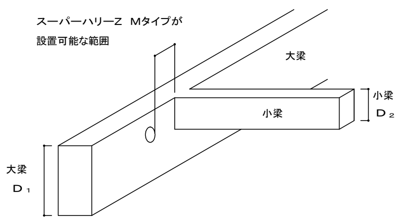
c)へりあき最小寸法

へりあき最小寸法L3は表の値とする。

大梁と小梁が直交する箇所での孔位置は右図による。



D ： 梁せい　　H ： 孔径（スリーブ外径）
L_1 ： 柱際から孔の中心までの距離
L_2 ： 孔と孔の中心水平距離
L_3 ： 梁の上下面から孔面までの距離



梁の全せい	へりあき寸法
500mm≦D＜700mm	L_3 ≧175mm
700mm≦D＜900mm	L_3 ≧200mm
900mm≦D＜1250mm	L_3 ≧250mm
1250mm≦D	L_3 ≧0.2Dmm

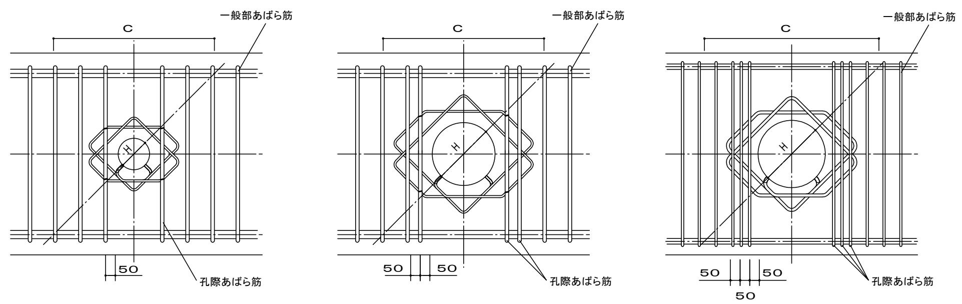
3. スーパーハリーZ　Mタイプ標準配筋図

■孔際あばら筋

通常配筋されるあばら筋を孔の両側に寄せて使用する。孔の両側には、必ず孔際あばら筋を1組以上配筋する。

標準配筋は下図の通りとする。施工の際には、必ず補強計算書を確認し、孔際あばら筋の配筋に注意する。

スリーブ外径H	孔際あばら筋
100mm≦H≦225mm	片側1組
225mm＜H≦375mm	片側2組
375mm＜H≦750mm	片側3組



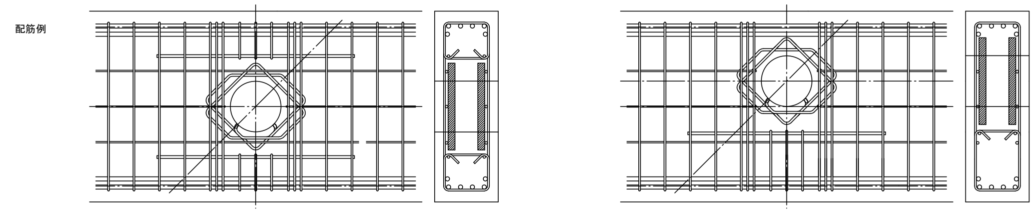
スーパーハリーZ Mタイプ 呼径 →　　呼径　100～200φ　　呼径　225～350φ　　呼径　400～750φ

スリーブ外径 →　　100mm≦H≦225mm　　225mm＜H≦375mm　　375mm＜H≦750mm

■孔上下の補強方法

孔径が400mm以上となるときは、補強計算より求められた補強筋の他、孔上下位置に配筋を行う。

配筋例

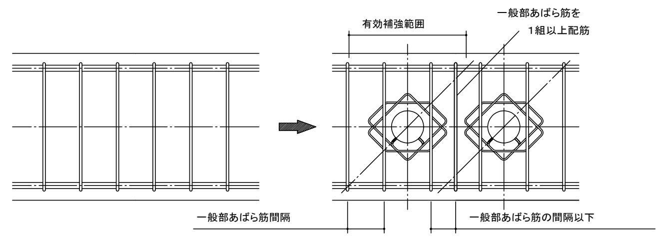


■孔が近接して複数ある場合

孔が近接して複数ある場合、各々の孔際には、孔際あばら筋を1組以上配筋する。

また、孔ー孔間のあばら筋は一般部あばら筋の間隔以下になるようにし、一般部あばら筋を1組以上配筋する。

ただし、鉄筋のあきが確保できない場合はこの限りではない。

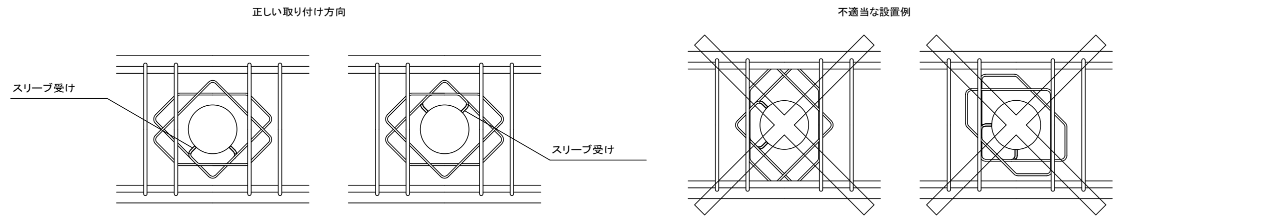


4. スーパーハリーZ　Mタイプ施工要領

■施工上の留意点

(1)製品の方向

スリーブ受けが孔の上または下になるように取り付ける。裏表の区別はない。



(2)かぶり厚さの確認

スーパーハリーZ　Mタイプのかぶり厚さを確保する。

(3)製品の取り付け位置の保持方法

スーパーハリーZ　Mタイプは図に示すようにあばら筋の内側に取り付け、結束線で孔際あばら筋に4～6ヶ所程度結束する。

梁断面から見たスーパーハリーZ　Mタイプどうしの間隔は、鉄筋のあきを確保する。

(4)製品の取り付け検査

製品の取り付け検査は、設計マニュアルのチェックシートを参考に実施する。

■標準的な施工順序

(1)孔際あばら筋本数及びスーパーハリーZ　Mタイプのタイプを確認する。

(2)孔際あばら筋、一般部あばら筋を配筋する。

(3)あばら筋内側にスーパーハリーZ　Mタイプを設置し、結束線で4～6ヶ所程度結束する。

(4)有効補強範囲内の鉄筋間隔が適当であるか確認する。

Ver1.7

構造設計者:一級建築士登録　第316092号　中田 亨
構造設計一級建築士交付　第　8811号

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室	
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
図名	梁貫通孔補強筋 スーパーハリーZ Mタイプ標準図　縮尺 A1： ー　A3： ー
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号	
代表となる設計者：一級建築士登録336930号 日下部　寛之	設計担当：中田　櫻井
令和8年 3月作成	図番 S-10

鉄骨露出型柱脚工法

(適用柱)	角形鋼管柱用	□150～□700
	円形鋼管柱用	○150～○700
	H形鋼柱用	H150～H900

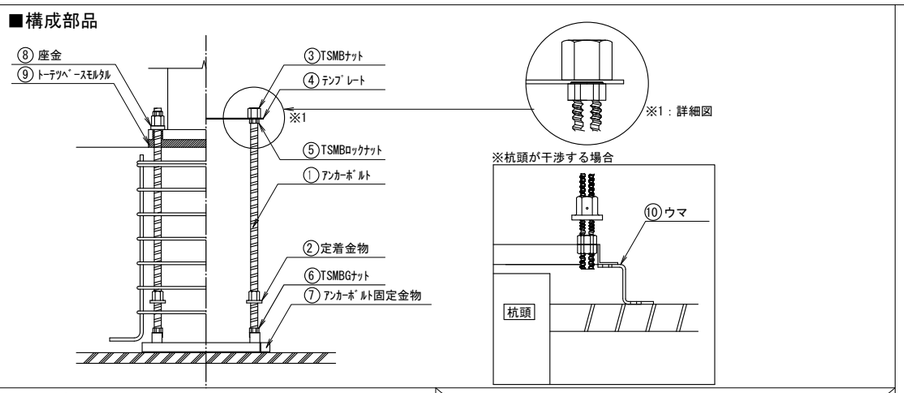
財団法人　日本建築総合試験所　GBRC性能証明　第04-07号　改3（2016年 4月14日付）

スマートベース工法 設計 施工 標準図

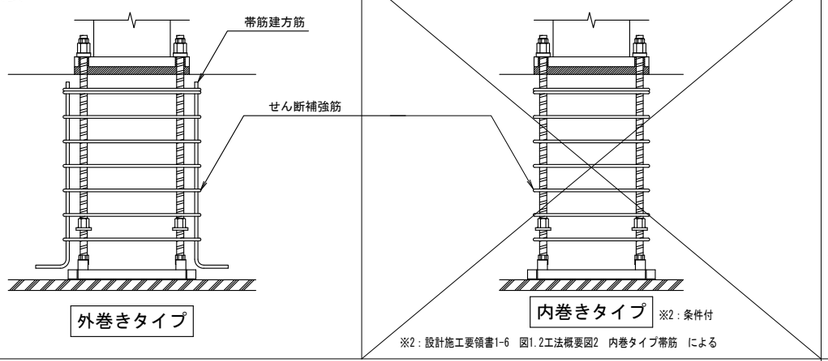
作成　2013年12月
更新　2019年 2月

※本標準図は参考とし、同等品以上を採用すること。

■構成部品



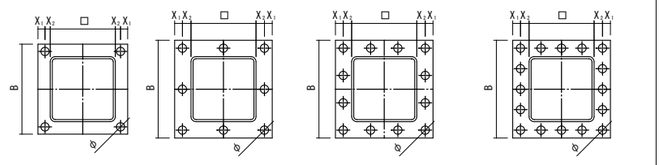
■工法概要



※2：設計施工要領書I-6　図1.2工法概要図2　内巻タイプ帯筋　による

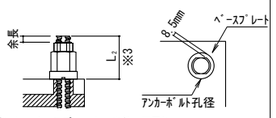
■ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ標準寸法〈例〉角型鋼管用

ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ 本数	ｻｲｽﾞ	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ X_1	X_2	孔径 φ	上部高さ ※3 L_2
4本	D22	45	35	42	104
	D25	45	35	46	104
	D29	50	35	50	112
	D32	50	35	53	122
	D35	50	40	57	127
	D38	55	40	60	135
	D41	55	40	64	140
	D51	70	50	74	140
8本 12本 16本	D22	45	55	42	104
	D25	50	55	46	104
	D29	50	60	50	112
	D32	50	60	53	122
	D35	55	60	57	127
	D38	60	65	60	135
	D41	60	65	64	140
	D51	75	80	74	165



X_1　：アンカーボルト芯からベースプレート端までの距離
X_2　：鉄骨柱からアンカーボルトまで芯までの距離
□　：鉄骨柱の幅、及びせい
φ　：アンカーボルト孔径

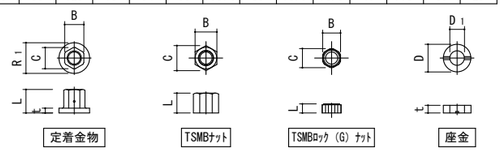
※3：上部高さはｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ余長を20mmとした場合。
（ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ最小余長は10mmとする）



注）アンカーボルト、ベースプレート、本数・配置等の仕様は別図の部材リストや詳細図による。

■各部材寸法

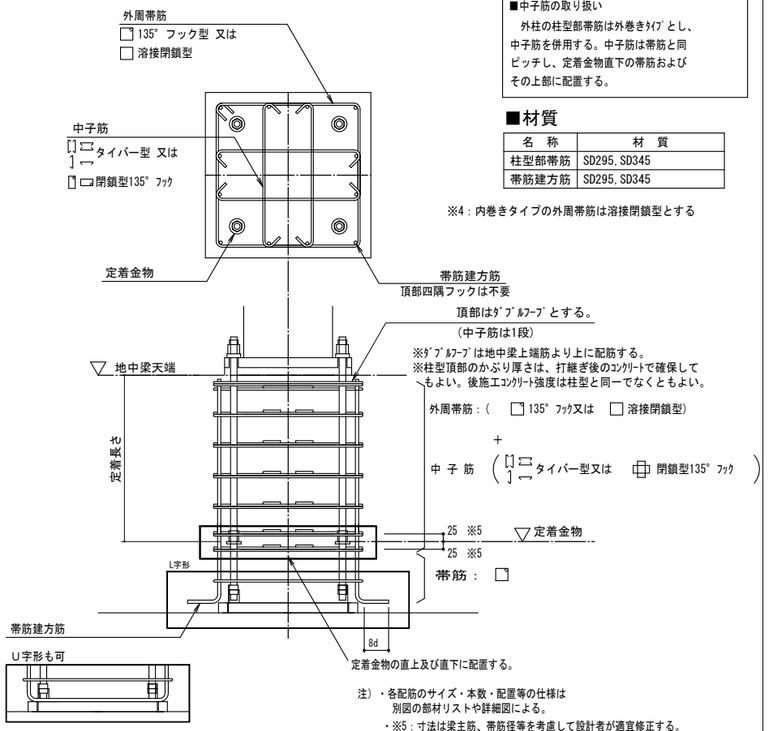
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ 呼名	外径 D	定着金物 対辺 B	対角 C	定着板径 R_1	定着板板厚 t	全長 L	TSMBﾅｯﾄ 対辺 B	対角 C	全長 L	TSMBﾛｯｸ（G）ﾅｯﾄ 対辺 B	対角 C	全長 L	座金 径 D	孔径 D_1	板厚 t
D22	24.8	35	39	55	8	42	46	53.1	45	32.8	37.9	20	65	27	19
D25	28.2	41	46	65	9	47	50	57.7	45	36.5	42.1	20	70	30	19
D29	32.1	46	51	75	10	57	54	62.4	50	41.0	47.3	20	75	35	22
D32	35.7	50	54	80	11	62	58	67.0	50	45.6	48.0	30	75	38	22
D35	39.1	54	59	90	13	67	63	72.7	55	50.1	53.0	30	80	41	22
D38	42.6	58	63	95	15	72	67	77.4	60	53.7	57.0	30	90	45	25
D41	46.3	63	69	100	16	77	71	82.0	65	58.3	62.0	30	90	48	25
D51	56.8	78	86	125	18	94	90	103.9	80	70.0	76.0	40	115	59	25



■材質

名　称	材　質
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	SD490
定着金物	FCAD1200
TSMBﾅｯﾄ	S45C
TSMBﾛｯｸ（G）ﾅｯﾄ	S33C, SS400, SS490
座金	SS400
ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	SM490A, SN490B, SN490C TMCP325, TMCP355

■配筋標準図※4



■中子筋の取り扱い
外柱の柱型部帯筋は外巻きﾀｲﾌﾟとし、中子筋を併用する。中子筋は帯筋と同ピッチし、定着金物直下の帯筋およびその上部に配置する。

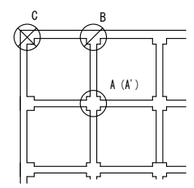
■材質

名　称	材　質
柱型部帯筋	SD295, SD345
帯筋建方筋	SD295, SD345

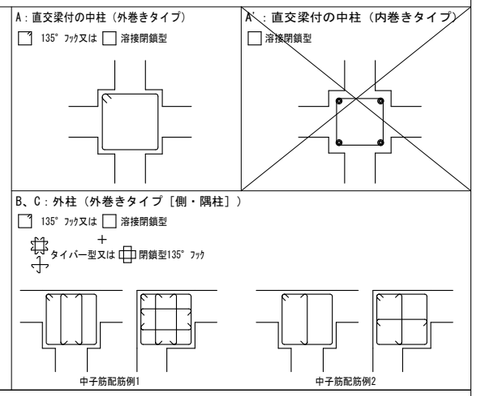
※4：内巻きタイプの外周帯筋は溶接閉鎖型とする

注）各配筋のサイズ・本数・配置等の仕様は別図の部材リストや詳細図による。
・※5：寸法は梁主筋、帯筋径等を考慮して設計者が適宜修正する。

■せん断補強筋要領



注）各配筋のサイズ・本数・配置等の仕様は別図の部材リストや詳細図による。

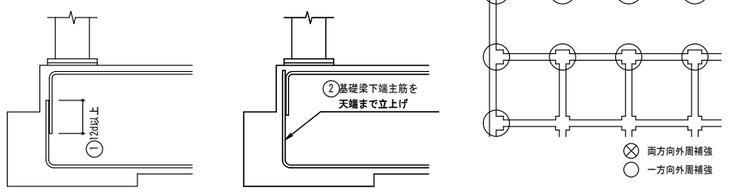


■外周補強要領

：基礎梁上下主筋

外柱に接続する基礎梁上下筋の外端部の定着長は、JASS5に準拠し、水平投影定着長さをLa以上、総定着長さをL2以上とする。
尚、上下主筋の定着端位置は下記の①とする。②も可。

①：基礎梁上下主筋を折曲げ後、12d以上ラップさせる。
②：基礎梁下端筋を柱型頂部まで定着長以上に延長させる。



■施工概要

【1】ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ設置手順

：捨てｺﾝｸﾘｰﾄの上面は平滑仕上げを行い、設置部分の捨てｺﾝｸﾘｰﾄ厚は70mm以上とする。
：ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ固定金物の水平出しを行う。
：ｽﾏｰﾄﾍﾞｰｽの位置決めは上部ﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄの中心線と地墨の柱芯との誤差を管理値（e）以内に収めて設置する。

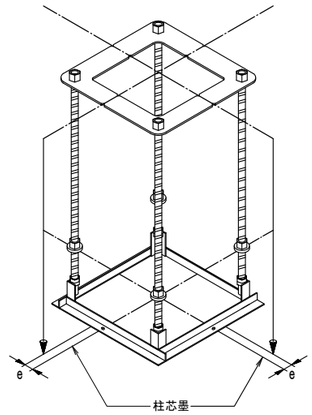
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄｾｯﾄ時の柱芯とﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄ中心の誤差（e1）

管理項目	柱芯とﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄ中心の誤差（e1）
管理値	e1 ≦ ± 5 mm

【2】ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前位置確認及び調整

ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前の柱芯とﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄ中心の誤差

管理項目	柱芯とﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄ中心の誤差（e2）
管理値	e2 ≦ ± 3 mm



【3】鉄骨建方

：ﾚﾍﾞﾙ調整ﾓﾙﾀﾙ（まんじゅう）について
：ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄﾅｯﾄの1次締めは、専用ｽﾊﾟﾅで締め付ける。
：ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの本締めはﾄﾙｸﾚﾝﾁを使用し、全数ﾅｯﾄを180N・m で締め付ける。

ﾚﾍﾞﾙ調整用ﾓﾙﾀﾙ（まんじゅう）

管理項目	平面寸法※6	高さ
管理値	100mm～200mm	30mm～50mm

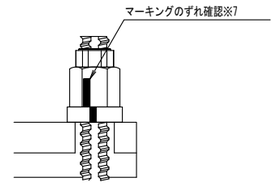
※6：まんじゅうの平面寸法は推奨値とする

ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄﾅｯﾄの1次締め

管理項目	締め付け確認
管理値	ﾏｰｷﾝｸﾞずれ全数確認

ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄﾅｯﾄの本締め

管理項目	締め付け確認
管理値	ﾄﾙｸ：180 N・m



※7：ﾏｰｷﾝｸﾞはナット、座金、ベースプレート間に行う

【4】ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ注入施工

：ﾄｰﾃｨﾝｸﾞﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙの標準配合例
：ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙの注入は、型枠に簡易ﾛｰﾄをｾｯﾄし、ﾓﾙﾀﾙの自重圧により全ての座金の溝からﾓﾙﾀﾙが流出するのを確認する。

ﾄｰﾃｨﾝｸﾞﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙの標準配合例

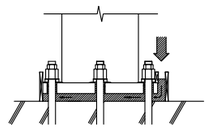
ﾄｰﾃｨﾝｸﾞﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ1袋当たり	
水　量	練り上がり量
4.2±0.2 (L)	約13 (L)

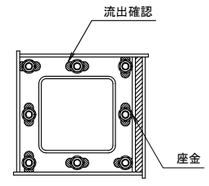
ﾄｰﾃｨﾝｸﾞﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ混練

管理項目	水　量	簡易ﾌﾛｰ値	練り上がり温度
管理値	4.2±0.2 (L)	230mm～330mm	5 ℃～40℃

ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ注入

管理項目	ﾓﾙﾀﾙ充填確認
管理値	全数流出確認





：ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ注入作業時に圧縮強度供試体3体を作成し、圧縮強度試験を行う。
：圧縮強度は設計基準強度以上とする。材令は28日を原則とする。

ﾄｰﾃｨﾝｸﾞﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙの圧縮強度試験

管理項目	圧縮強度	材　令
管理値	45 N/mm²以上	28日

構造設計者：一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ポートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	スマートベース工法設計施工標準図	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田 / 塚井	図番	S-11

ＪＦウェイブデッキ（ＪＦ７５ＭＥ/ＭＷ）設計・施工標準

※本標準図は参考とし、同等品以上を採用すること。

1 型式・質量および断面性能

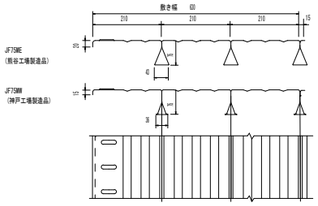
	型式	板厚 [mm]	製品質量 亜鉛めっき（Z12） [kg/枚/m]	製品質量 亜鉛めっき（Z12） [kg/m²]	断面性能 I [x104mm4/m]	断面性能 Z [x103mm3/m]
□	JF75ME-07	0.7	7.11	11.3	105	20.3
□	JF75MW-07					
□	JF75ME-08	0.8	8.09	12.8	120	23.2
□	JF75MW-08					
□	JF75ME-10	1.0	10.0	16.0	151	24.7
□	JF75MW-10					
□	JF75ME-12	1.2	12.0	19.1	180	30.3
■	JF75MW-12					
□	JF75ME-14	1.4	14.0	22.2	208	35.7
■	JF75MW-14					
□	JF75ME-16	1.6	15.9	25.3	235	40.8
□	JF75MW-16					

種類の記号および材料

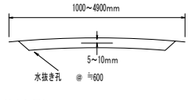
種類記号	付着量記号	最小付着量（両面）[g/m²]	使用材料
SGCC SGHC	■ Z12	120	JIS G 3302 「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点235N/mm²、引張強さ295N/mm² 以上
	□ Z27	275	
SZACC SZAHC	□ Y18	180	JIS G 3317 「溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点235N/mm²、引張強さ295N/mm² 以上
□ その他（　　）			

Z27、高耐食性鋼板Y18及びその他製品については、事前にご相談下さい

2 製品仕様

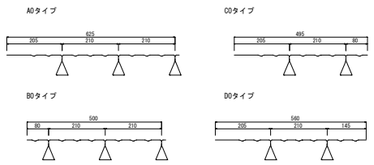


キャンバー

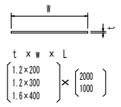


接合部詳細図

役物デッキプレート



調整プレート



（注）
RC梁型枠用調整プレートには
釘孔加工（@600mm）有り

エンドクローズ形状

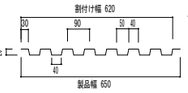
製品長さ

エンドクローズ長さ	製品長さ
50、85、120※ mm	1,000～4,900 mm

※120mmエンドクローズは熊谷工場のみ製造可能

キーストンプレート

板厚 mm	有効幅考慮断面係数 Z×10³ mm³/m²	全断面有効断面2次モーメント I×10⁴ mm⁴/m²	製品質量 亜鉛めっき(Z12) kg/m²	製品質量 亜鉛めっき(Z27) kg/m²
0.8	9.80	12.2	5.89	6.07



キーストンプレート

原則として、デッキ長さが1,000mm未満の
場合に使用。（L=350～1,200mm）
※板厚：0.8mm

3 断面応力・たわみの計算

断面応力・たわみの計算は、一般に単純支持梁モデルを用いて計算する
算定式および許容値は、下表とする

項目		算定式
曲げ応力 (N/mm)²	[S造]	$\sigma = \frac{M}{Z} = \frac{WL^2}{8Z}\times10^{-3} \leq \frac{f_b}{\beta}$
	[RC・SRC造]	$\sigma = \frac{M}{Z} = \frac{WL^2}{8Z}\times10^{-3} \leq \frac{f_b}{\alpha\beta}$
たわみ (mm)		$\delta = \frac{C5WL^4}{384EI}\times10^{-4} \leq \frac{L\times10^3}{180}$
支圧耐力 (N/m)		P＝WL ≦ Pa

※0.7mmデッキは、計算に依らず、最大スパンは
S造の際に2,420mm、RC造の際に2,050mmとする。

記号説明

σ：曲げ応力度 (N/mm²)
f_b：許容曲げ応力度　f ＝ 235$_b$ (N/mm²)
M：最大曲げモーメント (N·mm/m)
Z：断面係数 (mm³/m)
δ：最大たわみ (mm)
C：たわみ算定用係数（C=1.3(S造)、1.5(RC造・0.7mm)）
W：設計（上載）荷重 (N/m²)
L：スパン (m)
E：鋼材のヤング係数　E=2.05×10⁵ N/mm² (N/mm²)
I：断面２次モーメント(全断面有効) (mm⁴/m)
α：施工剛増係数［別表参照］
β：0.7mm以下低減係数　(S造=1.25、RC造=1.75)
P：JF75ME/MWのデッキリブ支圧荷重 (N/m)
Pa：許容支圧荷重［別表参照］ (N/m)

設計荷重 W

W=W$_1$＋W$_2$＋W$_3$

W$_1$：スラブ自重＝（スラブ厚）×（鉄筋コンクリート単重）
W$_2$：フラットデッキ自重　　W：作業荷重(下記)

施工時作業荷重	■ 1,470N/m［ポンプ工法］　□ 2,450N/m［ホッパー・バケット工法］ □（　　N/m）［　　］
コンクリート［鉄筋コンクリート単重］	■ 普通コンクリート［24kN/m³］　□ 軽量コンクリート［20kN/m³］ □（　　）［　　kN/m³］

施工剛増係数（支持梁がＲＣ造またはＳＲＣ造の場合）

施工状況の種類	施工剛増係数(α)	施工条件など
□ Ⅰ類	1.0	ＲＣ造またはＳＲＣ造の場合で、荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合
□ Ⅱ類	1.25	Ⅰ類以外のＲＣ造またはＳＲＣ造の場合で、板厚1.0mmまたは板厚1.2mmのフラットデッキを使用する場合
□ Ⅲ類	1.5	Ⅰ類以外のＲＣ造またはＳＲＣ造の場合で、板厚0.7mmまたは板厚0.8mmのフラットデッキを使用する場合

スラブ厚さ別許容スパン表［施工時作業荷重1,470N/m2］

建物の構造		板厚t / スラブ厚S(mm)	S造 0.7mm	S造 0.8mm	S造 1.0mm	S造 1.2mm	S造 1.4mm	S造 1.6mm	RC・SRC造 0.7mm	RC・SRC造 0.8mm	RC・SRC造 1.0mm	RC・SRC造 1.2mm	RC・SRC造 1.4mm	RC・SRC造 1.6mm
普通コンクリート 24 kN/m3		120	2,420	2,870	3,070	3,240	3,380	3,500	2,050	2,740	2,940	3,100	3,230	3,350
		125	2,420	2,840	3,050	3,210	3,350	3,480	2,050	2,720	2,910	3,070	3,210	3,320
		130	2,420	2,820	3,020	3,190	3,330	3,450	2,050	2,700	2,890	3,050	3,180	3,300
		135	2,420	2,800	3,000	3,160	3,300	3,420	2,050	2,680	2,870	3,020	3,160	3,270
		140	2,420	2,780	2,980	3,140	3,280	3,400	2,050	2,660	2,850	3,000	3,130	3,250
		145	2,420	2,760	2,960	3,110	3,250	3,370	2,050	2,640	2,830	2,980	3,110	3,230
		150	2,420	2,740	2,930	3,090	3,230	3,350	2,050	2,620	2,810	2,960	3,090	3,200
		160	2,370	2,700	2,890	3,050	3,180	3,300	2,000	2,580	2,770	2,920	3,050	3,160
		170	2,320	2,660	2,850	3,010	3,140	3,260	1,960	2,550	2,730	2,880	3,010	3,120
		180	2,270	2,630	2,790	2,970	3,100	3,220	1,920	2,520	2,700	2,840	2,970	3,080
		190	2,220	2,600	2,730	2,940	3,070	3,180	1,880	2,490	2,660	2,810	2,930	3,040
		200	2,180	2,570	2,680	2,900	3,030	3,140	1,840	2,460	2,630	2,780	2,900	3,010
		250	2,000	2,390	2,460	2,720	2,880	2,980	1,690	2,330	2,460	2,630	2,750	2,850
		300	1,860	2,220	2,290	2,530	2,740	2,850	1,570	2,220	2,290	2,520	2,630	2,730
軽量コンクリート 20 kN/m3		120	2,420	2,970	3,180	3,350	3,500	3,630	2,050	2,840	3,040	3,210	3,350	3,470
		125	2,420	2,950	3,160	3,330	3,470	3,600	2,050	2,820	3,020	3,180	3,320	3,440
		130	2,420	2,920	3,130	3,300	3,450	3,570	2,050	2,800	3,000	3,160	3,300	3,420
		135	2,420	2,900	3,110	3,280	3,420	3,550	2,050	2,780	2,980	3,140	3,270	3,390
		140	2,420	2,880	3,090	3,260	3,400	3,520	2,050	2,760	2,960	3,110	3,250	3,370
		145	2,420	2,860	3,070	3,230	3,380	3,500	2,050	2,740	2,930	3,090	3,230	3,350
		150	2,420	2,840	3,050	3,210	3,350	3,480	2,050	2,720	2,910	3,070	3,210	3,320
		160	2,420	2,810	3,010	3,170	3,310	3,430	2,050	2,690	2,880	3,030	3,170	3,280
		170	2,420	2,770	2,970	3,130	3,270	3,390	2,050	2,650	2,840	2,990	3,130	3,240
		180	2,420	2,740	2,930	3,090	3,230	3,350	2,050	2,620	2,810	2,960	3,090	3,200
		190	2,380	2,710	2,900	3,060	3,190	3,310	2,010	2,590	2,770	2,920	3,050	3,170
		200	2,330	2,680	2,870	3,020	3,160	3,270	1,970	2,560	2,740	2,890	3,020	3,130
		250	2,150	2,540	2,640	2,870	3,000	3,110	1,820	2,430	2,610	2,750	2,870	2,980
		300	2,000	2,390	2,460	2,720	2,880	2,980	1,690	2,330	2,460	2,630	2,750	2,850

（単位：mm）

■部は、たわみで決定する範囲を示す。

中間支保工を設ける場合の許容スパン早見表
［施工時作業荷重1,470N/m²］

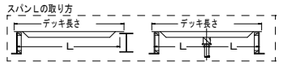
建物の構造		板厚t / スラブ厚S(mm)	S造 0.7mm	RC・RC造 0.7mm	S・SRC・RC造 0.8mm	S・SRC・RC造 1.0mm	S・SRC・RC造 1.2mm
普通コンクリート 24 kN/m³		120	4,390	4,100	4,900	4,900	4,900
		130	4,160	4,100	4,900	4,900	4,900
		140	3,960	3,960	4,900	4,900	4,900
		150	3,780	3,780	4,900	4,900	4,900
		160	3,610	3,610	4,900	4,900	4,900
		170	3,460	3,460	4,900	4,900	4,900
		180	3,320	3,320	4,900	4,900	4,900
		190	3,190	3,190	4,770	4,900	4,900
		200	3,070	3,070	4,590	4,900	4,900
		250	2,580	2,580	3,870	4,900	4,900
		300	2,230	2,230	3,340	4,580	4,900
軽量コンクリート 20 kN/m³		120	4,680	4,100	4,900	4,900	4,900
		130	4,560	4,100	4,900	4,900	4,900
		140	4,460	4,100	4,900	4,900	4,900
		150	4,270	4,100	4,900	4,900	4,900
		160	4,090	4,090	4,900	4,900	4,900
		170	3,930	3,930	4,900	4,900	4,900
		180	3,780	3,780	4,900	4,900	4,900
		190	3,640	3,640	4,900	4,900	4,900
		200	3,510	3,510	4,900	4,900	4,900
		250	2,970	2,970	4,450	4,900	4,900
		300	2,580	2,580	3,870	4,900	4,900

（単位：mm）

ＪＦ７５ＭＥ/ＭＷ（幅1m当たり）

ＪＦ７５ＭＥ/ＭＷ板厚（mm）	0.7	0.8	1.0	1.2
リブ許容支圧荷重（N/m）	9,800	14,700	22,050	29,400

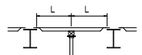
スパンLの取り方



1）上表の数値は、中間支保工を設ける場合のＪＦ７５ＭＥ/ＭＷリブの許容支圧荷重によって決まる許容スラブスパンＬを示す

2）ＲＣ造またはＳＲＣ造において梁側板型枠でＪＦ７５ＭＥ/ＭＷを支持する場合、スラブスパンが3.0mを超えるときには中間支保工を設けることを原則とする

3）ＪＦ７５ＭＥ/ＭＷ製品仕様の最大長さは4.9m



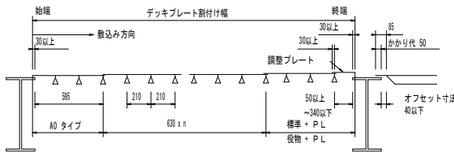
●支保工間隔　：　L
スラブスパン：　2L

4 納まり例

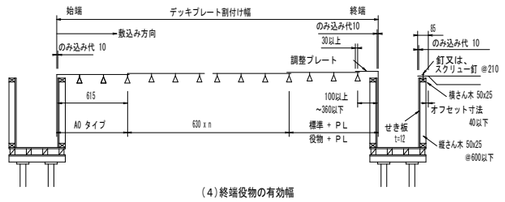
4-1 割付け

幅方向の割付けは、標準品（６３０幅）をベースに割付ける
始端・終端調整には役物、調整プレートを使用する

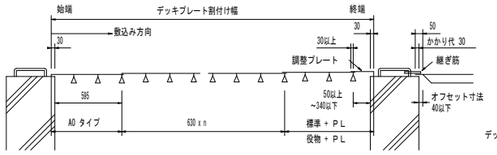
（1）鉄骨造（Ｓ造）



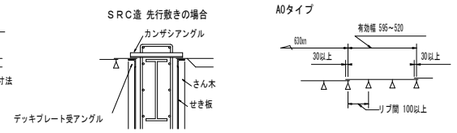
（2）鉄筋コンクリート造（ＲＣ造）　鉄骨鉄筋コンクリート造（ＳＲＣ造）



（3）ＲＣ置きスラブ（地中梁）



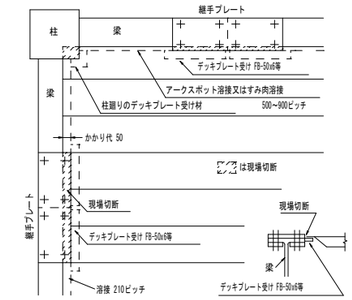
（4）終端役物の有効幅



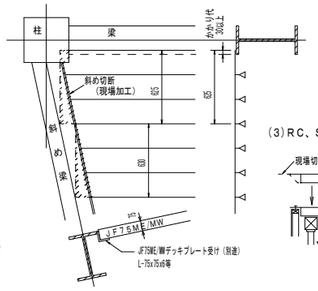
4-2 各所の納まり

デッキプレート受けは、設計荷重を十分支持可能な部材及び取付方法とする
デッキプレート受けのサイズは監理者の承認を得て決定すること

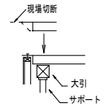
（1）Ｓ造継手プレート部の納まり
※柱コーナーおよび継手プレート部の切断は現場加工



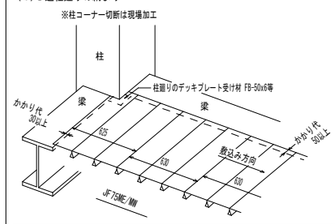
（2）Ｓ造斜め梁の納まり



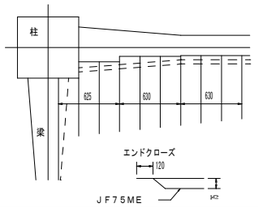
（3）ＲＣ、ＳＲＣ造斜め梁



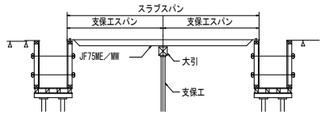
（4）Ｓ造柱廻りの納まり



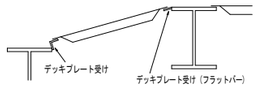
（5）Ｓ造水平ハンチの納まり



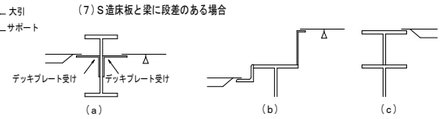
4-3 中間支保工設置



（6）Ｓ造梁の段差（レベル差）がある場合



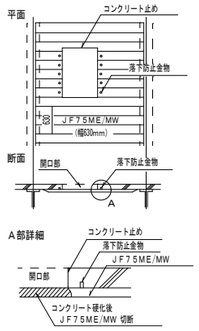
（7）Ｓ造床板と梁に段差のある場合



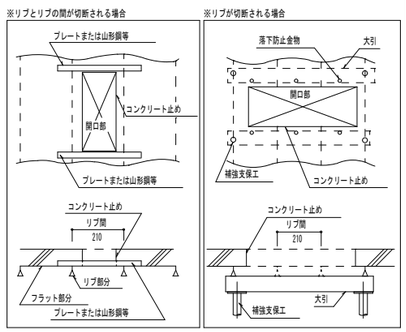
4-4 開口部納まり例

配線・配管・空調ダクト等の開口部の施工は、原則として下Ａ図のように予め型枠で囲い、コンクリート打設硬化後にデッキプレートを切断する。開口部の大きさにより、デッキプレートとコンクリートが剥離する恐れがある場合、切断部周辺に「落下防止金物」を取り付ける

Ａ)コンクリート硬化後に開口部切断



Ｂ)コンクリート打設前に開口部切断



5 施工の要点

施工の要点は、下表のとおりとする
特殊なケースの場合は、その都度施工法を充分に検討し施工すること

項目	内容
1 保管	(1)敷込みとの関連を考えて保管場所を決める (2)薄板製品であることを十分認識し変形に注意する
2 吊り込み	(1)骨組の組立順序との関連を十分検討する (2)壁、パネル等の取り付け作業との関連を十分検討する (3)クレーンの能力揚重の検討、パレットを用いる等安全対策を検討する (4)揚重枚数と敷込み順序の関係等検討する
3 敷込み	(1)始端かかり位置、中間位置(デッキプレート５枚位の位置)終端位置をマーキングする (2)割付方向は図面に従い、間違いの無いようにする (3)２枚目以降は最初のデッキプレートに倣うので最初の位置決めを正確に行い、確実に梁に固定する(落下防止等安全対策) (4)かかり寸法は厳守する (5)敷込み後、速やかに溶接等で固定する
4 作業床	(1)一時的な作業床に転用することも考えられるが、板厚が0.7～1.0mmのデッキプレートの場合は、接合部分の変形、破損しやすいため避ける (2)受圧面積が極端に小さい集中荷重は避ける。集中荷重のかかる場合は、厚板等を敷く等の措置により受圧面積を大きくする (3)油等コンクリートに有害なものは、コンクリート打設前までに取り除く (4)資材等の仮置は避ける。止むを得ず仮置する場合は、デッキプレートに負担がかからないよう十分配慮する。特に0.7～1.0mmは注意する
5 コンクリート打設	(1)打設は打設荷重等の施工荷重を極力低減するようにし、過荷重には十分注意する (2)打設は、コンクリートの山（集中荷重）をつくらないようにする

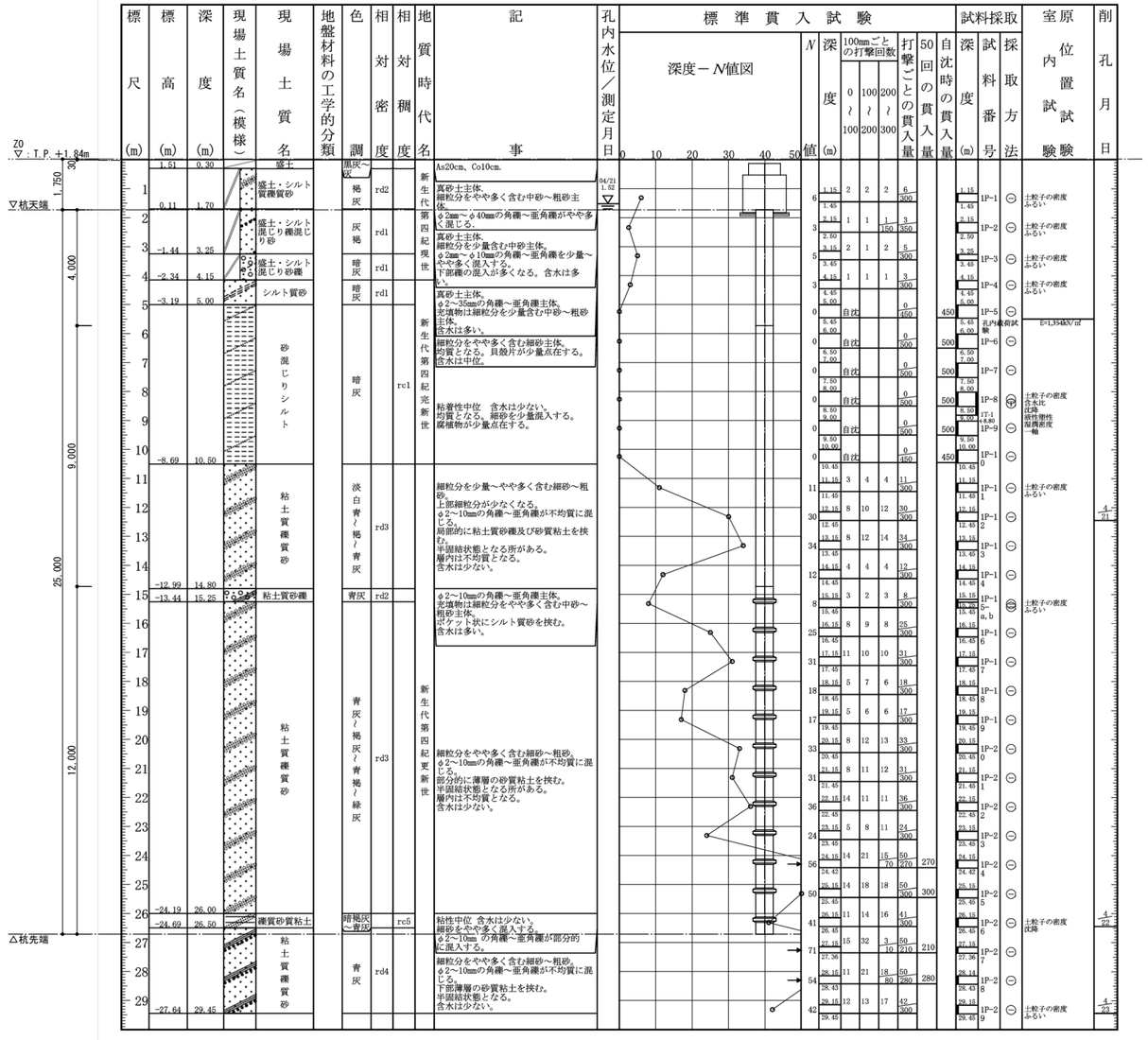
構造設計者：一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

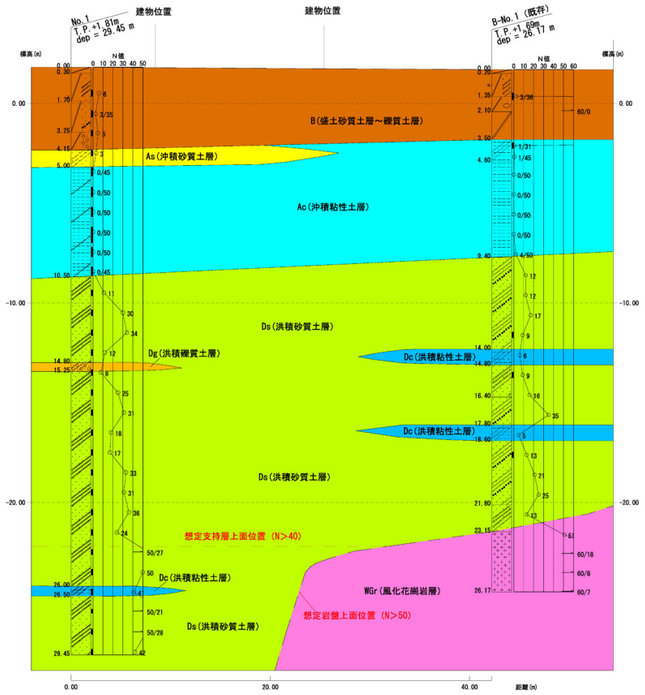
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	ＪＦウェイブデッキ（ＪＦ７５ＭＥ/ＭＷ）設計・施工標準	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　晃之	中田　塚本	図番	S-12

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

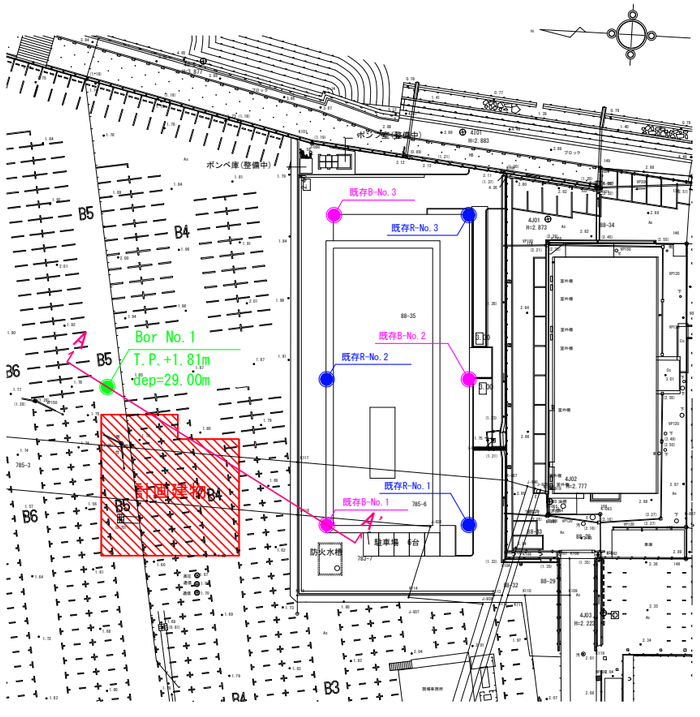
調　査　名	ボートレース児島パークエリア整備基本・実施設計業務委託
事業名 または 工事名	
調査目的及び調査対象	建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1	調査位置	岡山県倉敷市児島元町　地内			北緯	34° 27′ 34.88″
発注機関	倉敷市ボートレース事業局			調査期間	2025年　4月 21日 ～ 2025年　4月 24日	東経	133° 48′ 36.06″
調査業者名	株式会社サンベルコ 電話 086-363-1672	主任技師	滝澤範之 地質調査技士 登録番号 第20553号	現場代理人	滝澤範之 地質調査技士 登録番号 第20553号	コア鑑定者	久保　健郎 地質調査技士 登録番号 第13634号
ボーリング責任者	三好　涼太 地質調査技士 登録番号 第24300号						
孔口標高	T.P. 1.81m	角度	180° 上下 90° 0° 0°	方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°
総削孔長	29.45m	使用機種	試錐機	TOHO D1-C			
			エンジン	YANMAR TF120-E		ポンプ	TOHO BG-3C





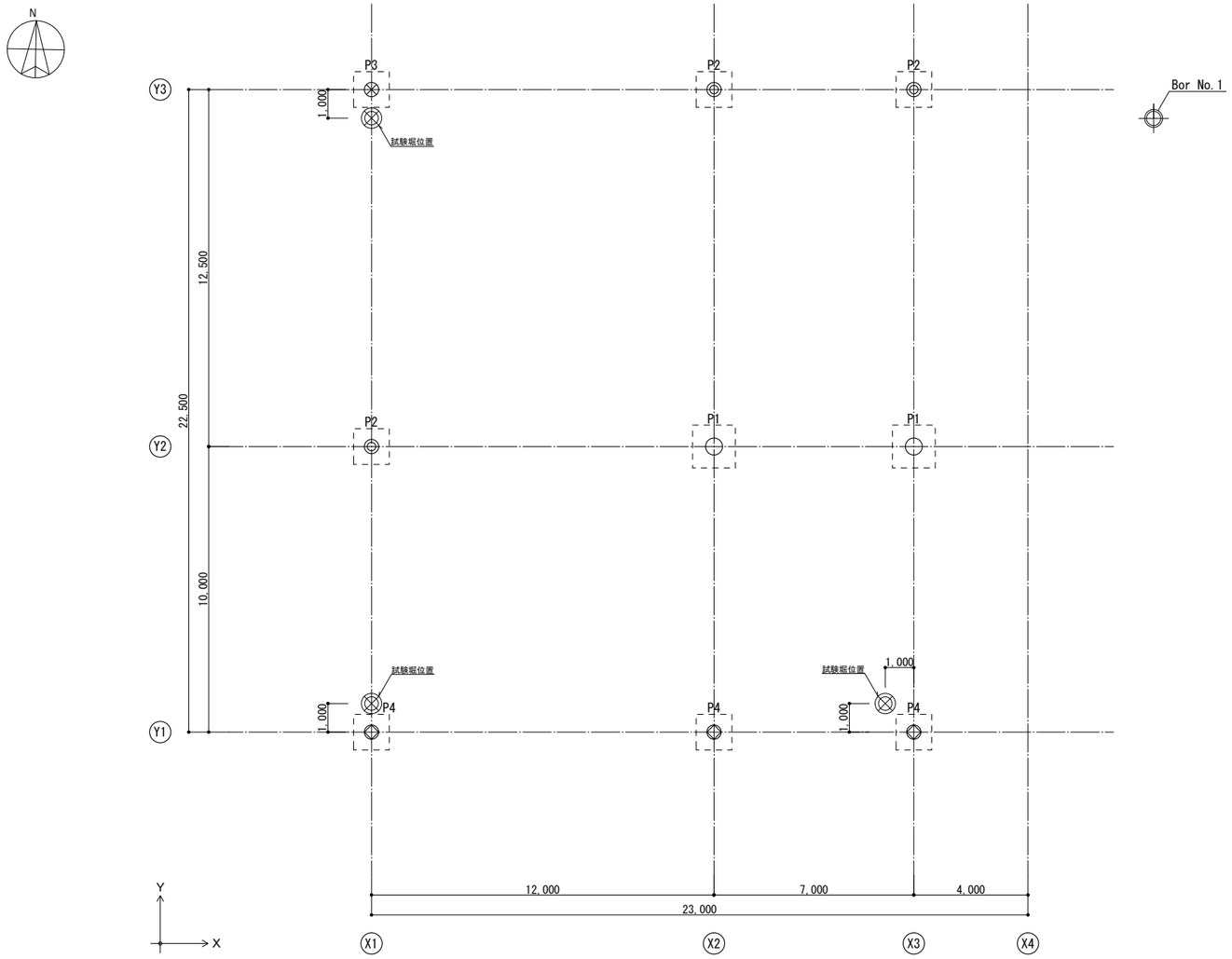
A－A′ 想定地質断面図



調査位置図

構造設計者：一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	土質柱状図	縮尺	A1：－ A3：－
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　桜井	図番	S-13



杭伏図　S＝1/100

杭一覧表

符 号	記 号	杭天端レベル	杭全長	上 杭			中 杭			下 杭			拡大比	長期支持力 (kN/本)	本数
				杭種	杭径	杭長	杭種	杭径	杭長	杭種	杭径	杭長			
P1	◯	Z0 -1,750	25 m	SC (SKK490 t=9.0 105N)	φ600	4 m	PHC C種 (123N)	φ600	9 m	NPH A種 (105N)	φ800-600	12 m	ωp=1.29	3,300	2
P2	◎	Z0 -1,750	25 m	SC (SKK490 t=9.0 105N)	φ500	4 m	PRC Ⅰ種 (105N)	φ500	9 m	NPH A種 (105N)	φ650-500	12 m	ωp=1.28	2,400	3
P3	⊗	Z0 -1,750	25 m	SC (SKK490 t=9.0 105N)	φ500	4 m	PRC Ⅲ種 (105N)	φ500	9 m	NPH A種 (105N)	φ500-400-500	12 m	ωp=1.45	1,800	1
P4	◇	Z0 -1,750	25 m	SC (SKK490 t=9.0 105N)	φ500	8 m	PRC Ⅲ種 (105N)	φ500	6 m	NPH A種 (105N)	φ500-400-500	11 m	ωp=1.45	1,800	3

合計：9本

杭頭補強要領
杭頭半剛接合構法（F.T.Pile構法〈標準タイプ〉：日本建築センター評定FD0141-06同等構法）とする。

杭伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．杭の仕様は下記による。
　1).工　法：プレボーリング拡大根固め工法
　　（大臣認定Smart-MAGNUM工法（周面強化型)同等工法）
　　[認定番号：TACP-0625,TACP-0626,TACP-0627]
　2).杭　種：SC 杭　　Fc=105 N/mm²
　　PRC杭　　Fc=105 N/mm²
　　PHC杭　　Fc=123 N/mm²
　　節付PHC杭　Fc=105 N/mm²

　3).鋼管材質：JIS A 5525 SKK490

　4).継　手：機械式継手（評定取得工法）とする。
　　トリプルプレートジョイント 【BCJ評定-FD0183-08】

2．設計GLは、TP+1.84mとする。

3．杭芯＝通り芯とする。

4．⊕ は、地盤調査位置を示す。

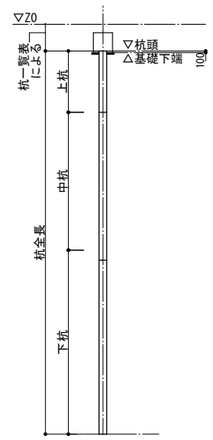
5．支持層は、洪積砂質土層(Z0-24m以深想定、Ds）・風化花崗岩層（WGr）とする。

6．⊗ は、試験堀位置を示す。杭施工前に支持層の深さを確認すること。
　ボーリング調査等で支持層の深さを確認した場合は省略することができる。

7．施工する最初の1本を試験杭とする。位置は監督職員と協議する。

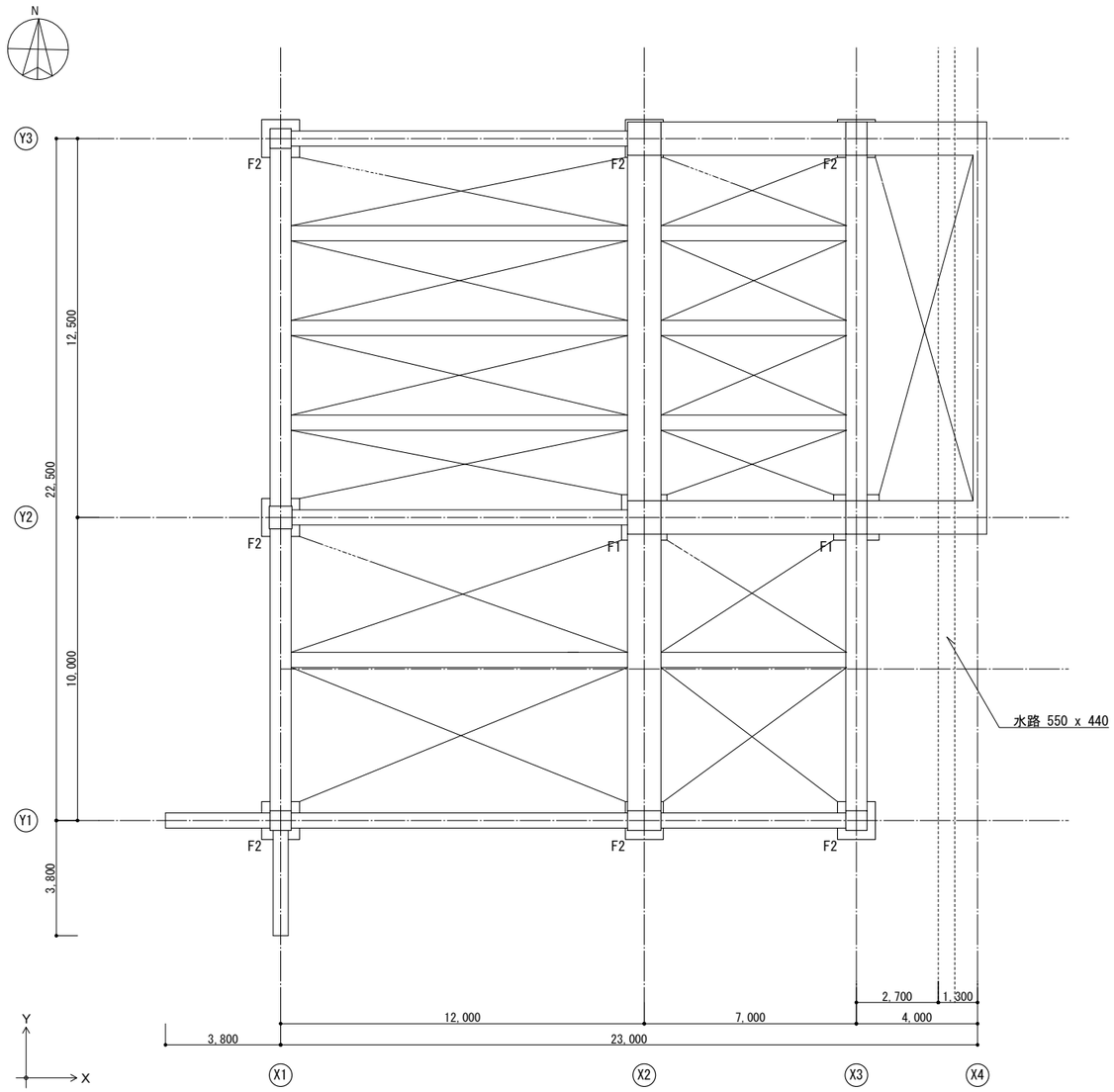
8．杭の施工誤差による補強
　杭の施工後、杭の施工誤差を監督職員に報告する。
　杭の偏心距離が100mm以下の場合は、補強なしとする。
　杭の偏心距離が100mmを超える場合は、監督職員に報告し、
　補強方法及び、施工方法を協議すること。

9．杭姿図

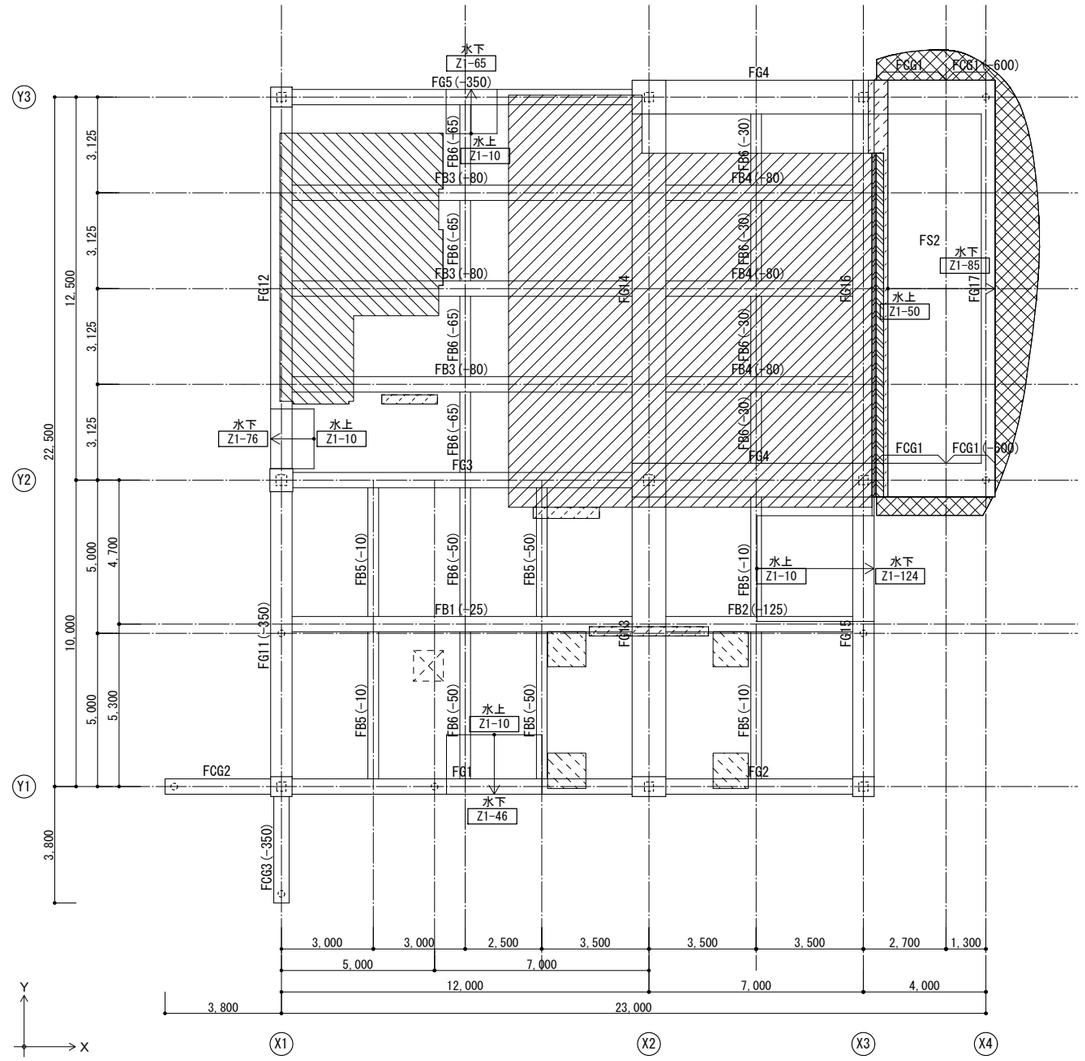


構造設計者:一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号 中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	杭伏図	縮尺	A1：1/100 A3：1/200
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　塚本	図番	S-14



基礎伏図　S＝1/100



Ｚ１床伏図　S＝1/100

基礎伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）▨ は埋戻し部を示す。

埋戻し部は十分な締固めを行う。

2．基礎の下端レベル

▭ Z0-1,850 ＝ Z1-1,950

Ｚ１床伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）▦ は設備基礎を示す。

2）▩ は土間コンクリート範囲を示す。

2．床スラブの上端レベル

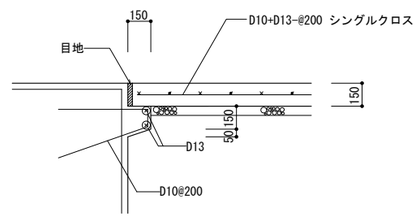
- Z1 -10
- Z1 -30
- Z1 -50
- Z1 -80
- Z1 -240
- Z1 -75
- Z1 -150
- 図示勾配による

3．床スラブの符号は FS1 とする。

4．基礎梁及び基礎片持ち梁の上端レベルはZ1-250とする。

5．梁符号末尾の（ ）内数値は Z1 からの梁上端レベルを示す。

6．土間コンクリート配筋要領



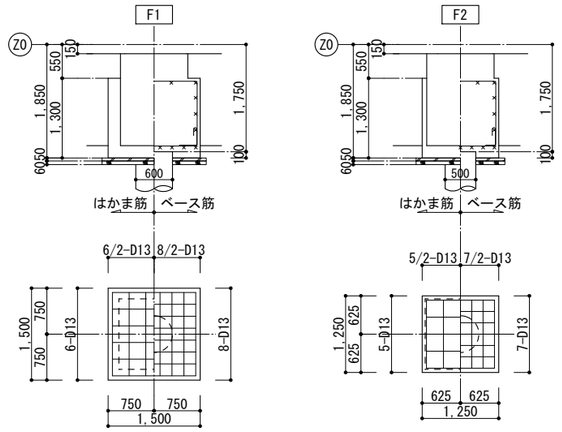
構造設計者:一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号 中田 亨

工事名	倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室
	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
図名	基礎伏図、Ｚ１床伏図
縮尺	A1： 1/100　A3： 1/200

株式会社　日総建　広島事務所
一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号

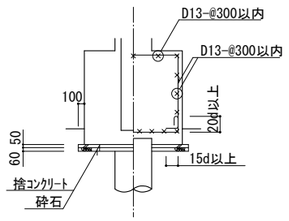
代表となる設計者	設計担当		令和8年 3月作成
一級建築士登録336930号 日下部 寛之	中田	塚井	図番 S-15

基礎断面表　S=1/50

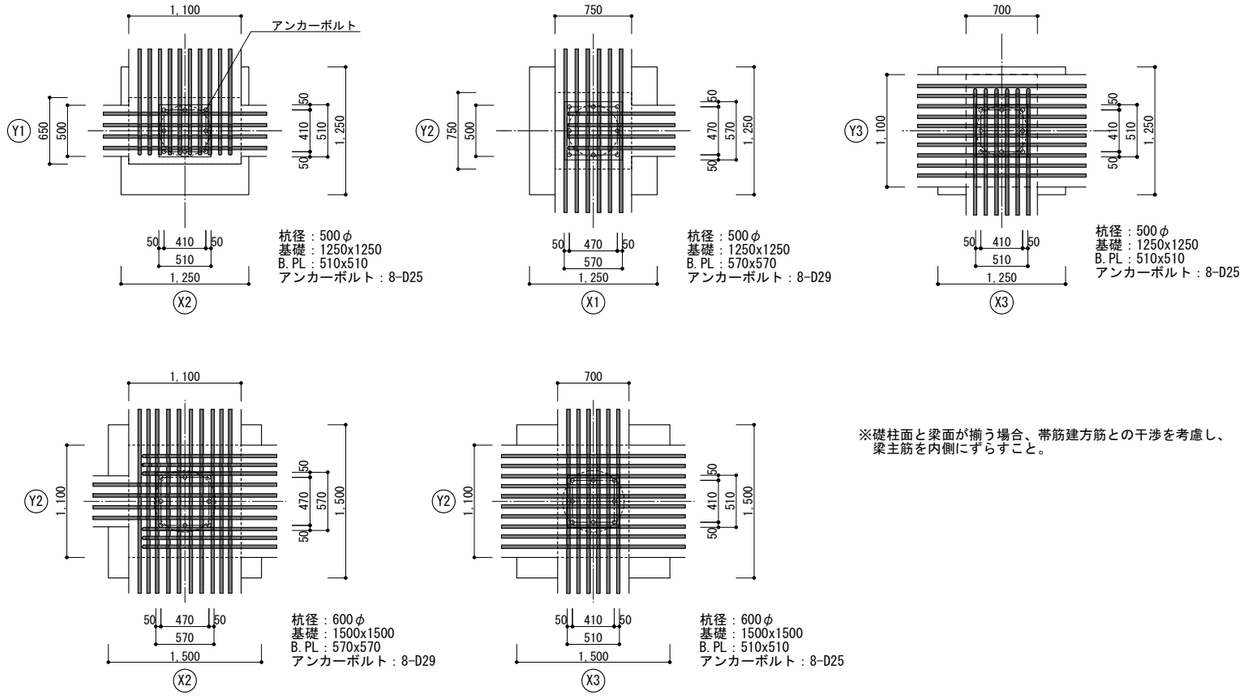


基礎断面表　共通事項

1．配筋要領



杭頭廻り配筋要領参考図　S=1/30



※礎柱面と梁面が揃う場合、帯筋建方筋との干渉を考慮し、
梁主筋を内側にずらすこと。

Ｚ１床スラブ断面表

符 号	厚 さ	位置	短辺方向 全断面	長辺方向 全断面	備　考
FS1	180	上端筋	D10+D13-@200	D10-@200	
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
FS2	180	上端筋	D13-@150	D10+D13-@200	
		下端筋	D10+D13-@150	D10-@200	

基礎梁断面表　S=1/50

符　号	FG1			FG2			FG3			FG4			FG5			FCG1		FCG2	FCG3
位　置	X1端	中　央	X2端	X2端	中　央	X3端	X1端	中　央	X2端	X2端	中　央	X3端	X1端	中　央	X2端	X3端～X3+2700	X3+2700～X4端	全断面	全断面
断　面																			
b x D	500 x 1500			500 x 1500			500 x 1500			1100 x 1500			500 x 1400			1100 x 1500	1100 x 1050	500 x 1500	500 x 1400
上端筋	4+2-D29	4-D29	4+2-D29	4+2-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4+1-D29	10-D29	10+3-D29	10+7-D29	4+1-D29	4-D29	4+1-D29	10+7-D29	8-D29	4+2-D29	4+3-D29
下端筋	4+1-D29	4+2-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4+1-D29	4+2-D29	4-D29	6-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4+1-D29	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29
あばら筋	□-D13-@250			□-D13-@250			□-D13-@250			▥-D13-@200			□-D13-@250			▥-D13-@200		□-D13-@250	□-D13-@250
カットオフ	3250		3250	2740	—	—		—	—	—	—	2960	—	—	—	—		—	—

符　号	FG11			FG12			FG13			FG14			FG15			FG16			FG17		
位　置	Y1端	中　央	Y2端	Y2端	中　央	Y3端	Y1端	中　央	Y2端	Y2端	中　央	Y3端	Y1端	中　央	Y2端	Y2端	中　央	Y3端	Y2端	中　央	Y3端
断　面				※腹筋6-D19　（礎柱内 L2 定着）																	
b x D	700 x 1400			700 x 1500			1100 x 1500			1100 x 1500			700 x 1500			700 x 1500			450 x 1500		
上端筋	6+2-D29	6-D29	6+6-D29	6+6-D29	6-D29	6-D29	10-D29	10-D29	10+8-D29	10+9-D29	10-D29	10-D29	6-D29	6-D29	6+5-D29	6+5-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29
下端筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6+5-D29	6+4-D29	10-D29	10-D29	10-D29	10-D29	10+6-D29	10+5-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6+3-D29	6+2-D29	4+2-D29	4+3-D29	4+2-D29
あばら筋	▥-D13-@250			▥-D13-@150			▥-D13-@200			▥-D13-@200			▥-D13-@250			▥-D13-@250			□-D13-@250		
カットオフ	—	—	3570	4300	4070	—	—	—	3380	4050	3530	—	—	—	3420	3940	—	—	—	—	—

符　号	FB1			FB2			FB3			FB4			FB5			FB6
位　置	X1端	中　央	X2端	X2端	中　央	X3端	X1端	中　央	X2端	X2端	中　央	X3端	Y1・Y2端	中　央	他端	全断面
断　面																
b x D	500 x 1200			500 x 1100			500 x 1200			500 x 1200			350 x 500			350 x 500
上端筋	5-D25	5-D25	5+4-D25	5+4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5+1-D25	5+1-D25	5-D25	5-D25	3-D19	3-D19	3+2-D19	3-D19
下端筋	5-D25	5+4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5+1-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
あばら筋	□-D13-@250			□-D13-@250			□-D13-@250			□-D13-@250			□-D13-@250			□-D13-@250
カットオフ位置	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

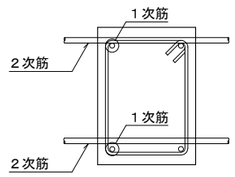
基礎梁断面表　共通事項

特記なき限り下記による。

1. b×D

2. あばら筋　□-D13-@250
　腹　　筋　2-D13
　　(段数は各断面図による)
　幅止め筋　D10-@1,000以内

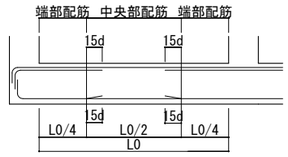
3. 鉄筋位置
　梁主筋位置は下表による。
　１次筋の上に配置する主筋を２次筋とする。



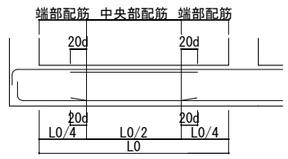
	方向
１次筋	Y方向
２次筋	X方向

※梁レベルに段差がある場合はこの限りではない。

4. 基礎梁主筋カットオフ位置
(a)端部主筋が中央主筋よりも本数が多い場合



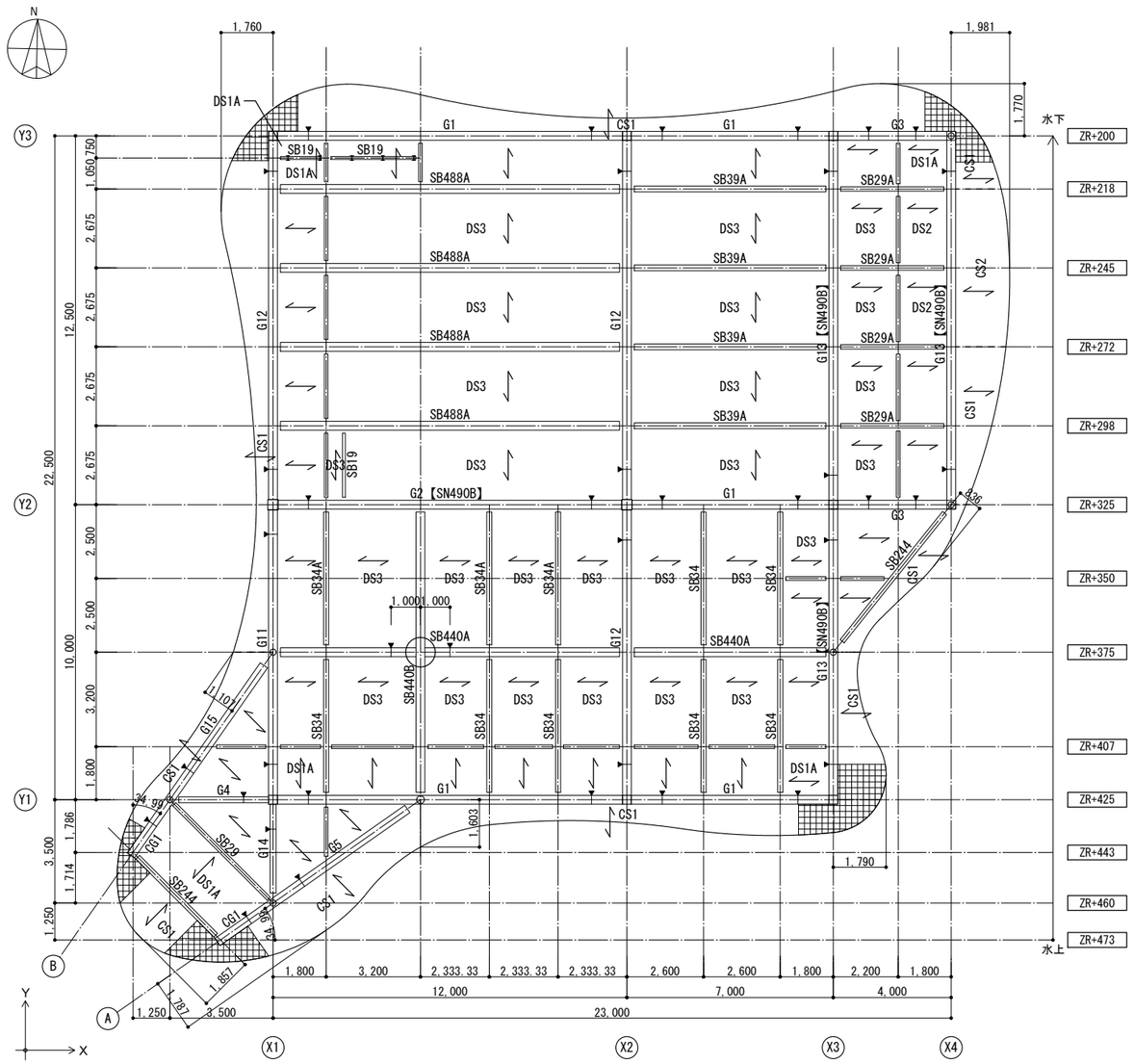
(a)端部主筋が中央主筋よりも本数が少ない場合



※　特記なき限り 15d（dは主筋径）とする。

構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	基礎・基礎梁・Z1床スラブ断面表	縮尺	A1：1/50 A3：1/100
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　晃之	中田　岸	図番	S-16



ＺＲ床伏図　S=1/100

ＺＲ床伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）▼ は鉄骨継手位置を示す。

2）⊕ は小梁剛接合位置を示す。

3）⟷ はスラブ配筋の主筋方向を示す。

4）▦ は片持ちスラブ出隅部補強範囲を示す。

補強要領は 図S-03「倉敷市鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）」による。

2．部材天端レベル

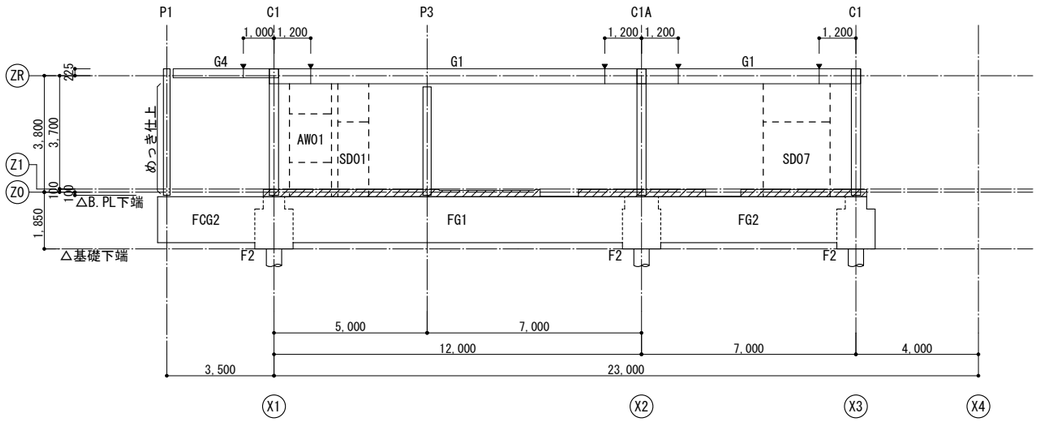
	スラブ	小　梁	大　梁	
	勾配による	勾配による	勾配による	（小梁・大梁天端 ＝ スラブ天端 -200）
	ZR+473	ZR+273	ZR+273	（水上天端）
	ZR+200	ZR±0	ZR±0	（水下天端）

3．スラブ符号は DS1 とする。

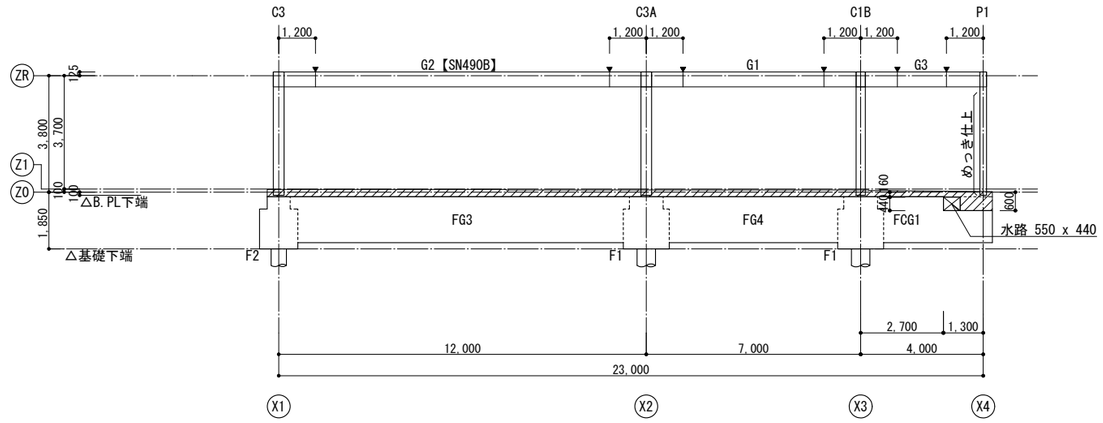
4．小梁符号は SB24 とする。

構造設計者:一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号 中田 亨

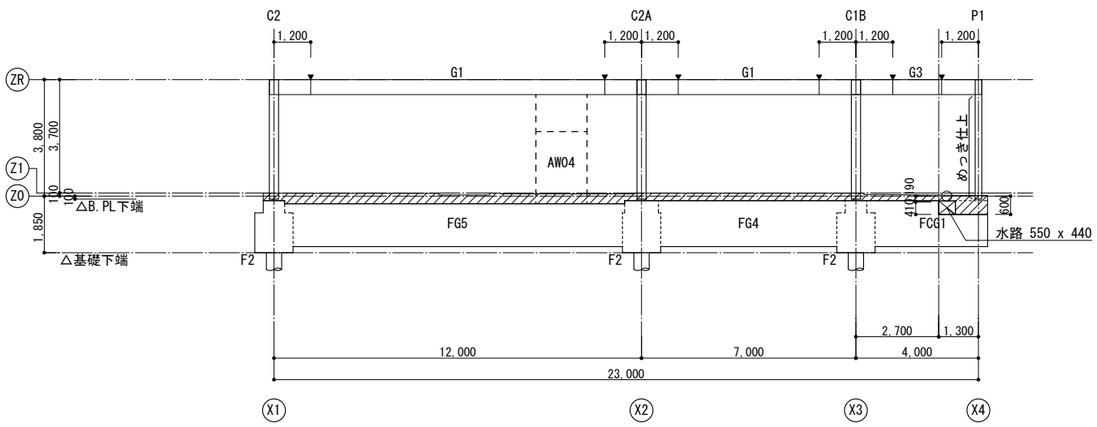
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	ＺＲ床伏図	縮尺	A1： 1/100 A3： 1/200
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当		令和8年 3月作成
一級建築士登録336930号 日下部　晃之	中田　櫻井	図番	S-17



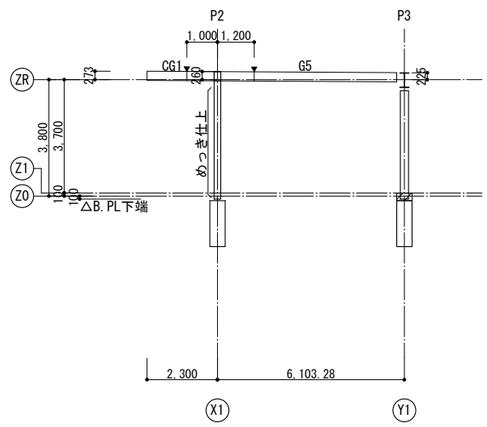
Y1通り軸組図　S=1/100



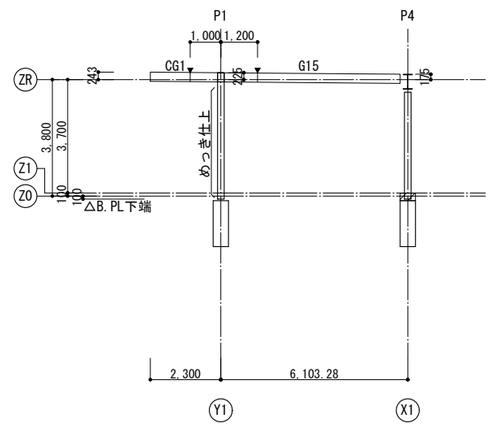
Y2通り軸組図　S=1/100



Y3通り軸組図　S=1/100



A通り軸組図　S=1/100



B通り軸組図　S=1/100

軸組図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）▼ は鉄骨継手位置を示す。

2）▨ は梁上増打部を示す。

3）---- は開口補強材を示す。

2．鉄骨大梁の継手はフランジ・ウェブ共に高力ボルト接合とする。

3．外部に露出する鉄部は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。

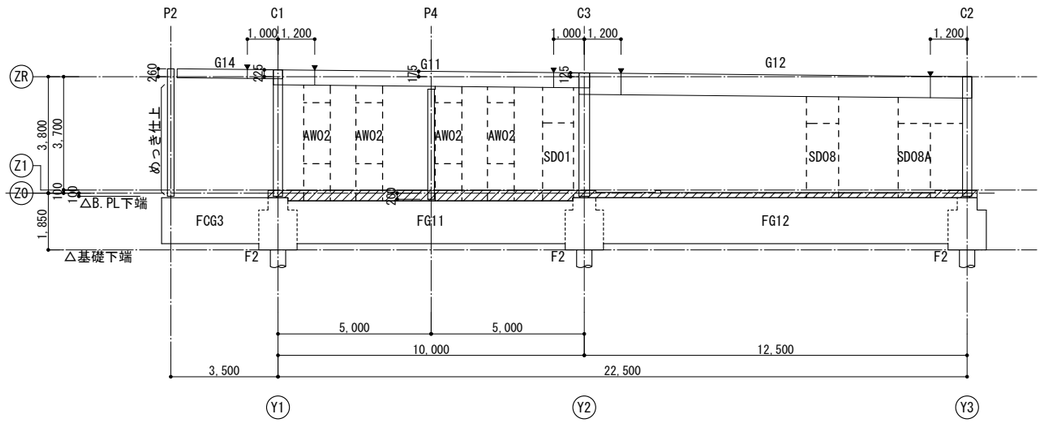
めっき範囲は露出部から隠蔽部へ150mm以上めっき仕上げとする。

4．壁開口補強リスト　　材質：SS400

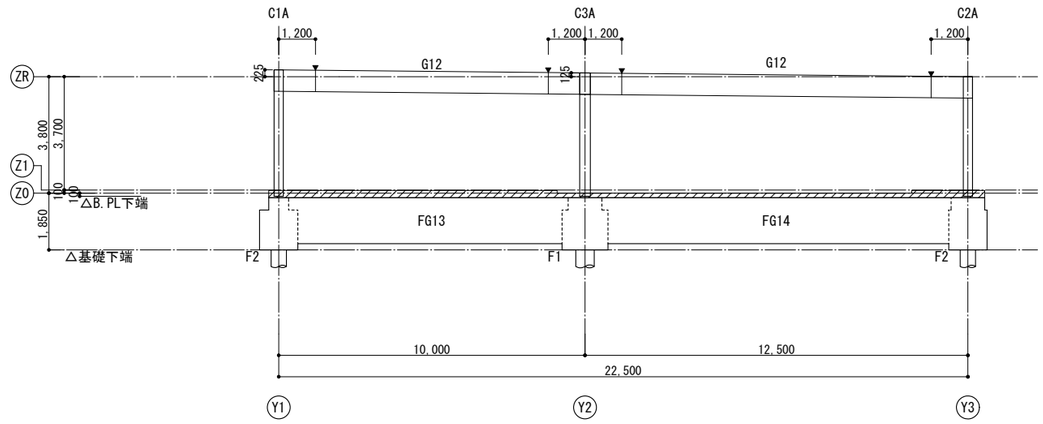
符　号	縦　材	横　材
AW01	L-90x90x10	L-50x50x6
SD01	L-90x90x7	L-50x50x6
SD07	L-100x100x10	L-75x75x9
AW04	L-90x90x10	L-65x65x6

構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

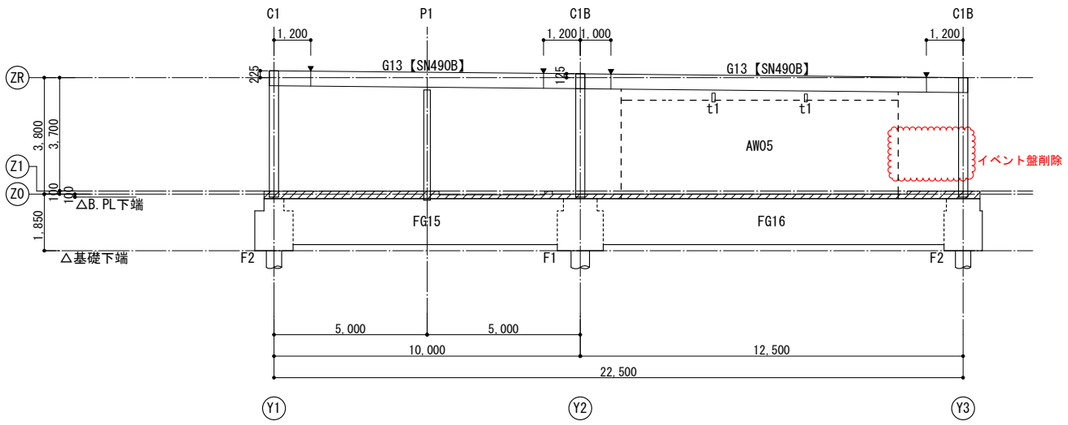
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	軸組図（1）	縮尺	A1：1/100 A3：1/200
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当		令和8年 3月作成
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　常井	図番	S-18



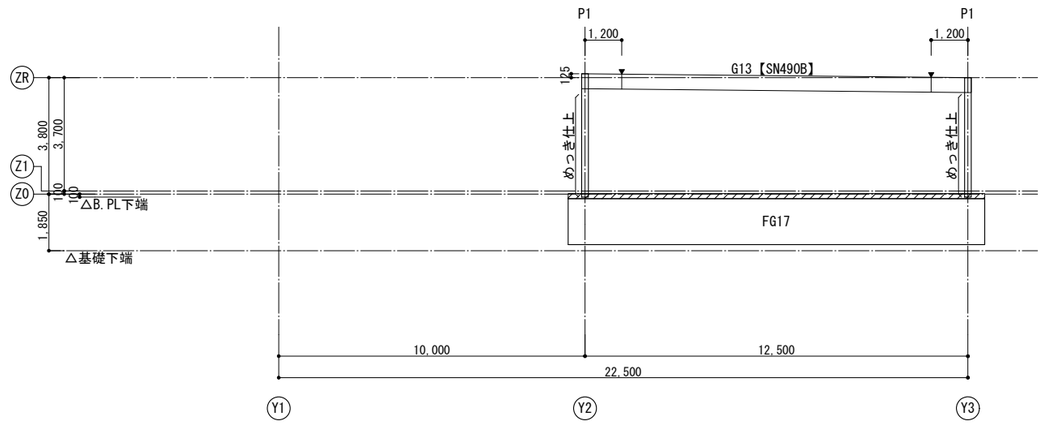
X1通り軸組図　S=1/100



X2通り軸組図　S=1/100



X3通り軸組図　S=1/100



X4通り軸組図　S=1/100

軸組図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）▼ は鉄骨継手位置を示す。

2）▨ は梁上増打部を示す。

3）- - - - は開口補強材を示す。

2．鉄骨大梁の継手はフランジ・ウェブ共に高力ボルト接合とする。

3．外部に露出する鉄部は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。

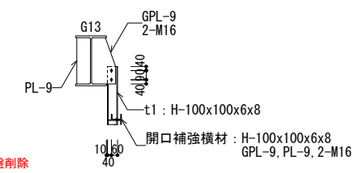
めっき範囲は露出部から隠蔽部へ150mm以上めっき仕上げとする。

4．壁開口補強リスト　　材質：SS400

符　号	縦　材	横　材
AW02	L-90x90x7	L-50x50x6
SD01	L-90x90x7	L-50x50x6
SD08	L-75x75x9	L-50x50x6
SD08A	L-90x90x10（Y2側） L-65x65x6（Y3側）	L-65x65x6
AW05	H-100x100x6x8	H-100x100x6x8(横使い)

イベント盤削除

5．t1仕口要領図



構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	軸組図（2）	縮尺	A1：1/100 A3：1/200
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当		令和8年 3月作成
一級建築士登録336930号 日下部　晃之	中田　岸	図番	S-19

鉄骨大梁断面表

階＼符号	G1		G2		G3		G4, G14		G5, G15	
ZR	全断面	H-488x300x11x18	全断面	H-488x300x11x18【SN490B】	全断面	H-488x300x11x18	全断面	H-294x200x 8x12	全断面	H-300x300x10x15

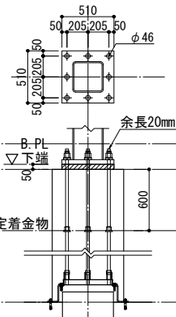
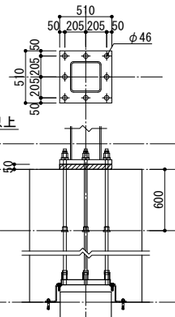
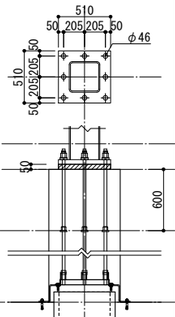
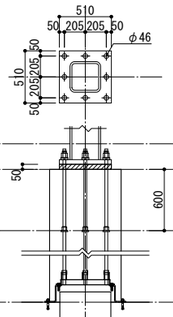
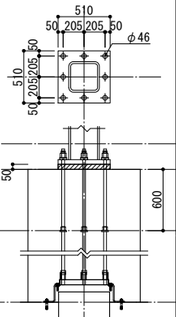
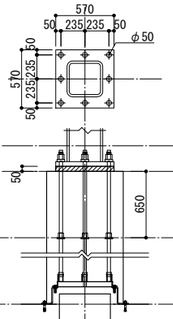
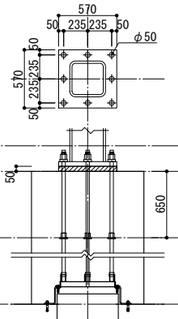
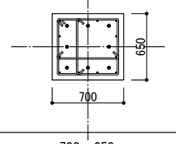
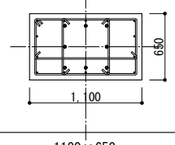
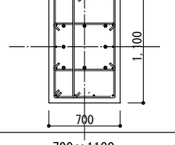
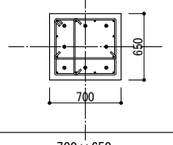
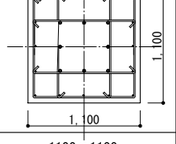
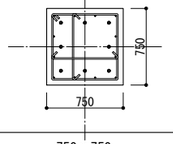
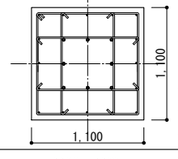
階＼符号	G11		G12		G13		CG1			
ZR	全断面	H-488x300x11x18	端部 中央	SH-700x300x14x28【SN490B】 SH-700x300x14x28【SM490A】	全断面	H-488x300x11x18【SN490B】	全断面	H-300x300x10x15		

梁継手断面表

梁中央部材	梁フランジ			梁ウェブ			備　考
	ボルト n	S.PL-1	S.PL-2	ボルト n x m	P	S.PL-3	
SH-700x300x14x28	9-M20	2PLs-19x300x890	4PLs-22x110x890	2 x 8 = 16-M20	60	2PLs-12x500x290	
H-488x300x11x18	6-M20	2PLs-12x300x620	4PLs-12x110x620	2 x 4 = 8-M20	90	2PLs-12x350x290	SN490B
H-488x300x11x18	4-M20	2PLs-12x300x440	4PLs-12x110x440	2 x 4 = 8-M20	90	2PLs-12x350x290	
H-440x300x11x18	4-M20	2PLs-12x300x440	4PLs-12x110x440	1 x 5 = 5-M20	60	2PLs- 9x320x170	小梁SB440A
H-300x300x10x15	4-M20	2PLs-12x300x440	4PLs-12x110x440	1 x 3 = 3-M20	60	2PLs- 9x200x170	
H-294x200x 8x12	3-M20	2PLs- 9x200x410	4PLs- 9x 80x410	1 x 3 = 3-M20	60	2PLs- 9x200x170	

鉄骨柱断面表

λ：有効細長比の最大値を示す。　　1/30

階＼符号	C1 (λ=35.7)	C1A (λ=34.8)	C1B (λ=34.1)	C2 (λ=37.2)	C2A (λ=34.2)	C3 (λ=33.5)	C3A (λ=31.1)
1階	□-300x300x12	□-300x300x12	□-300x300x12	□-300x300x19	□-300x300x19	□-350x350x22	□-350x350x22
B.PL	B.PL-45x510x510	B.PL-45x510x510	B.PL-45x510x510	B.PL-45x510x510	B.PL-45x510x510	B.PL-45x570x570	B.PL-45x570x570
A.BL	8-D25 (L=600)	8-D25 (L=600)	8-D25 (L=600)	8-D25 (L=600)	8-D25 (L=600)	8-D29 (L=650)	8-D29 (L=650)
柱　脚							
礎　柱							
Dx × Dy	700×650	1100×650	700×1100	700×650	1100×1100	750×750	1100×1100
帯筋建方筋	12-D16(SD295)	14-D16(SD295)	14-D16(SD295)	12-D16(SD295)	16-D16(SD295)	12-D16(SD295)	16-D16(SD295)
帯　筋	田-D13-@150(SD295)	田-D13-@150(SD295)	田-D13-@150(SD295)	田-D13-@150(SD295)	田-D13-@150(SD295)	田-D13-@150(SD295)	田-D13-@150(SD295)
備考	S302508	S302508	S302508	S302508	S302508	S352908	S352908

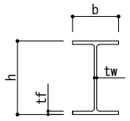
鉄骨大梁断面表、梁継手断面表　共通事項

特記なき限り下記による。

1．材質は、以下による。
　SN400B
　S.PL は、取り合う母材（梁中央材）と同材質とする。

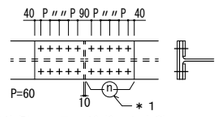
2．使用ボルト
　高力ボルト（S10T,F10T）　M20

3．部材の表示は下記による。



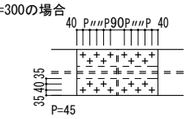
SH-h×b×tw×tf
H-h×b×tw×tf
SH：外法一定H形鋼
H ：JIS規格H形鋼

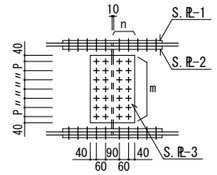
4．剛接合継手要領
　接合部の摩擦面に1mmをこえるはだ隙が生ずる場合は、
　その大きさに適合したフィラープレート（SS400）を用いる。



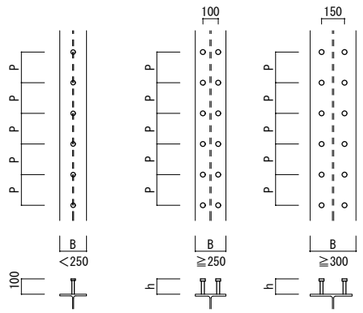
＊1　継手片側のフランジボルト本数

B=300の場合





スタッドコネクタ詳細図



符号	STUD	P
CG1	2-19φ×100	150
G4,G14	1-19φ×100	175
G1, G2, G3, G5, G11, G12, G13, G15	2-19φ×100	200
SB24	1-16φ×100	250
SB440A,SB440B SB448A	2-16φ×100	300
その他の小梁	1-16φ×100	300

※ 床スラブのない部分には取り付けないこと。
※スプライスプレート等により取付られない場合は、その本数を取付けられる部分へ均等に割り付ける。

鉄骨部材断面表

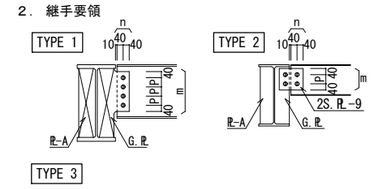
符号	部　材	TYPE	H.T.B n x m	P	G.PL	PL-A	備　考
SB19	H-198x 99x4.5x7	1	1x2-M16	70	6	-	
SB24	H-248x124x5x8	1	1x2-M16	90	6	-	
SB29	H-298x149x5.5x8	1	1x2-M20	120	9	6	
SB29A	H-298x149x5.5x8	2	1x3-M22	80	9	6	二面接合
SB34	H-346x174x6x9	1	1x3-M20	90	9	9	
SB34A	H-346x174x6x9	2	1x3-M20	90	9	9	二面接合
SB39A	H-396x199x7x11	2	1x4-M20	80	9	9	二面接合
SB244	H-244x175x7x11	1	1x2-M20	90	9	-	
SB440A	H-440x300x11x18	2	1x4-M20	90	9	9	SN400B,二面接合
SB440B	H-440x300x11x18	1	1x4-M20	90	9	9	SN400B
SB488A	H-488x300x11x18	2	1x5-M20	90	9	9	二面接合
G4,G14	H-294x200x8x12	1	1x3-M20	70	9	9	ピン接合部
G5,G15	H-300x300x10x15	1	1x3-M20	70	9	9	ピン接合部
P1	○-216.3x8.2	3	-	-	-	-	λ=88.2　STKN490
P2	○-216.3x12.7	3	-	-	-	-	λ=170.4 STKN490
P3	○-267.4x9.3	3	2x3-M20	60	-	-	λ=155.2 STKN490
P4	○-216.3x8.2	3	2x2-M20	120	-	-	λ=190.4 STKN490
t1	H-100x100x6x8	1	2x1-M16	90	9	9	吊材

鉄骨部材　共通事項

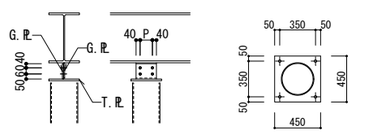
特記なき限り下記による。

1．使用材料
　鉄　骨　　SS400
　高力ボルト（S10T,F10T）　M20,M22

2．継手要領



柱頭(ボルト接合)　　柱脚



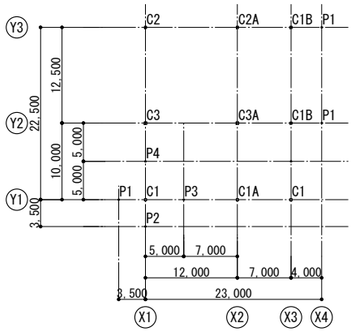
T.PL-16x300x300
G.PL-12x200x150

B.PL-19x450x450 (SN490B)
4-M20 L=500 ﾌｯｸ付
(SS400)

3．外部に露出する鉄部は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。

柱キープラン　　1/400

特記なき限り、通り芯＝柱芯とする。



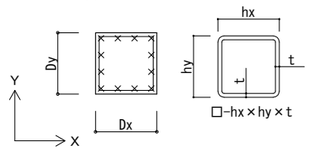
鉄骨柱断面表　共通事項

特記なき限り下記による。

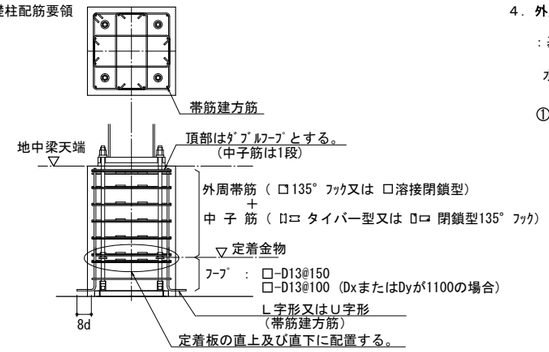
1．材　質

柱	BCR295
ベースプレート	TMCP325B,C
アンカーボルト	ネジ節鉄筋 SD490
柱脚工法	スマートベース工法 同等品 型式は鉄骨柱断面表 備考に示す。

2．断面の表示



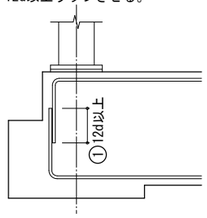
3．礎柱配筋要領



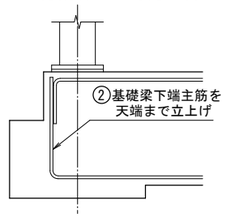
4．外周補強要領

：基礎梁上下主筋
　外柱に接続する基礎梁上下筋の外端部の定着長は、JASS5に準拠し、水平投影定着長さをLa以上、総定着長さをL2以上とする。
　尚、上下主筋の定着端位置は下記の①，②のいづれかとする。

①：基礎梁上下主筋を折曲げ後、12d以上ラップさせる。



②：基礎梁下端筋を柱型頂部まで定着長以上に延長させる。



構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

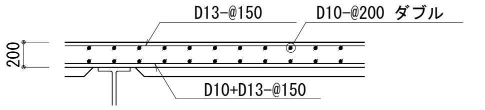
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	鉄骨部材断面表	縮尺	A1：1/30 A3：1/60
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　岸	図番	S-20

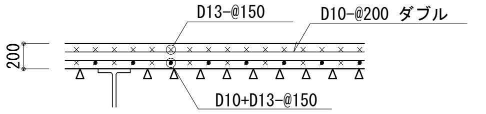
デッキプレート床スラブ断面表

普通コンクリート（ Fc=24N/mm² ）

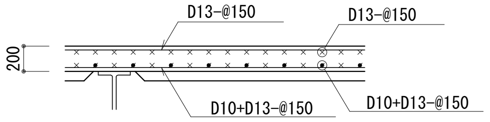
断面（符号／主筋方向／配力筋方向）

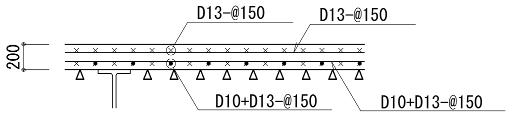
DS1



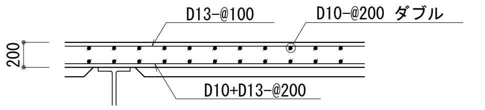


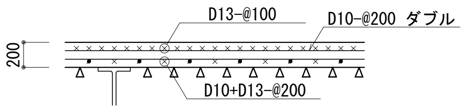
DS1A



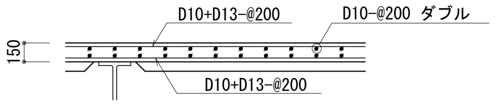


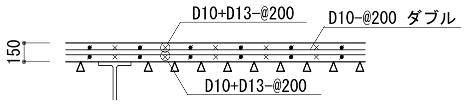
DS2





DS3





床スラブ断面表

普通コンクリート（ Fc=24N/mm² ）

符 号	厚 さ	位 置	主 筋 方 向	配 力 筋 方 向
CS1	200	上 端 筋	D13-@150	D10-@200
		下 端 筋	D10+D13-@150	D10-@200
CS2	200	上 端 筋	D13-@100	D10-@200
		下 端 筋	D10+D13-@200	D10-@200

共 通 事 項

特記なき限り下記による。

1. デッキプレートは下記による。

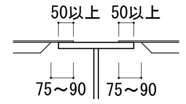
   1）フラット型デッキプレート

   JIS G 3302，3317　JFウェイブデッキ 板厚 1.2mm, 1.4mm 同等品

2. デッキプレートの標準納まり

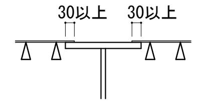
   1）スパン方向の納まり

   A. フラットデッキプレート



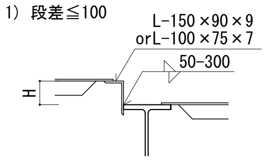
   2）幅方向の納まり

   A. フラットデッキプレート

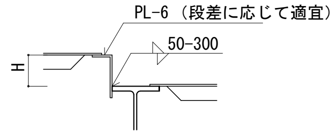


3. デッキプレート段差部

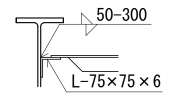
   1）段差≦100



   2）段差≦200程度

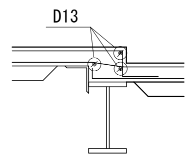


   3）ウェブに取付く場合

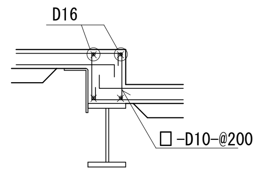


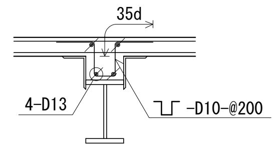
4. デッキプレート段差部の配筋

   1）段差≦100

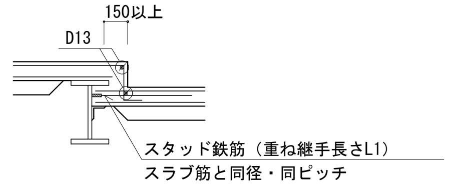


   2）段差≦200程度



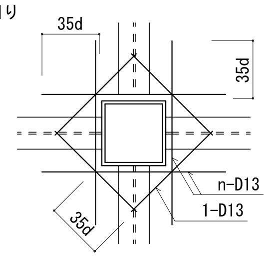


   3）ウェブに取付く場合



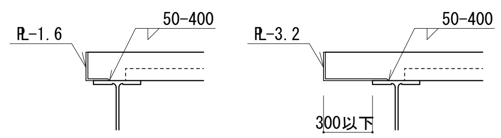
5. デッキスラブの補強要領

   1）柱回り



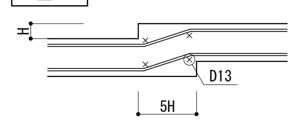
   A：フラット型デッキプレートを使用する床の場合　：n=2

   2）スラブ端部

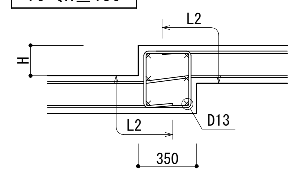


6. 床スラブ段差部の配筋要領

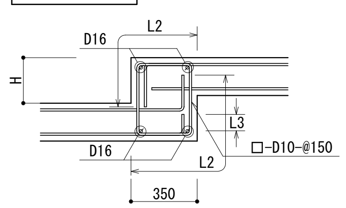
H≦70



70＜H≦150

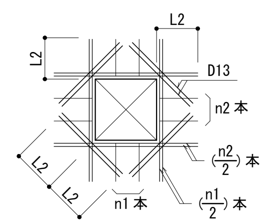


150＜H≦300



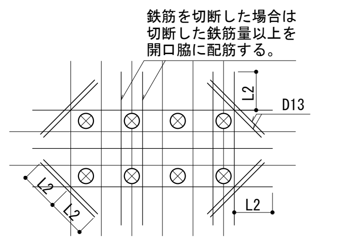
7. 床開口部補強要領

a）床開口の最大径が700mm以下の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（l=L2+L2）シングルを上下筋の内側に配筋する。



b）床開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

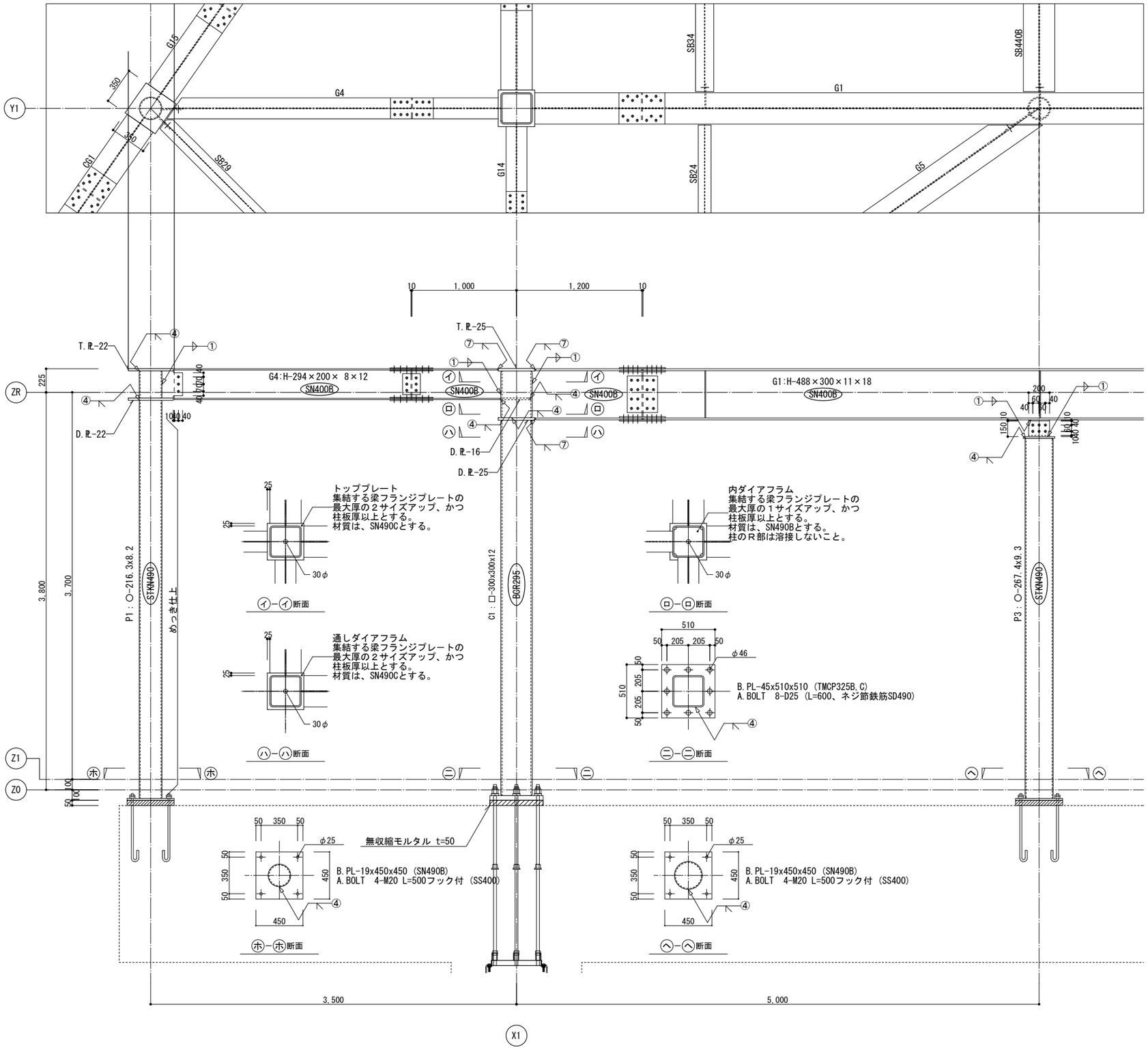
c）設備の小開口が連続してあく場合は、縦・横・斜め補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあきは、100以上とする。

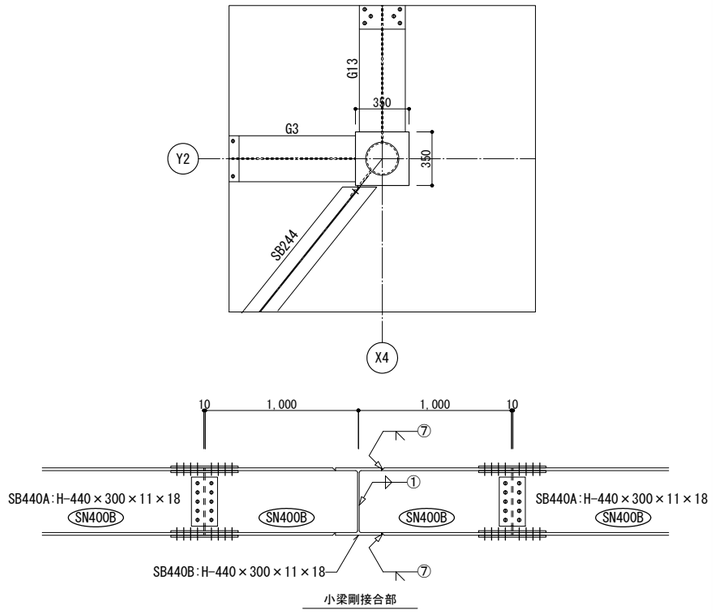


※孔と孔のへりあきは100以上とする。

構造設計者:一級建築士登録 第316092号 中田 亨
構造設計一級建築士交付 第 8811号

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室	
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事
図名	ＺＲ床スラブ断面表
縮尺	A1： 1/30　A3： 1/60
株式会社 日総建 広島事務所 一級建築士事務所 広島県知事登録 25(1)第5127号	
代表となる設計者	一級建築士登録336930号 日下部 寛之
設計担当	中田　櫻井
令和8年 3月作成	
図番	S-21





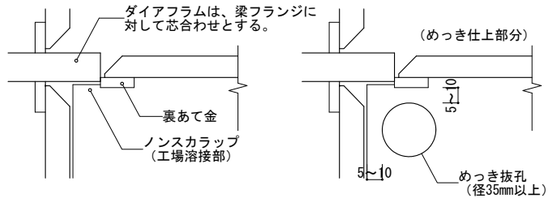
鉄骨加工詳細図　共通事項

特記無き限り下記による。

1．通しダイアフラム及びトッププレートの板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の２サイズアップ以上、かつ柱板厚以上とする。

材質は　通しダイアフラム：SN490C、内ダイヤフラム：SN490B　とする。

2．柱梁接合部スカラップはノンスカラップ工法とする



3．溶接記号は鉄骨構造基準図（１）による。

4．鉄骨仕口部の検査は、建築基準法に基づく告示1464により行うこと。
不具合が生じた場合は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強」マニュアル
：独立行政法人建築研究所監修により行う。

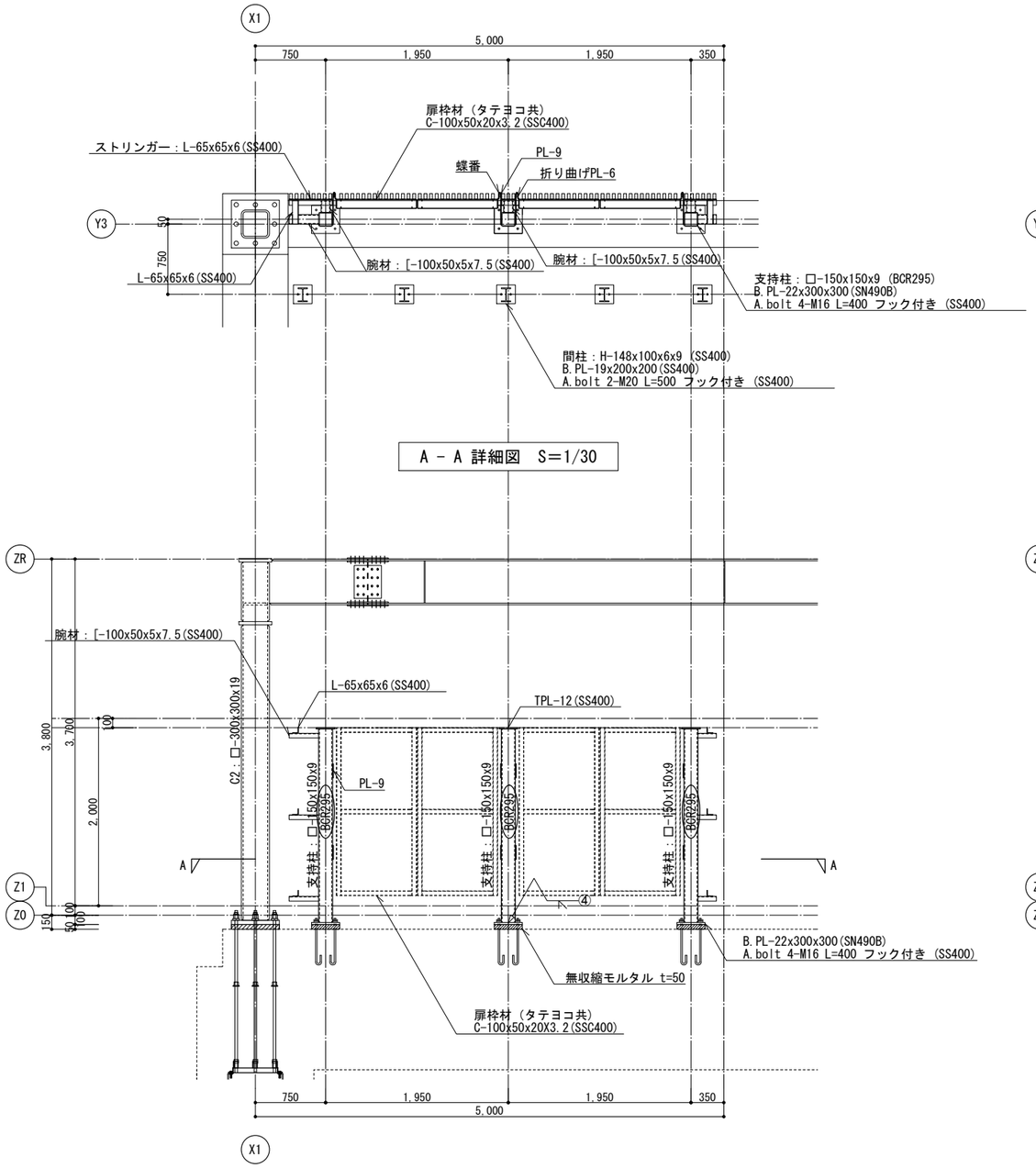
5．下地材取付のために、柱・梁等に現場溶接する箇所には、工場で捨てプレートを取付ける。

6．柱梁接合部にエンドタブを取付ける場合には、裏当て金に取り付ける。
直接母材に組立溶接をしないこと。

7．外部に露出する鉄部は、溶融亜鉛めっき仕上とする。
めっき範囲は露出部から隠蔽部へ150mm以上めっき仕上げとする。

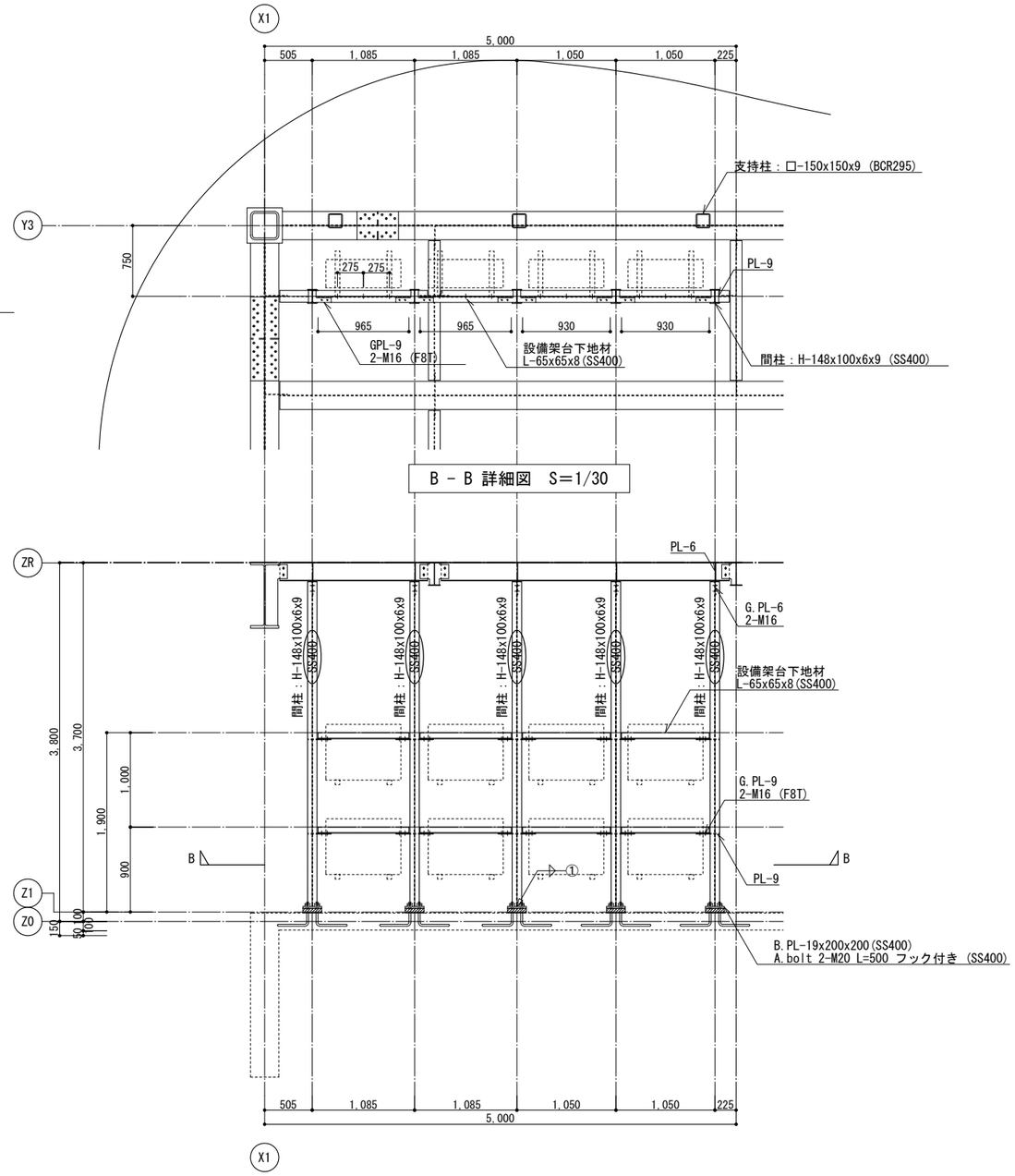
構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	鉄骨加工詳細図	縮尺	A1：1/20 A3：1/40
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　原井	図番	S-22



A － A 詳細図　S＝1/30

Y3通り詳細図　S＝1/30



B － B 詳細図　S＝1/30

Y3-750通り詳細図　S＝1/30

共通事項

特記なき限り下記による。

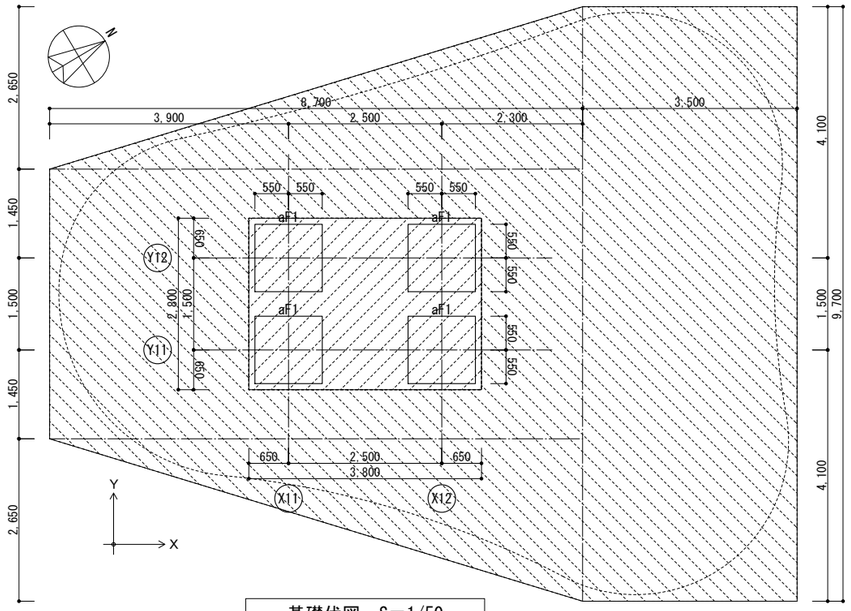
1．外部に露出する鉄部は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
　露出部から隠蔽部へ150mm以上をめっき仕上げ範囲とする。

2．設備架台下地材の位置は設備機器の配置に合わせて決定する。

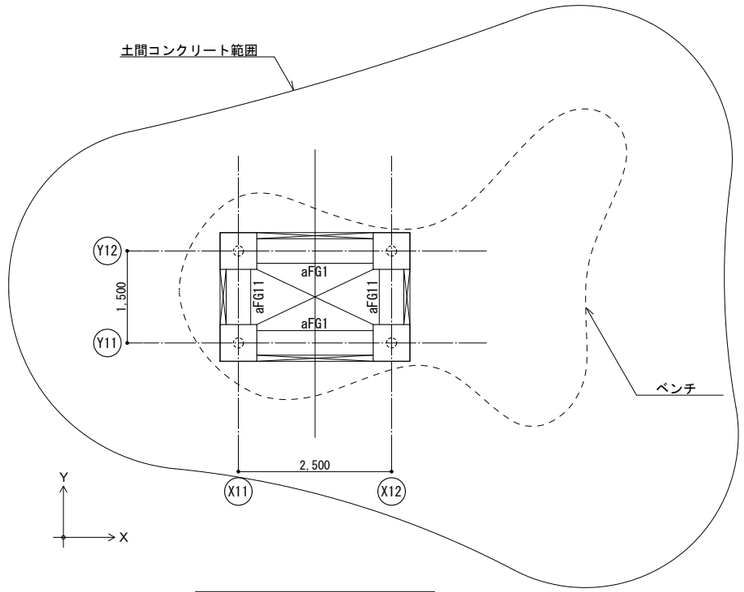
3．鉄骨の材質は SS400 とする。

構造設計者:一級建築士登録　第316092号
構造設計一級建築士交付　第　8811号　中田 亨

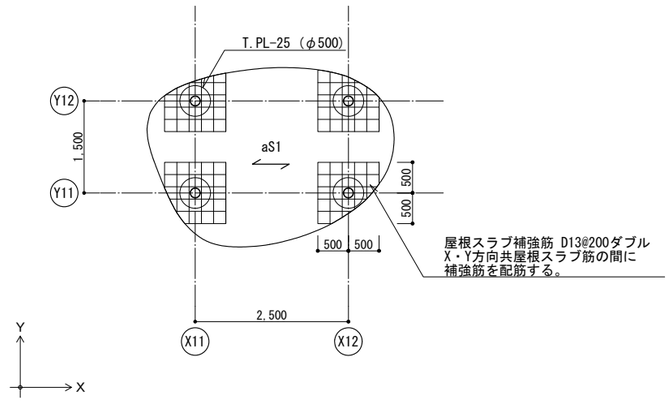
倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	室外機置場詳細図	縮尺	A1：1/20 A3：1/40
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　塚井	図番	S-23



基礎伏図　S＝1/50



Ｚ１床伏図　S＝1/50



ＺＲ床伏図　S＝1/50

基礎伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）　及び　は表層地盤改良範囲を示す。
浅層混合処理工法による表層地盤改良を行う。
配合試験により固化材添加量（50kg/m³以上とする）を最終決定すること。

基礎下：t≧500以上　　その他：t≧750以上　（長期地耐力 50kN/㎡ 以上）

土間コンクリート下：t≧500以上　（長期地耐力 30kN/㎡ 以上）

2．基礎の下端レベル

Z0 -850

Ｚ１床伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）　は埋戻し部を示す。
埋戻し部は十分な締固めを行う。

2．部材の上端レベル

	礎柱	基礎梁
	Z1 -150	Z1 -200

3．ベンチ部は盛土を行い、土間コンクリート(t=150)にて成形する。

ＺＲ床伏図　共通事項

特記なき限り下記による。

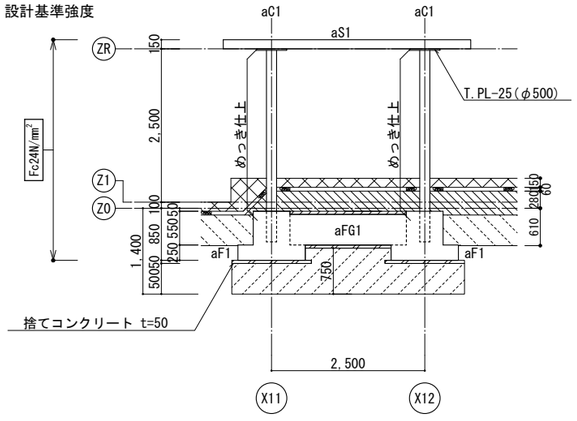
1．図面表示例

1）　は屋根スラブの主筋方向を示す。

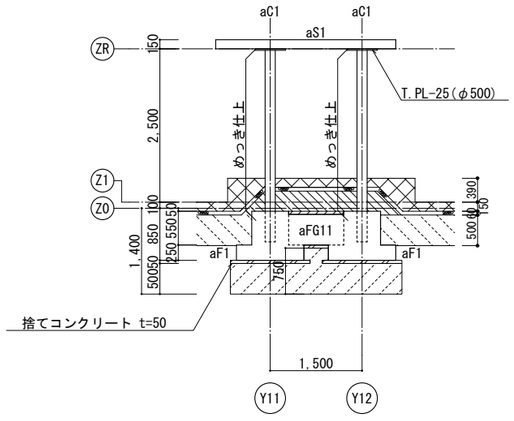
2．部材の上端レベル

	床スラブ	T.PL
	ZR +150	ZR ±0

設計基準強度



Y11・Y12通り軸組図　S＝1/50



X11・X12通り軸組図　S＝1/50

軸組図　共通事項

特記なき限り下記による。

1．図面表示例

1）　及び　は表層地盤改良範囲を示す。

2）　は梁増打ち範囲を示す。

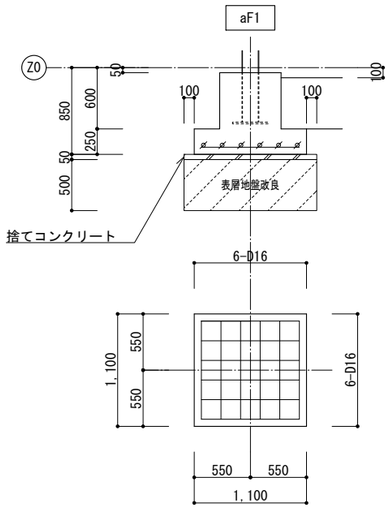
3）　は盛土範囲を示す。

2．外部に露出する鉄部は溶融亜鉛めっき仕上げとする。
めっき範囲は露出部から隠蔽部へ150mm以上めっき仕上げとする。

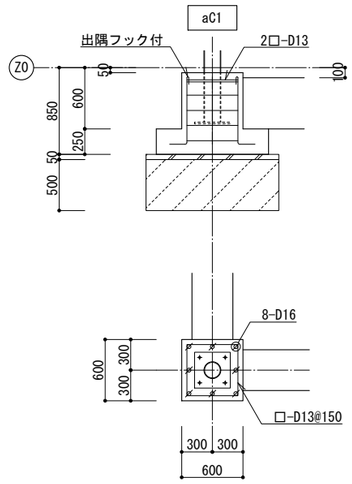
構造設計者:一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号 中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	あずま屋 伏図、軸組図	縮尺	A1： 1/50 A3： 1/100
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　寛之	中田　塚本	図番	S-24

基礎断面表　S=1/30

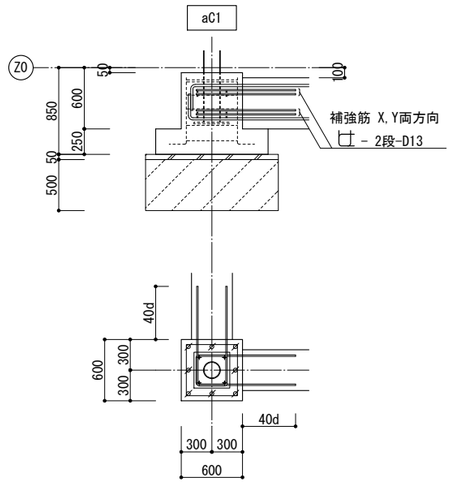


礎柱断面表　S=1/30

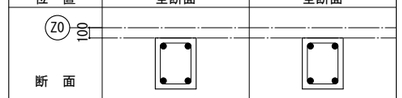


※礎柱の柱頭部帯筋は二重巻きとする。

柱脚補強要領　S=1/30



基礎梁断面表　S=1/30

符　号	aFG1	aFG11
位　置	全断面	全断面
断　面		
b x D	400 x 500	400 x 500
上端筋	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	2-D19
あばら筋	□-D13-@250	□-D13-@250
備考		

符　号		
位　置		
断　面		
b x D		
上端筋		
下端筋		
あばら筋		
備考		

符　号		
位　置		
断　面		
b x D		
上端筋		
下端筋		
あばら筋		
備考		

基礎梁断面表　共通事項

特記なき限り下記による。

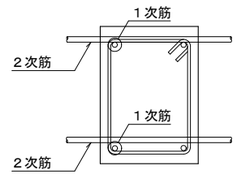
1. b × D

2. 鉄筋の材質　　D13～D16：SD295
　　D19～D25：SD345

3. あばら筋　□-D13-@250

　幅止め筋　D10-@1,000以内

4. 鉄筋位置
　梁主筋位置は下表による。
　１次筋の上に配置する主筋を２次筋とする。

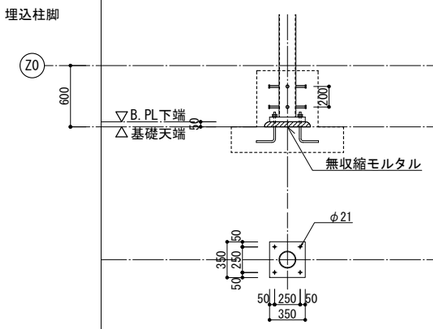


	方向
１次筋	Y方向
２次筋	X方向

屋根スラブ断面表

符 号	厚 さ	位置	主筋方向 全断面	配力筋方向 全断面	備　考
aS1	150	上端筋	D13-@200	D13-@200	在来型枠工法
		下端筋	D13-@200	D13-@200	

鉄骨柱断面表　S=1/30　　λ：有効細長比の最大値を示す。

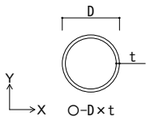
階 ＼ 符 号	aC1 (λ=80.3)	
1階	○-165.2x6	
埋込柱脚		
B.PL	B.PL-16x350x350	
建方用A.BL	4-D16 (L=400)	
備考	STUD 8(4x2段)-16φ h=100	

鉄骨柱断面表　共通事項

特記なき限り下記による。

１．材　質
　柱　　STKN490
　ベースプレート　SN490B
　アンカーボルト　SS400

２．断面の表示

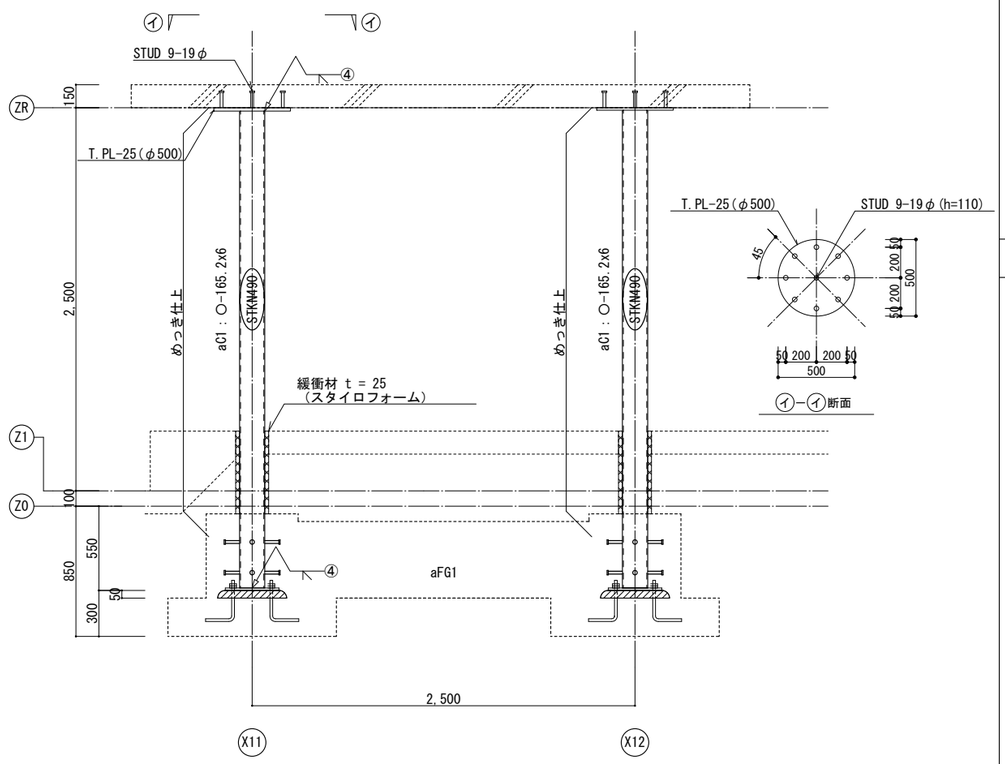


○-D×t

３．鉄筋の材質　　D13～D16：SD295

４．外部に露出する鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

Y11通り鉄骨加工詳細図　S=1/20



鉄骨加工詳細図　共通事項

特記無き限り下記による。

１．材質は　トッププレート：SN490C とする。

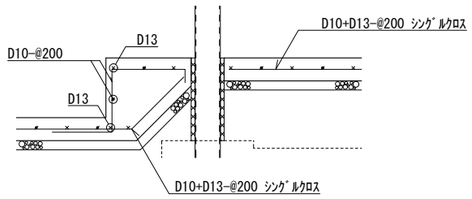
２．溶接記号は鉄骨構造基準図（１）による。

３．下地材取付のために、柱・梁等に現場溶接する箇所には、工場で
　捨てプレートを取付ける。

４．外部に露出する鉄部は、溶融亜鉛めっき仕上とする。
　めっき範囲は露出部から隠蔽部へ150mm以上めっき仕上げとする。

土間コンクリート配筋要領

コンクリート設計基準強度：Fc18N/mm²
スランプ：15cm



構造設計者:一級建築士登録 第316092号
構造設計一級建築士交付 第 8811号　中田 亨

倉敷市ボートレース事業局新施設整備推進室			
工事名	ボートレース児島パークエリア建屋ほか建築工事		
図名	あずま屋 部材断面表、鉄骨加工詳細図	縮尺	A1：1/20,30 A3：1/40,60
株式会社　日総建　広島事務所 一級建築士事務所　広島県知事登録　25(1)第5127号			
代表となる設計者	設計担当	令和8年 3月作成	
一級建築士登録336930号 日下部　晃之	中田　岸	図番	S-25